

「岩手の幸福に関する指標」研究会報告書
別冊参考資料

平成 29 年 9 月

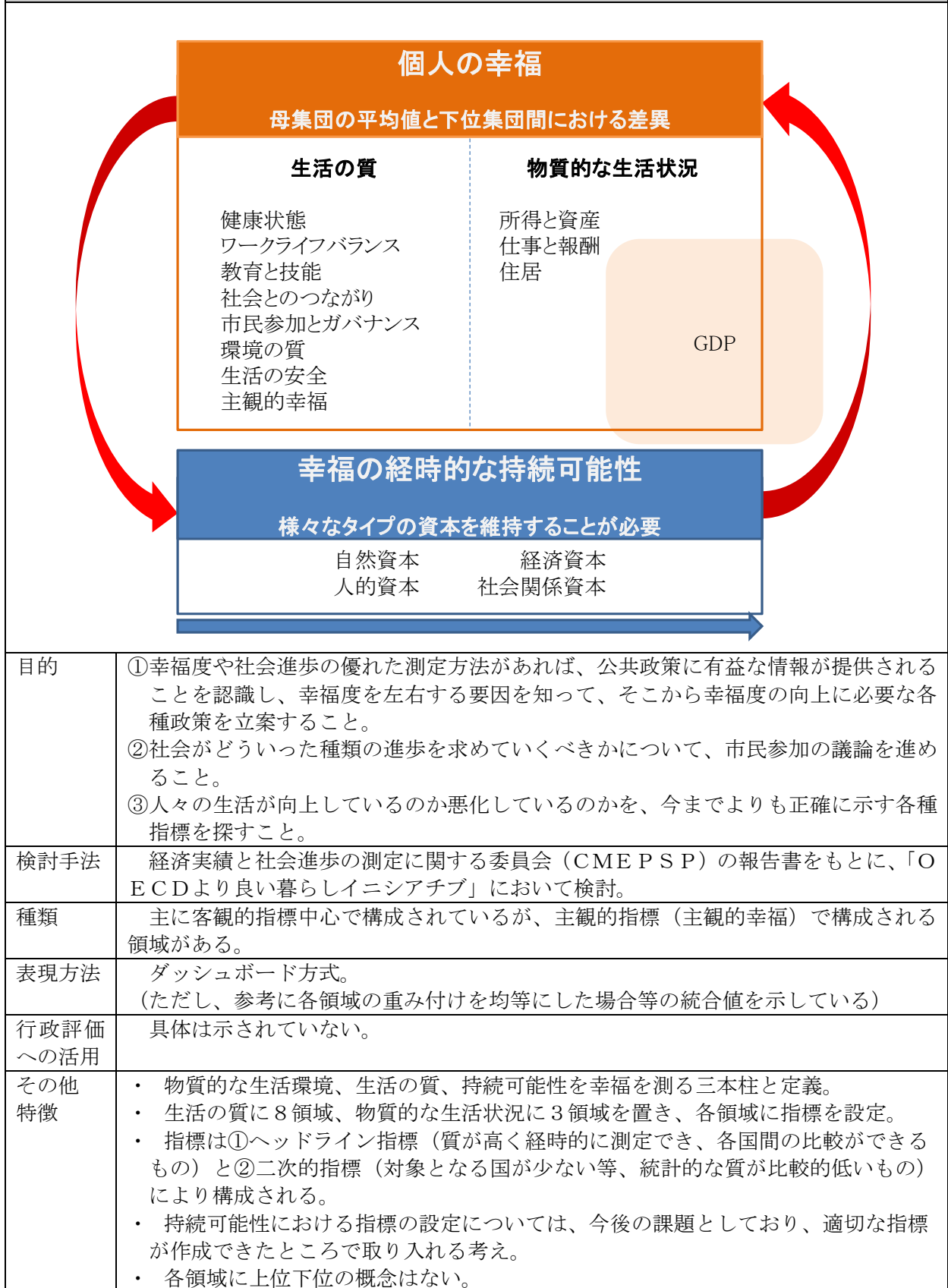
目次

参考資料 1	先行事例等	1
参考資料 2	幸福について考えるワークショップの概要	15
参考資料 3	幸福について考えるワークショップ手引き	23
参考資料 4	平成 28 年及び平成 29 年「県の施策に関する県民意識調査」調査票	41
1	平成 28 年調査票	43
2	平成 29 年調査票	52
参考資料 5	平成 28 年及び平成 29 年「県の施策に関する県民意識調査」の分析結果	65
	はじめに	67
第 1 章	主観的幸福感について	69
1	設問	
2	集計結果	
(1)	県全体	
(2)	性別集計	
(3)	居住地別集計	
(4)	年齢階層別集計	
(5)	職業別集計	
(6)	世帯構成別集計	
(7)	子どもの人数別集計	
第 2 章	幸福を判断する際に重視した項目について	75
1	設問	
2	集計結果	
(1)	県全体	
(2)	属性別順位	
(3)	性別集計	
(4)	年齢階層別集計	
(5)	主観的幸福感の評価結果別集計	
(6)	その他重視した項目として挙げられたもの	
第 3 章	領域別実感について	82
1	設問	
2	集計結果	
(1)	県全体	
(2)	属性別集計	
(3)	主観的幸福感との相関	

第4章 協調的幸福感について	85
1 設問	
2 集計結果	
(1) 県全体	
(2) 男女別集計	
(3) 世代別集計	
(4) 主観的幸福感等との相関	
第5章 ソーシャル・キャピタルについて	88
1 設問	
(1) ソーシャル・キャピタルに関する行動等の調査	
(2) ソーシャル・キャピタルに対する実感の調査	
2 集計結果	
(1) ソーシャル・キャピタル指数	
(2) 各設問の集計結果	
① 県全体	
② 属性別結果	
(3) ソーシャル・キャピタルに対する実感	
(4) 主観的幸福感等との相関	

先行事例等

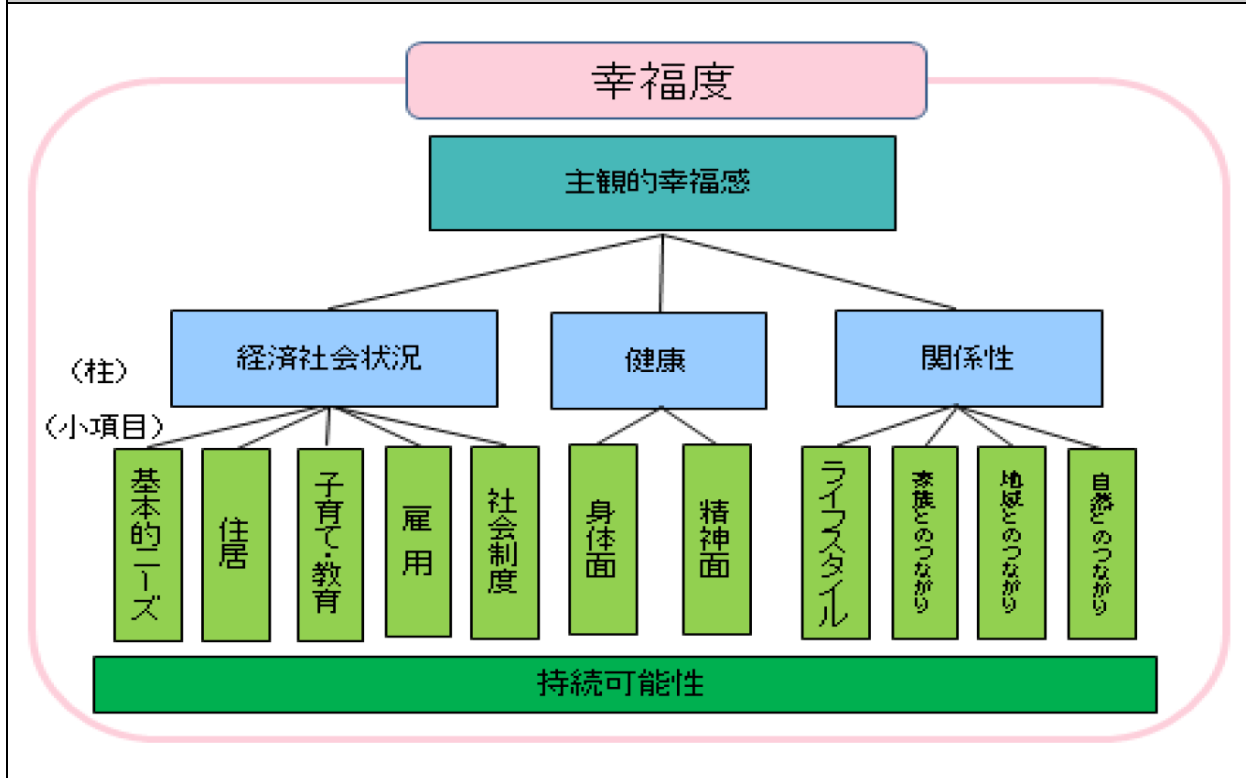
OECD「より良い暮らし指標 (Better life index : B L I)」



出所：OECD (2012) 『OECD 幸福度白書』明石書店。

OECD (2015) 『OECD 幸福度白書2』明石書店。

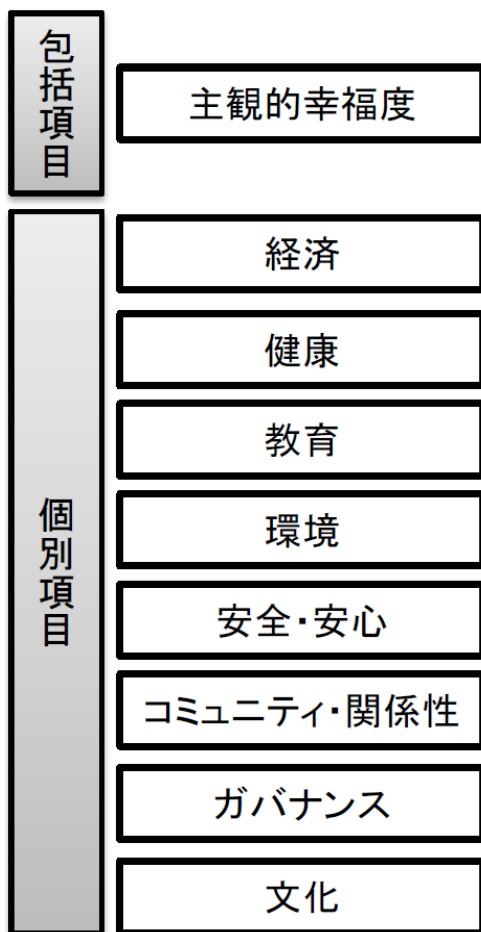
内閣府「幸福度指標試案」



目的	<p>①日本における幸福度の原因・要因を探り、国、社会、地域が人々の幸福度を支えるにあたり良い点、悪い点、改善した点、悪化した点は何かを明らかにすること。</p> <p>②自分の幸せだけでなく、社会全体の幸せを深めていくため、国、社会、地域が目指す姿を議論し、考えを深めるための手がかりを提供すること。</p>
検討手法	<p>平成 22 年 12 月に「幸福度に関する研究会」発足。</p> <p>平成 23 年 12 月に「幸福度に関する研究会報告」として幸福度指標試案を公表。</p>
種類	主観的指標と客観的指標を併用している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	具体は示されていない。
その他特徴	<ul style="list-style-type: none"> 主観的幸福感を中心に、経済社会状況、健康、関係性の 3 本柱で体系化。別途、現代世代の幸福感が将来世代の幸福度の犠牲の下に進むのは望ましくないという観点から、持続可能性を全体にかかる項目としている。 現在既存統計で把握できていない指標についても、幸福度を捉えるのに不可欠なものは、それを含めて提案している。 社会状況の診断書として幸福度指標を活用するため、統合指標を策定せず個々の指標毎に判断する。 ライフステージの違いを勘案して指標を選択している。

出所：内閣府（2011）『幸福度に関する研究会報告 ―幸福度指標試案―』。

(公財) 東北活性化研究センター「幸福度指標」



目的	東北の暮らしの豊かさを再定義するとともに、東北の幸福度を客観的に評価できる指標により、多様な価値にもとづく持続可能な暮らしと社会を実現していくための指針を明示する。
検討手法	東北活性化研究センター、自治体及び専門家で構成される、幸福度定量化研究会にて検討し、平成 24 年 3 月に中間報告書を公表。 平成 24 年度には福島県会津美里町をモデルケースとして指標化を検討し、政策評価ツールとしての活用可能性を検証し、平成 25 年 3 月に報告書を公表。
種類	主観的指標と客観的指標を併用している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	具体は示されていない。
その他特徴	<ul style="list-style-type: none"> 上位に包括項目として主観的幸福度を、下位に個別の 8 項目を置き、各項目ごとに指標を設定している。 東北の幸福度を捉える上でより重きを置く点を、次のとおりとしている。 個人よりも地域としての幸福度を高めていくことに重きを置く。 共助社会構築に向け、意識醸成を図るツールとして活用する。 定量化した幸福度を政策へ反映させていく。 国や地域間の相対比較よりも、人々の意識（立ち位置）の把握と過去への振り返りが可能となるよう、経年変化分析を視野に入れる。 住民や行政が地域の幸福度について考え、それを高めていくプロセスを共有化する。

出所：公益財団法人東北活性化研究センター（2012）『幸福度の定量化に関する調査研究 中間報告書』。

公益財団法人東北活性化研究センター（2013）『幸福度の定量化に関する調査研究 報告書』。

ふるさと知事ネットワーク（幹事：福井県）「ふるさと希望指数（LHI）」

仕事

やりがいのある仕事に就き、一定水準の収入を得ることが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】

- 就業している
- 正規の職員・従業員として働いている
- 世帯当たりの収入が高い
- 仕事のためのスキルアップや自己啓発を行っている



家族

お互いに信頼し、支え合うことのできる家族を持つことが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】

- 結婚して新しい家族を持つ
- 子どもを持つ
- 家族でコミュニケーションがとれている
- 夫婦のワークライフバランスがとれている



健康

子どもから高齢者まで、健康で元気に暮らしていけることが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】

- 病気やけがなどがなく健康である
- 健康に長生きする
- 健康の維持に努めている
- 子どもの基礎体力が高く元気である



教育

学力や教養、社会性や挑戦力などを身につけ伸ばすことが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】

- 子どもの学力が高い
- 子どもの道徳心や社会性が高い
- 子どもが夢や目標を持って物事に挑戦している
- 大学等の高等教育機関で学ぶ



地域・交流

地域に魅力（誇り）を感じ、社会貢献活動や地域活動などを通じて、地域や他者とのつながりを持つことが、人々の「希望」につながる

【希望につながる主な要素】

- 社会貢献活動に参加している
- 子どもが地域行事に参加している
- 学校や職場だけでなく、様々な人々と交流している
- 犯罪や交通事故が少なく、安全・安心な地域である



目的	<p>①行動重視…行政が政策により個人の「行動」をバックアップし、「希望」につながる要素を達成することで、人々の「希望」の向上につなげる。</p> <p>②主観的充足感への着目…自分自身が生き方を選択して参画しているという主観的な充足感を高めることにより、人々の「希望」の向上につなげる。</p> <p>③「希望」を見える化…人々の「希望」がどのような要素から生まれるのかを明らかにし、人々の「希望」につながる要素を抽出する。</p> <p>④未来志向…現在だけでなく、将来や次の世代が良くなることを願う「希望」を持ち、暮らしやすく豊かな未来を自らがつくり上げる。</p>
検討手法	「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」の共同研究プロジェクトとして、「希望」を政策の対象とする研究を実施（平成22年～25年）
種類	客観的指標のみで構成している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	評価は行っていないが、政策形成への参考とするため、各県の先進政策を希望の政策バンクとして蓄積している。
その他特徴	<p>・ 東京大学社会科学研究所の「希望学プロジェクト」の知見をもとに、希望を左右する分野として、「仕事」、「家族」、「健康」、「教育」、「地域・交流」の5分野を中心として構成。30の指標を設定している。</p> <div style="text-align: center;"> <p>The diagram illustrates a flow from 'Action' (行動) to 'Well-being' (幸福) and 'Future Happiness' (将来も幸福). 'Action' is linked to 'Health-maintaining actions' (健康維持に努める様々な行動) and 'Hope' (希望). 'Hope' is defined as 'Living healthily without illness or injury, and wanting to live happily with grandchildren' (病気やけががなく健康に長生きし、孫と楽しく暮らしたい). 'Well-being' (幸福) is defined as 'Health and vitality' (病気やけががなく元気(健康実感)).</p> </div>

出所：自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク ふるさと希望指数（LHI）研究プロジェクト（2012）『ふるさと希望指数（LHI:Local Hope Index）研究報告書』。

自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク ふるさと希望指数（LHI）研究プロジェクト（2014）『ふるさと希望指数（LHI:Local Hope Index）共同プロジェクト（第二期）報告書』。

富山県「とやま幸福度関連指標」

柱	指 標	富山県数値	順位	柱	指 標	富山県数値	順位		
主観的 幸福感	主観的幸福感(今後、調査)			住居・ 居住環境	都市公園の面積 (都市計画区域内人口比)	14.5㎡	10		
	基本的 ニーズ	生活保護被保護実人員比率	2.5%		1	低床バス導入割合	28.1%	11	
		食料自給率	77%		11	市街地の道路網密度	1.86km	13	
		食品表示が適正な店舗の割合	95.2%			高速道路の利用しやすさ	20IC		
		自主衛生管理に関する講習会(食の 安全アカデミー)の受講者数(累計)	25人			道路の走りやすさ割合	67.8%	10	
		消費生活相談解決率	98.7%			市街地ゆとり歩道割合	77.6%		
		1世帯当たり負債現在高	437万円		20	良好な景観形成が必要な道路の無 電柱化率	50.1%		
		1世帯当たり貯蓄現在高	1,701万円		20	冬期走行しやすさ割合	51.1%		
		経済社会状況	住み良さに関する意識(今後、調査)				教育・ 子育て	合計特殊出生率	1.42
	持ち家比率		78.3%		1	産婦人科・産科医数(出生千人当たり)		12.1人	6
	1人当たり量数		17.62量	1	小児科医数(小児人口1万人当たり)	11.1人		6	
	下水道普及率		78.6%	8	授業が分かると答える生徒の割合	60.1%			
	住宅の耐震化率		68%		県立学校の耐震化率	71.5%			
	高齢者が居住する住宅のバリアフ リー化率		40%	4	子どもの教育において、家庭が役 割を果たしていると思う人の割合	10.6%			
	刑法犯認知件数(人口1万人当たり)		61.1件	6	いじめの認知件数(千人当たり)	小5.8件 中9.2件			
	交通事故発生件数(人口1万人当 たり)		47.2件	16	保育所入所待機児童数	0人		1	
	気管挿管及び薬剤投与が可能な救 急救命士数		77人		病児・病後児保育事業実施箇所数	57か所			
	目的		県政の最終的な目標は県民の幸せの充実であり、県民の幸福度を高めるための環境整備を 図っていくため、幸福に関連する150の指標を選定。 結果を参考に、行政の進むべき方向を見極めるための道しるべとして位置付けている。						
	検討手法	内閣府及び法政大学の事例を基に、富山県において選定し、県総合計画「新・とやま創 造計画」において試みに提示したもの。							
	種類	主観的指標と客観的指標を併用している。							
表現方法	ダッシュボード方式								
行政評価 への活用	指標を参考にしながら、県の強みをさらに磨き伸ばし、弱い点は克服して、県民の幸福 度を高めるための政策を積極的に展開し、県の魅力のPRやイメージアップにつなげてい くとしている。								
その他 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ あくまでも県民の幸福度を測るための一つの尺度としている。 ・ 総合計画と指標の領域を一致させていない。 								

出所：富山県（2012）『富山県総合計画 新・元気とやま創造計画』。

京都府「京都指標」

京都指標「府民意識調査(平成27年6月実施)」の結果一覧

	質問項目	性別※	割合		推移		(参考) 25年度 (割合)	
			○ 70%以上 × 30%以下	(○増、×減、 —横ばい)	26年度 (割合)			
府民 安心の 再構築	子育てに喜びややりがいを感じている親の割合	こころ	94	○	×	96	95	
	子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合	絆	81	○	×	87	83	
	住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う人の割合	社	78	○	×	81	80	
	子どもが将来に夢を持っていると思う親の割合	こころ	82	○				
	子どもの有無にかかわらず、子どもの社会体験活動への協力など、何らかの形で子どもに関する活動に参画している人の割合	絆	31					
	キャリアアップや趣味に関する生涯学習等に取り組んでいる人の割合	こころ	45		○	44	46	
	仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合	こころ	75	○	—	75	80	
	希望する「働き方」(正社員、派遣社員、パート、アルバイト、自営など)で働くことができる人の割合	社	78	○				
	規則正しい食事や運動など、健康づくりに取り組んでいる人の割合	こころ	71	○	×	74	72	
	病氣やけがで困ったときに気軽に相談できるかかりつけ医がいる人の割合	社	61		○	60	60	
	住んでいる地域に、最寄りの診療機関またはかかりつけ医へ行くための交通手段(電車、バス等)が十分に整っていると思う人の割合	社	72	○	○	69	69	
	障害のある人となし人がともに交流したり、活動する場に参加している人の割合	絆	17	×	×	18	20	
	趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある高齢者の割合	こころ	61		○	60	64	
	家族の介護に負担や苦痛を感じていない家族介護者の割合	こころ	50		○	45	48	
	地域 共生の 実現	住んでいる地域は、高齢(者)になっても暮らしやすい体制(医療、福祉のほか社会生活全般)が十分に整っていると思う人の割合	社	54				
地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合		絆	25	×	×	27	24	
地震や大雨などによる災害に備えて、避難場所の確認や非常持ち出し品の備蓄などを行っている人の割合		こころ	32		—	32	29	
日々の生活の中で、身体の状況、性別、その他について、差別、虐待、誹謗中傷などにより不快な思いをしたことのない人の割合		社	85	○				
この1年の間にインターネット(フェイスブックやツイッターなど)によって、いじめ、誹謗中傷をされたことのない人の割合		社	98	○				
地域のさまざまな課題に対応する団体(自治会、NPOなど)の活動に参画している人の割合		絆	30	×	○	22	26	
府や市町村の実施する府民協働の取組や、事業提案・パブリックコメントに対する意見提出など、行政のさまざまな取組に何らかの形で参画している人の割合		絆	11	×	○	10	13	
困ったときに気軽に頼れるご近所さんがいる人の割合		絆	45		×	51	50	
住んでいる地域に、にぎわいや活気があると思う人の割合		社	44					
地域の祭りや伝統行事などに参画している人の割合		絆	42		—	42	42	
今の社会(家庭・職場・地域社会などのさまざまな場)は、性別によってやりたいことが制限されていると思わない人の割合		社	57					
住んでいる地域について、個性や魅力を感じている人の割合		社	54		×	62		
住んでいる地域に、社会生活を送るのに必要な基盤(学校、病院、買い物の場、就業の場などや公共交通機関)が十分に整っていると思う人の割合		社	73	○	—	73	77	
目的		総合計画「明日の京都」に掲げた施策指標の達成が、「府民のしあわせの実感」という本質的な目標にかなっているか、府政運営の方向性が府民意識とかけ離れたものになっていないかなどについて点検するために、府民の意識や満足度なども取り入れた指標を設定したものの。						
検討手法		—						
種類	主観的指標と客観的指標を併用している。							
表現方法	ダッシュボード方式							
行政評価への活用	総合計画の実施状況を示すベンチマークレポートにおいて、京都指標の推移についても示し、今後の対応の検討に活用している。							
その他特徴	<ul style="list-style-type: none"> 統計データと府民意識調査の結果から構成されている。 主観的な側面を持つ指標であるため、遠い未来にわたって確定的な指標を設定することは困難なことから、社会情勢や府民の皆様の意識の変化等を考慮しながら、柔軟に見直していくこととしている。 総合計画と指標の領域を一致させている。 「着物を着用している人の割合」等、京都ならではの指標が含まれている。 							

出所：京都府（2015）『ベンチマークレポート＜「明日の京都」実施状況報告書＞』。

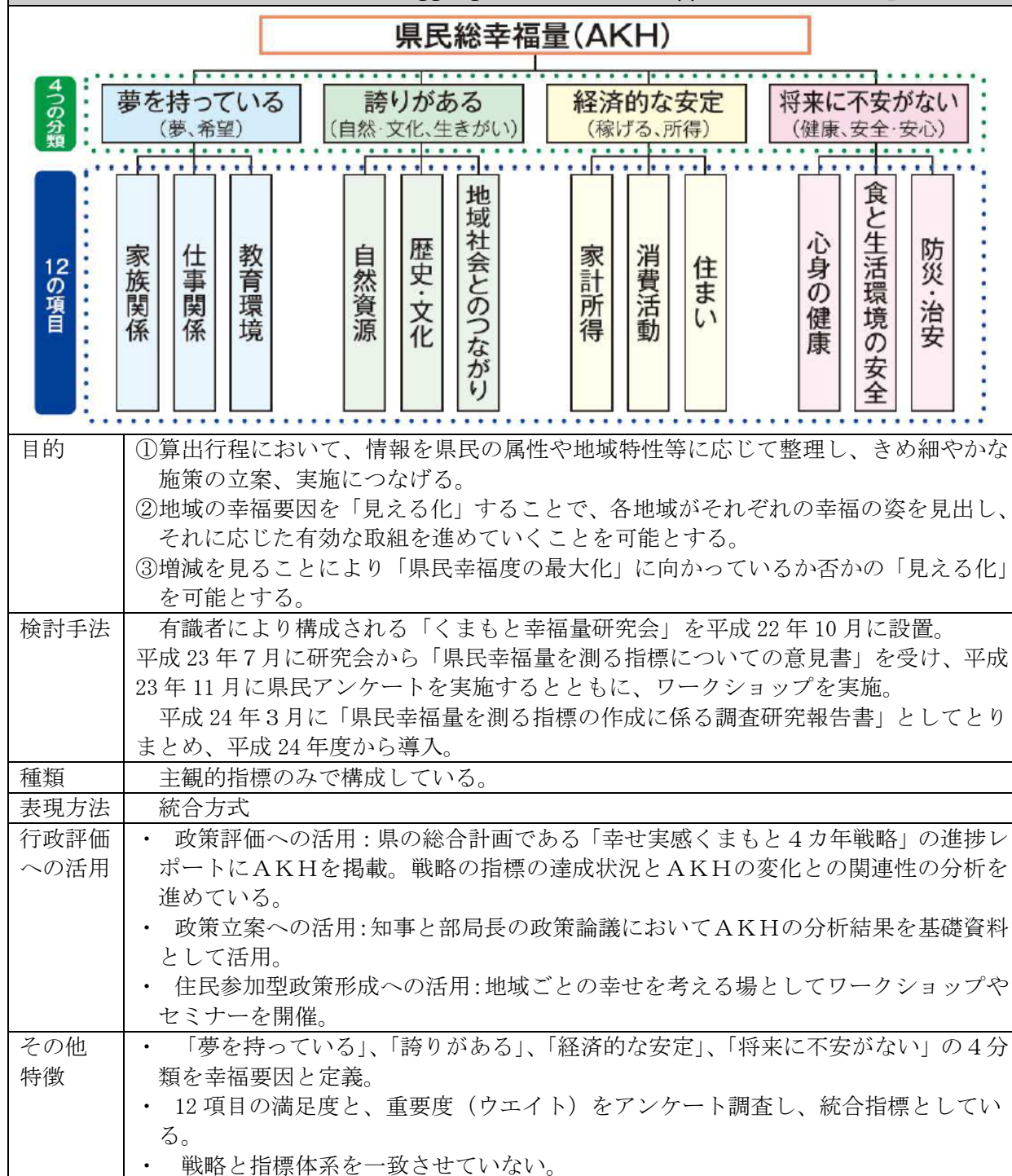
三重県「幸福実感指標」

問2	幸福実感指標	関連する政策分野
(1)	災害等の危機への備えが進んでいると感じる県民の割合	危機管理
(2)	必要な医療サービスが利用できていると感じる県民の割合	命を守る
(3)	犯罪や事故が少なく、安全に暮らしていると感じる県民の割合	暮らしを守る
(4)	必要な福祉サービスが利用できていると感じる県民の割合	共生の福祉社会
(5)	身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じる県民の割合	環境を守る持続可能な社会
(6)	一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じる県民の割合	人権の尊重と多様性を認め合う社会
(7)	子どものためになる教育が行われていると感じる県民の割合	教育の充実
(8)	地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合	子どもの育ちと子育て
(9)	スポーツを通じて夢や感動が生まれていると感じる県民の割合	スポーツの推進
(10)	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じる県民の割合	地域との連携
(11)	文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができると感じる県民の割合	文化と学び
(12)	三重県産の農林水産物を買いたいと感じる県民の割合	農林水産業
(13)	県内の産業活動が活発であると感じる県民の割合	強じんて多様な産業
(14)	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じる県民の割合	雇用の確保
(15)	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じる県民の割合	世界に開かれた三重
(16)	道路や公共交通機関等が整っていると感じる県民の割合	安心と活力を生み出す基盤
目的	総合計画「みえ県民力ビジョン」の「行動計画」による取組の成果を県民に届けるため、「県民指標」の達成度合いに加え、「幸福実感指標」を新たに設定し、その推移を把握することで「行動計画」の進行管理を行う。	
検討手法	—	
種類	主観的指標のみで構成している。	
表現方法	ダッシュボード方式	
行政評価への活用	調査結果を分析レポートとしてまとめ、庁内関係部局等において、現場のニーズや他の統計調査の結果等と合わせ、県民の幸福実感の向上と政策のあり方等を議論・検討する材料の一つとして活用している。	
その他特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画の政策分野ごとに幸福実感指標を定めている。 ・県民意識調査分析ワーキングを設置し、詳細な分析レポートを作成している。 	

出所：三重県（2012）『みえ県民力ビジョン』。

三重県（2015）『みえ県民意識調査分析レポート（平成27年度）－県民の幸福実感向上のために－』。

熊本県「県民総幸福量 (Aggregate Kumamoto Happiness : AKH)」



出所：熊本県（2012）『県民幸福量を測る指標の作成に係る調査研究 報告書』。

熊本県（2015）『幸せ実感くまもと4カ年戦略 2015進捗レポート』。

新潟市「市民の等身大ハピネス (Net Personal Happiness : NPH)」

評価軸	要素	具体指標
1. こどもたちが恵まれている	(1) 乳幼児死亡率が低い	0～4歳児1000人当たり死亡者数
	(2) 保育所待機児童が少ない	保育所待機児童数
	(3) 不登校の児童・生徒が少ない	小学生1000人当たり不登校児童数、中学生1000人当たり不登校生徒数
	(4) 少年非行が少ない	15歳未満1000人当たり触法少年補導者数、20歳未満1000人当たり少年犯罪検挙者数
	(5) 児童虐待が少ない(大切に育てられている)	15歳未満1000人当たり児童虐待相談件数
	(6) 知識・教養を身につける(能力向上)機会が多い	中学校新規卒業者の高等学校進学率、高等学校新規卒業者の大学進学率
2. 安心・安全、温かい家庭生活	(1) 犯罪や火災が少ない	人口1万人当たり刑法犯認知件数、人口1万人当たり火災件数
	(2) 家庭内の不和が少ない	1000世帯当たり家事審判・家事調停受理件数、離婚率
	(3) 出生率が高い	20～30歳台女性100人当たり出産数
	(4) 不慮の事故や自殺などで身内を失うリスクが小さい	人口10万人当たり交通事故死者数、人口10万人当たり不慮の事故による死者数、人口10万人当たり自殺者数
3. やりがいのある仕事、経済的ゆとり	(1) 失業率が低い	完全失業率
	(2) 女性にも働く場(活躍の場)が多い	15歳以上女性の有業率
	(3) 転職を希望する人が少ない(現在の仕事に満足している)	15～64歳の有業者1000人当たり転職希望者数
	(4) 生活保護世帯が少ない	生活保護世帯割合
4. 社会とのつながり、連帯、信頼	(1) 仕事以外にもつながりを持つ機会が多い	自治会加入率、子ども会加入率、老人クラブ加入率
	(2) 他人もルールを守る信頼できる人だと思っている(だから自分もルールを守る)	NHK受信契約率、給食費未納額の割合
5. 高齢者も恵まれている	(1) 独居老人が少ない	単身居住高齢者の割合
	(2) 平均寿命が長い	平均寿命(男女単純平均)
	(3) 肉体的に健康な高齢者が多い	高齢者に占める要介護等認定者の割合
	(4) 当事者が望む居宅介護の割合が高い	要介護等認定者で居宅介護を受けている人の割合
目的	既存の幸福度指標が国民や市民の生活実感と乖離し、有効な政策ツールとして十分活用されてこなかったことを踏まえ、市民にとってのハピネスとは何かを生活者の視点から洗い出し、その達成状況を測定・評価することを通じて、都市政策に活かす。	
検討手法	新潟市都市政策研究所において、平成21～22年度に新潟市の都市構想を取りまとめた際に、市民のハピネスの捉え方を検討するとともに、試行的に新潟市民のハピネスの到達度合いの測定・評価を行ったもの。	
種類	客観的指標のみで構成している。	
表現方法	ダッシュボード方式	
行政評価への活用	具体は示されていない。	
その他特徴	<ul style="list-style-type: none"> 市民のライフステージに着目し、「こども」、「安心・安全、家庭」、「仕事、経済」、「連帯、信頼」、「高齢者」の5つを評価軸とし、それぞれのステージでどういう状況ならば幸福と言えるかを考慮し、30の指標を設定している。 	

出所：上山信一・玉山雅敏・千田俊樹（2012）『住民幸福度に基づく都市の実力評価 GDP志向型モデルから市民の等身大ハピネス（NPH）へ』時事通信社。

荒川区「荒川区民総幸福度指標（Gross Arakawa Happiness : GAH）」



目的	<p>①指標化の側面 区民の幸福度を測定する指標を作成し、そこから区民の幸福実感上の課題や地域において起きている課題を把握することによって行政行動のターゲットを明確化することにより、幸福度向上のための最適な政策・施策・事務事業を実施していく。</p> <p>②運動の側面 荒川区に関係するすべての人や団体が、自分自身や身近な人、さらには地域の幸福を考えることを通じて、共に荒川区をより良くしていく運動につなげていこうというもの。</p>
検討手法	<p>シンクタンクである荒川区自治総合研究所が中心になり、次により検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GAHに関する研究会を設置し、多様な分野の有識者により専門的な視点から議論している。 ・ ワーキンググループを設置し、現場職員の視点から指標を議論している。 ・ プロジェクトチームを設置し、指標が政策・施策・事務事業の改善や提案につながるよう検討している。
種類	主観的指標と客観的指標を併用している。
表現方法	ダッシュボード方式
行政評価への活用	平成 26 年度から、行政評価システムにおける政策・施策分析シートに幸福実感指標を掲載し、評価時の参考にしている。
その他特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上位に幸福実感指標を置き、下位に関連指標を置く。 ・ 指標の統合は行わない。 ・ 区の総合計画と指標の領域を一致させており、①政策の実現→②関連指標の達成→③幸福実感指標への反映→④幸福実感度の上昇・維持 の流れを意識。

出所：公益財団法人荒川区自治総合研究所（2011）『荒川区民総幸福度（GAH）に関するプロジェクト中間報告書』。

公益財団法人荒川区自治総合研究所（2012）『荒川区民総幸福度（GAH）に関する研究プロジェクト第二次中間報告書』。

滝沢市「幸福と暮らしに関する指標」



目的	<p>市総合計画を「住民自治日本一をめざす地域社会計画」と位置付け、住民自治日本一を目指し、市民やコミュニティ等が「幸福感を育む地域環境の創出」に向けて活動するため、総合計画において「幸福実感一覧表」を定めている。</p> <p>また、市民が安心して地域づくりに取り組むために、行政として取り組むべき内容を「暮らしやすさ一覧表」とし、2つの一覧表に掲げる指標の推移を把握することで市民及び行政の取組の効果を把握している。</p>
検討手法	<p>自治会における懇談会やアンケート調査により市民の幸福感を収集し、岩手県立大学生等による最終検討を行い一覧表を作成した。</p>
種類	<p>主観的指標と客観的指標を併用している。</p>
表現方法	<p>ダッシュボード方式</p>
行政評価への活用	<ul style="list-style-type: none"> 幸福実感一覧表 毎年度、幸福実感一覧表の象徴指標を測定することで、市民の取組の成果を図り、次の年度の取組に生かす。 暮らしやすさ一覧表 指標の推移を把握し、政策の有効性を確認し、毎年度の市行政への反映を行うこととしている。
その他特徴	<ul style="list-style-type: none"> 幸福実感一覧表は、5項目（①喜び・楽しさ、②成長・学び、③生活環境、④安全・安心、⑤人とのふれあい）について、世代別に指標を設定している。 暮らしやすさ一覧表は、めざす地域の姿の実現に向けた8つの視点（活かす、支えあう、輝く、暮らす、学ぶ、働く、受け継ぐ、集う）毎に指標を設定している。

出所：滝沢市（2015）『滝沢市第一次滝沢市総合計画』。

幸福について考えるワークショップの概要

ワークショップの概要

1 日時

- 第1回：平成29年1月12日（木）13：00～15：30
- 第2回：平成29年3月16日（木）18：30～21：30
- 第3回：平成29年7月5日（水）14：40～16：10

2 場所

- 第1回：エスポワールいわて 3階特別ホール
- 第2回：岩手県民会館 4階第1会議室
- 第3回：岩手県立大学 総合政策学部棟 101教室

3 参加者

- 第1回：県内在住の学生18名
- 第2回：県内外の一般の方12名
- 第3回：岩手県立大学生 8名

[コーディネーター]

- 第1、2回：NPO法人いわて地域づくり支援センター常務理事
若菜 千穂 氏（「岩手の幸福に関する指標」研究会委員）
- 第3回：岩手県職員

4 開催結果

(1)ワークショップの趣旨

- ワークショップを通して、どのようなことに幸福を感じているか、もっと幸福を高めるためにはどうすればいいか、を改めて考えてみること。
- 岩手県のいいところや悪いところなどを見つめなおし、幸福のヒントを考えてみること。

(2)ワークショップの手順

参加者が4～6名の班に分かれ、コーディネーターの進行で、幸福カルテの作成、岩手県の特徴の共有、さらに幸福を高めるにはどうするか意見交換、幸福宣言、全体発表を行った。

主な手順は以下のとおり（詳細は、参考資料3「幸福について考えるワークショップの手引き」を参照のこと）。

①進め方の説明

②幸福カルテをつくってみよう

- 幸福カルテの設問に回答（何を重視し、何に満足をしているのかがわかります。）
- 集計表を作成（総合的な満足度がわかります。）
- 集計表をもとにグラフを作成（重視しているものと、満足しているもののギャップが目で見えます。）

③幸福カルテの結果を話し合おう

- 自分のグラフの特徴を紹介（何を重視しているか、何に不満があるか、など）
- みんなのグラフをもとに意見交換（共通の傾向があるのか、人それぞれなのか、など）

④岩手県の特徴について共有しよう（コーディネーターから説明）

⑤幸福を高めるためにはどうするか考えよう

- 岩手の良いところ（満足）、悪いところ（不満、不満足）を付せん書き出し、班の中で内容を共有

- 「さらに幸福を高めるためにはどうすればよいか」を付せんに書き出し、班の中で内容を紹介
- 自分は「誰の」幸福を高めるために「何」をするかを「幸福宣言」に書き、班の中で発表

⑥全体発表

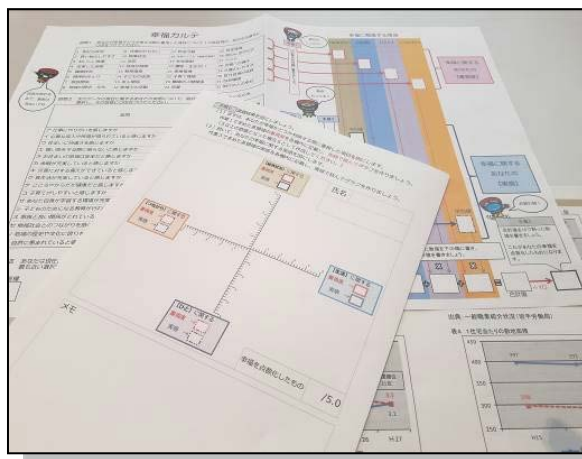
班ごとに「さらに幸福を高めるためにはどうすればよいか」と「幸福宣言」を発表

(3)「幸福宣言」の例

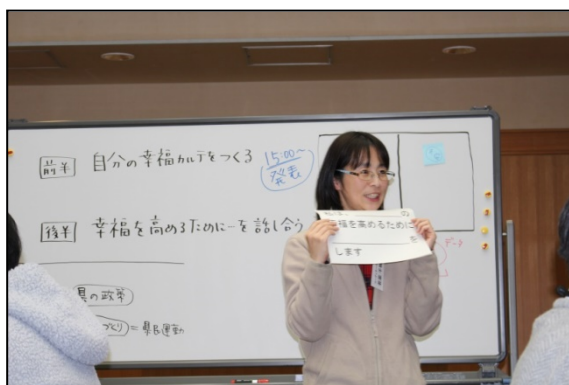
第1回	私	自分	の幸福を高めるために	県内の色々な地域へ旅をします。
		自分		自転車で東北一周をします。
		岩手に来た人		岩手の魅力を体験して発信をします。
		岩手の食の幸福		県外に食の魅力をPRします。
		自分と岩手		岩手のおいしいものをたくさん食べます。
		自分		グルメ探索をします。
		自分		地元の喫茶店巡りをします。
		岩手と自分		街にくりだします！
		自分		自然で遊びます。
		自分		グレンデデビューをします。
		自分		睡眠時間を確保します。
		自分		知らない人に声をかける努力をします。
		つながり		町との関係づくりをします。
		私自身		もっと友達と遊びます！
		自分		活動的になれるよう努力をします。
第2回	は	岩手県民	元気なあいさつをします。	
		お客様	飲食店でバイトをします。	
		自分	就活をします。	
		自分と家族	地域の皆さんの幸せづくりを応援します。	
		子どもたち	岩手・地域・雫石を残します。	
		大好きな岩手	幸福指標を広めます。	
		私と私に関わる人	楽しい事をたくさんします。	
		子育てママ	子育て情報等を広めます。	
		未来の私	後悔しない仕事をします。	
		岩手と地元の人	県や地元の情報発信をします。	
第3回		家族	岩手に移住します。	
		私と周囲の人	長生きします。	
		自分と家族	年次休暇をすべて使います。	
		地域	地域行事へ参加します。	
		身近な友達と	いろんなところに遊びに行きます。	
		自分	やりたい事をします。	
		自分	友達とたくさん思い出作りをします。	
		岩手	観光名所に集客をします。	
自分	コンサートに行きます。			
ペット	卒論を書きます。ボランティアもします。			
岩手	交通網を増やします。			
自分と岩手県	盛岡で沢山遊び、ずっと住みます。			

(参考) ワークショップの様子

①開始前：資料、計算機などを用意



②コーディネーターから、ワークショップの流れを説明



③各自、幸福カルテを作成した後、意見交換



④岩手県の特徴について紹介

⑤岩手の良いところ、悪いところ、さらに幸福を高めるためにはどうするかについて意見交換



⑥班の中で、幸福宣言を紹介



⑦全体発表

- ・さらに幸福を高めるためにはどうするか意見交換の結果



・幸福宣言



ワークショップのまとめとして、「私は〇〇の幸福を高めるために〇〇をします」という「幸福宣言」を各自記入し、各グループの代表者等に発表してもらいます！

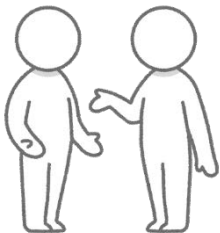
○参加者の感想

- ・ 「幸福カルテ」を最初に行い、自身の幸福について考える方法はとても良い。
- ・ 幸福について考えるのに効果的だった。
- ・ 幸福について意識したり考えることから幸福は始まるので、ワークショップは有意義だった。
- ・ 幸福宣言は、これからこうしたいと考えることができ、とても良い。
- ・ 幸福って何だろう？と考えれば考えるほど、欲はたくさん出てきますが、一番は当たり前の生活をいつも通り送れることだと改めて思いました。
- ・ とても興味深く面白い内容のワークショップだった。ぜひもっと大きな規模でやって欲しいと思った。



○ワークショップの手法に関する主な意見と対応

- ・ 議論の時間は年代に応じて変えてはどうか。
- ・ 短縮バージョン（幸福カルテと意見交換のみなど）があってもいいのではないか。
- ・ 幸福カルテの計算が少し大変だった。早見表があってもいいのではないか。
- ・ 幸福カルテの傾向が似ている者で班編成することも考えられるのではないか。
- ・ 岩手の特徴としては、他の統計データも考えられるのではないか。
- ・ 目的をもっとわかりやすく説明した方がよい。



幸福について考えるワークショップ手引き

幸福について考えるワークショップ



手引き



手引きの目的

この手引きは、県民の皆さんが幸福について考えるためのきっかけとして、どんな場面でも「幸福について考えるワークショップ」を行っていただけるように、その手順等をまとめたものです。

様々な場面に合わせてアレンジしていただき、ワークショップが、皆さんの幸福のヒントを見つけるきっかけになれば幸いです。

目次

1 趣旨と背景

1-1 ワークショップの趣旨

1-2 このワークショップが考えられた背景

2 ワークショップを始めるにあたって

3 ワークショップの手順

ワークショップで使用する資料

1. 趣旨と背景

1-1 ワークショップの趣旨

- このワークショップは、自分が「どのようなことに幸福を感じているか」を知り、「もっと幸福を高めるにはどうすればいいか」を考えるきっかけとなることを目的にしています。
- 岩手県のいいところや悪いところなども見つめなおし、幸福のヒントをみんなで探してみましよう。

1-2 このワークショップが考えられた背景

◆岩手県では、「幸福」を、未来を考えるキーワードの1つにしています。

岩手県では、収入などの経済的なゆたかさだけでなく、地域ならではの生き方や人のつながりといったゆたかさが大切という考え方から、「幸福」を、未来を考えるキーワードの1つにしています。そのため、「岩手の幸福に関する指標」研究会を設置し、幸福の研究を進めてきました。

◆平成 29 年 9 月に、「岩手の幸福に関する指標」についての報告書が取りまとめられました。

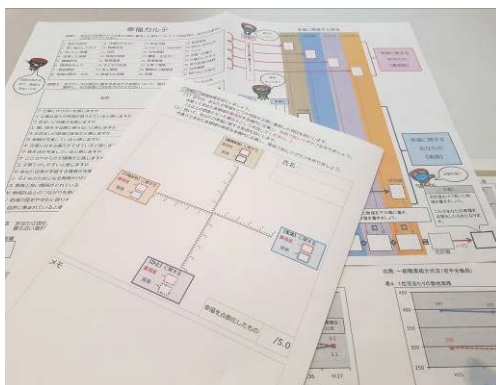
「幸福」といえばブータンが有名ですが、近年は、国際機関や内閣府などでも研究が進められています。また、東京都荒川区や熊本県など「幸福」という考え方を行政に取り入れているところも増えてきています。

研究会では、そういった研究やアンケート調査などを踏まえ、仕事や家庭などの「幸福」に関する要素やそれを政策に活かす方法などについて、平成 29 年 9 月に報告書を取りまとめました。

◆「幸福を考えるとところから幸福は始まる」

研究会では、県民の幸福という観点からは、幸福について理論的・体系的に整理するだけでなく、県民一人ひとりが「幸福」について考えることが大切との意見が出されました。

そこで、研究会と岩手県が一緒になって、多くの人の協力をいただきながら、自分の幸福や周りの人の幸福を考えるきっかけとなるワークショップを考えました。



2. ワークショップを始めるにあたって

ワークショップの概要と、事前に準備するものなどは以下の通りです。

概要

1 自分の幸福を「見える化」し、みんなで共有する。

まず、参加者は、手順に従って「幸福カルテ」を作成します。

幸福カルテは、幸福感に関連する12の領域を、わかりやすさの観点から「経済状況」「生活」「ひと」「関係性」の4つにわけ、自分の幸福を「見える化」するものです。

そして、その結果をみんなで共有したり、比較したりすることで、自分の幸福にとって重要な要素や要因が何なのか、改めて考えてみます。

2 幸福を高めるためにはどうするか、みんなで考える。

自分の幸福や周りの人の幸福を高めるためにはどんなことがしたいか、みんなで話し合います。岩手が優れているところ、岩手で改善すべきところなどを模造紙に書き出しながら、自分にできること、より良い生活につながることを考えてみましょう。

ワークショップを始める前に

○ 人数

「幸福カルテ」は1人でも作れますが、2人以上で取り組んだ方が誰かと比較することで自分の特性をより知ることができます。

また、参加人数が多くなる場合は、5～6人を目安に班に分かれて行いましょう。(班は、幸福カルテの特徴などで分けても盛り上がるかもしれません。)

○ 時間

時間は、概ね2時間から3時間を想定していますが、参加者に応じてアレンジしてください。

例えば、前半の「幸福カルテ」の作成と共有だけを行う短縮バージョンなら、1時間程度で行うこともできます。

○ 準備するもの

- ・この手引き (人数分)
- ・幸福カルテ (人数分)
- ・模造紙 (班の数分)
- ・4色の付箋 (人数×10枚程度)
- ・赤と青のペン (人数分)
- ・電卓 (できれば人数分)
- ・ホワイトボード (できれば)



3. ワークショップの手順

※ (1) ~ (5)、(8) だけを行うことで、短縮バージョン (1 時間) のワークショップも可能です。

(1) 開会・趣旨説明 5分/計5分

[ポイント]全体の司会(コーディネーター)を決めておきましょう。

(2) 進め方の説明 10分/計15分

(3) 各班に分かれて自己紹介 5分/計20分

(4) 手順① 自分の幸福カルテをつくってみよう 15分/計35分

- 1) 幸福カルテを記入する。
- 2) 集計する。
- 3) 集計グラフをつくる。

まずは、個人作業です。

[ポイント]幸福カルテに書いてある手順に沿って、グラフまで作ってみましょう。

資料2に計算早見表もつけていますので、参考にしてください。

(5) 手順② 幸福カルテの結果を見せ合おう・比べてみよう 20分/計55分

- 1) 自分のグラフの特徴をチェックし、理由を考える。
- 2) 自分のグラフの特徴を班で発表して話し合う。

班で話し合います。

[ポイント]グラフの特徴が自分の思っていたものと違っていたら、その理由を考えてみましょう。

幸福の感じ方は人それぞれですので、点数より、グラフの特徴に着目してください。

ニックネームを付け合っても盛り上がるかもしれません。

(6) 岩手県の数値的な特徴を知ろう 10分/計65分

誰かが読み上げます。

[ポイント]一度視点を自分の置かれている環境や周りの人に移してみましょう。

資料3に参考データを載せていますが、参加者などに応じてアレンジしましょう。

(7) 「幸福を高めるためには何ができるか」の模造紙をつくろう 30分/計95分

- 1) 各自で「自分や周りの人の幸福を高めるために、どんなことがしたいか？」を付せんに書き出す(1人5枚以上!)
- 2) 上記1)で出したアイデアを実現するに当たって、岩手が優れているところ、岩手で改善すべきところを色の違う付せんに書き出す(思いつく範囲で!)
- 3) 付箋を1人ずつ読み上げながら、模造紙に貼る。
- 4) 似ているものをまとめ、見出しを付ける。
- 5) 「さらに幸福を高めるためには何ができるか」を付箋に書き、模造紙に貼る。

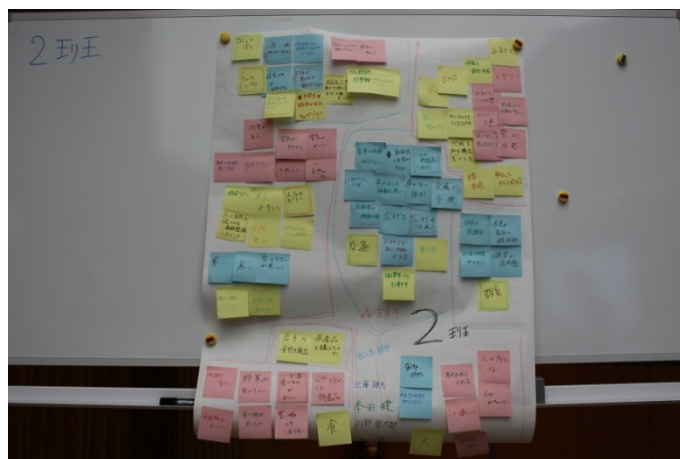
再び班作業

[ポイント] 普段思っていることや幸福カルテをやって気づいたことを何でも書き出しましょう。

5)は、1)や2)で書いたものを参考にしてもいいですし、個人的なことでも構いません。

1)、2)、5)で使う付せんは、それぞれ別の色を用いるとわかりやすいです。

※例: 1)の付せんは緑色、2)の岩手が優れているところは青色、岩手で改善すべきところは赤色、5)の付せんは黄色にするなど。



(8) 「私の幸福宣言」を書いてみよう

5分/計100分

幸福カルテやみんなで話した内容を思い返しながらか、「資料4 私の幸福宣言」を書く。

[ポイント] 今日からできそうなこと、できたら面白そうなことなどを書いてみましょう。

自分だけでなく、周りの人を幸せにするための宣言でも構いません。

(9) 全体発表

15分/計115分

班ごとに発表者を決め、2~3分程度で(7)で作成した模造紙や「私の幸福宣言」を発表する。

(10) まとめ

5分/計120分

司会(コーディネーター)が全体の総括を行う。

ワークショップで使用する資料

- 資料1 幸福カルテ
- 資料2 幸福カルテ早見表
- 資料3 岩手県の特徴（統計データ（参考））
- 資料4 私の幸福宣言

資料1 幸福カルテ

設問Ⅰ あなたが幸福かどうか考える際に重視した項目について10項目選び、該当する番号に○印をつけてください。

1 家計の状況	9 仕事のやりがい	17 貯金の額	25 居住環境
2 買い物のしやすさ	10 就業状況	18 生活インフラ（道路交通等）	26 街のにぎやかさ
3 おいしい食事	11 治安	19 社会貢献	27 ペット
4 充実した余暇	12 自由な時間	20 趣味・生きがい	28 災害への備え
5 健康状況	13 教育環境	21 医療環境	29 介護のしやすさ
6 精神的ゆとり	14 子どもの成長	22 子育て環境	30 自分自身の成長
7 家族関係	15 友人関係	23 職場の人間関係	31 自然環境
8 地域の歴史・文化	16 地域での活動	24 恋愛	32 周りの人の幸せ

設問Ⅱ 次のア～タの項目に関するあなたの実感について、選択肢の中から最も近いものを選択し、その数値に○印をつけてください。

設問	選択肢				
	感じる	感じる やや	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない
ア 仕事にやりがいを感じますか	5	4	3	2	1
イ 必要な収入や所得が得られていると感じますか	5	4	3	2	1
ウ 住まいに快適さを感じますか	5	4	3	2	1
エ 買い物をする際に困らないと感じますか	5	4	3	2	1
オ お住まいの地域は安全だと感じますか	5	4	3	2	1
カ 余暇が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
キ 災害に対する備えができていると感じますか	5	4	3	2	1
ク 食生活が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
ケ こころやからだが健康だと感じますか	5	4	3	2	1
コ 子育てがしやすいと感じますか	5	4	3	2	1
カ あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
シ 子どものためになる教育が行われていると感じますか	5	4	3	2	1
ス 家族と良い関係がとれていると感じますか	5	4	3	2	1
セ 地域社会とのつながりを感じますか	5	4	3	2	1
ソ 地域の歴史や文化に誇りを感じますか	5	4	3	2	1
タ 自然に恵まれていると感じますか	5	4	3	2	1

設問Ⅲ あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。
最も近い選択肢の数値を書いてください。

回答欄

選択肢	
5 幸福だと感じている	2 あまり幸福だと感じていない
4 やや幸福だと感じている	1 幸福だと感じていない
3 どちらともいえない	

幸福に関連する領域

【経済状況】	【生活】	【ひと】	【関係性】
--------	------	------	-------

手順1

最初は
ここから！

○の数を右の欄に書きましょう。

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

幸福に関する
あなたの
【重視度】



電卓
もってる？

手順2

手順3

選択肢の欄に書いてある数値の合計値を右の欄に書きましょう。

合計値	<input type="text"/>
合計値	<input type="text"/>
合計値	<input type="text"/>
合計値	<input type="text"/>

合計値を4で割り、平均値を求めて右の欄に書きましょう。

平均値	<input type="text"/>
平均値	<input type="text"/>
平均値	<input type="text"/>
平均値	<input type="text"/>

幸福に関する
あなたの
【実感】



お疲れ様！

手順5

合計値を10で割った数値を書きましょう。
これがあなたの幸福を
点数化したものになります。

手順4

【重視度】×【実感】で求めた数値を下の欄に書き、さらにそれらの合計値を書きましょう。

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

合計値 $\div 10$

もうすぐ
終わりだよ

手順6 調査結果を図にしましょう。

(1) まずは、あなたが幸福かどうか判断する際に重視した項目を図にします。

手順1で求めた各領域の**重視度**を各欄内に記載し、**赤線で結んで**グラフを作りましょう。

(5以上の数値となった場合5として作成してください。)

(2) 続いて、あなたの幸福に関する**実感**を図にします。

手順3で求めた各領域の**実感**を各欄内に記載し、**青線で結んで**グラフを作りましょう。

【経済状況】 に関する 重視度 → <input type="text"/> 実感 → <input type="text"/>		氏名
【関係性】 に関する 重視度 → <input type="text"/> 実感 → <input type="text"/>		
【ひと】 に関する 重視度 → <input type="text"/> 実感 → <input type="text"/>		
【生活】 に関する 重視度 → <input type="text"/> 実感 → <input type="text"/>		
		幸福を点数化したもの /5.0

メモ

【経済状況】

収入、仕事、居住環境など、経済的な項目で構成される領域です。

この領域が高い人は【家計の状況】【就業状況】【交通の便利さ】【買物のしやすさ】【街のにぎやかさ】などを重視しています。

【経済状況】に関する

重視度 → 4

実感 → 1.8

経済状況の重視度が高いにもかかわらず、実感が低いことがわかります。

経済状況に関する項目の実感を上げることが幸福につながるかもしれません。

【関係性】に関する

重視度 → 2

実感 → 3.0

【関係性】

家族、地域とのつながり、歴史・文化、自然環境など、まわりとの関係で構成される領域です。

この領域が高い人は【家族や友人とのつながり】【地域住民とのつながり】【職場の人間関係】【地域での活動】【自然環境や歴史文化】【周りの人の幸せ】などを重視しています。

【生活】

安全、余暇など、金銭では表しにくい生活の状態に関する項目で構成される領域です。

この領域が高い人は【治安の良さ】【自由時間の多さ】【充実した余暇】【趣味・生きがい】【おいしい食事】【災害への備え】などを重視しています。

【生活】に関する

重視度 → 1

実感 → 4.0

生活領域の実感が高いのですが、重視度が低いことがわかります。

この場合、生活領域に目を向けてみると、気づきがあるかもしれません。

【ひと】に関する

重視度 → 3

実感 → 3.5

【ひと】

健康、子育て、教育など、個人の状態や成長などに関する項目で構成される領域です。

この領域が高い人は【心身の健康】【成長の実感】【医療の受けやすさ】【子どもの成長】【子どもや自分の教育】などを重視しています。

ポイント

- ・自分の幸福にとって重要な要素を見直してみよう。
- ・極端に高い項目や低い項目があった人は、改めて全体を見てみると、気づきがあるかもしれません。
- ・各領域の重視度（ウエイト）と実感の差を見よう。
- ・他の人のグラフと比べてみて、感想を伝えてみよう。
- ・幸福につなげるためには、どうすれば良いか考えてみよう。



幸福カルテ 早見表



重視度

0	1	2	3	4	5	6	7	8
---	---	---	---	---	---	---	---	---

合計値

平均値

4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

1
1.25
1.5
1.75
2
2.25
2.5
2.75
3
3.25
3.5
3.75
4
4.25
4.5
4.75
5

0	1	2	3	4	5	6	7	8
0	1.3	2.5	3.8	5	6.3	7.5	8.8	10
0	1.5	3	4.5	6	7.5	9	10.5	12
0	1.8	3.5	5.3	7	8.8	10.5	12.3	14
0	2	4	6	8	10	12	14	16
0	2.3	4.5	6.8	9	11.3	13.5	15.8	18
0	2.5	5	7.5	10	12.5	15	17.5	20
0	2.8	5.5	8.3	11	13.8	16.5	19.3	22
0	3	6	9	12	15	18	21	24
0	3.3	6.5	9.8	13	16.3	19.5	22.8	26
0	3.5	7	10.5	14	17.5	21	24.5	28
0	3.8	7.5	11.3	15	18.8	22.5	26.3	30
0	4	8	12	16	20	24	28	32
0	4.3	8.5	12.8	17	21.3	25.5	29.8	34
0	4.5	9	13.5	18	22.5	27	31.5	36
0	4.8	9.5	14.3	19	23.8	28.5	33.3	38
0	5	10	15	20	25	30	35	40

(例) 平均値が
1.75で、重視度
が3の場合、手
順4の数値は5.3
となります。

重視度

0	1	2	3
---	---	---	---

平均値

1	0	1	2	3
1.25	0	1.3	2.5	3.8
1.5	0	1.5	3	4.5
1.75	0	1.8	3.5	5.3
2	0	2	4	6

①手順2で
書いた合計
値の右側に
スライドす
ると・・・

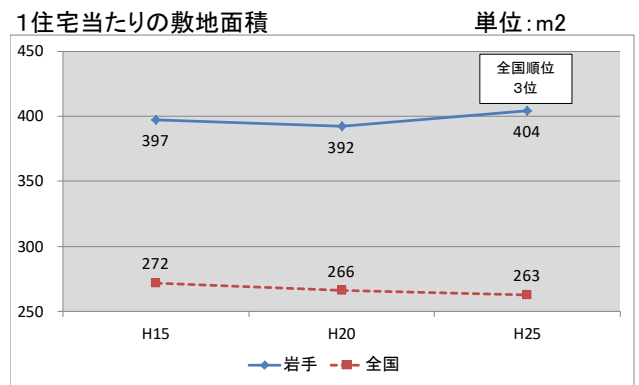
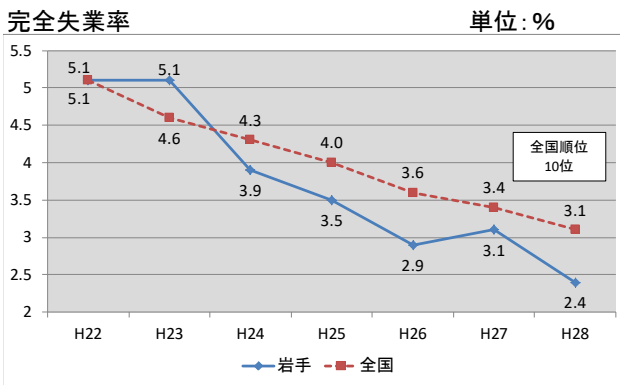
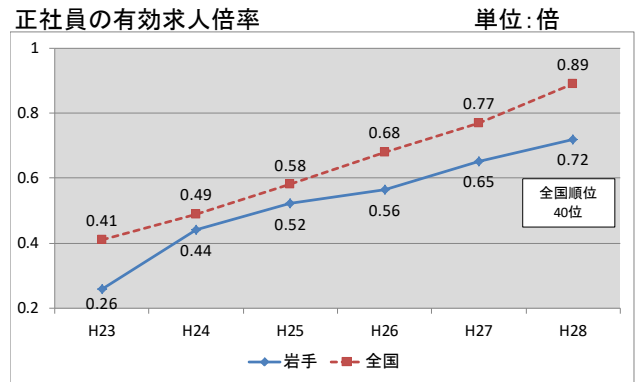
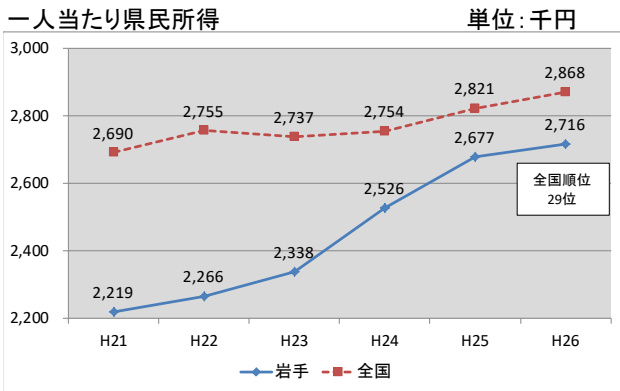
②手順3の
平均値
が出ます！

③手順3で出した平均
値と、手順1で出した
重視度が重なるマスを
見ると、手順4の数値
がわかります！

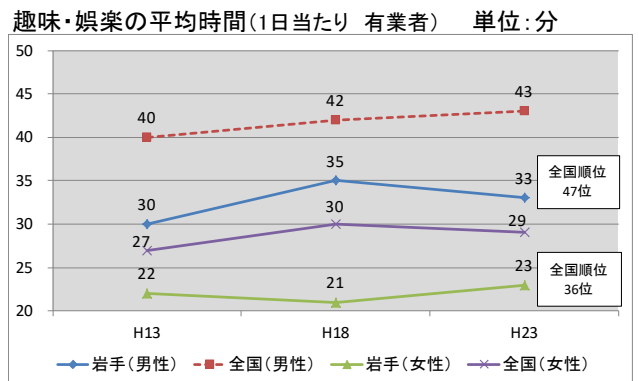
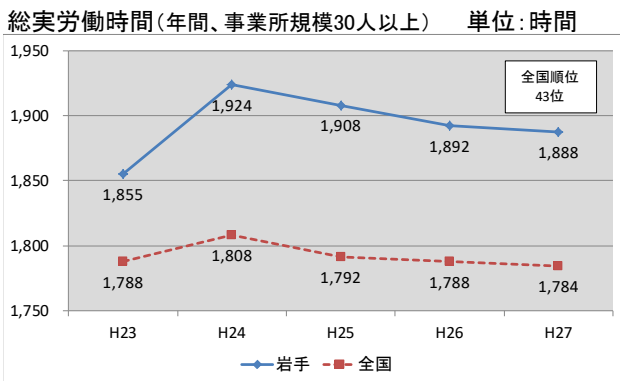
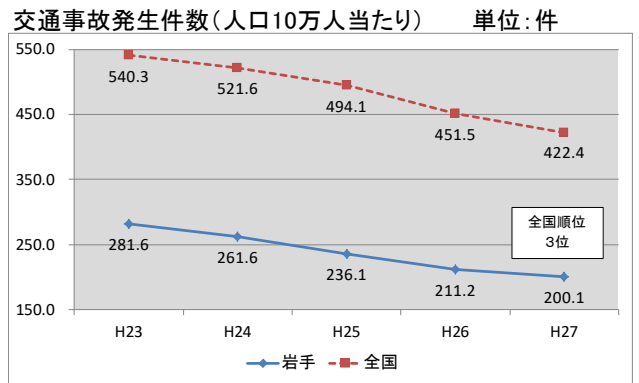
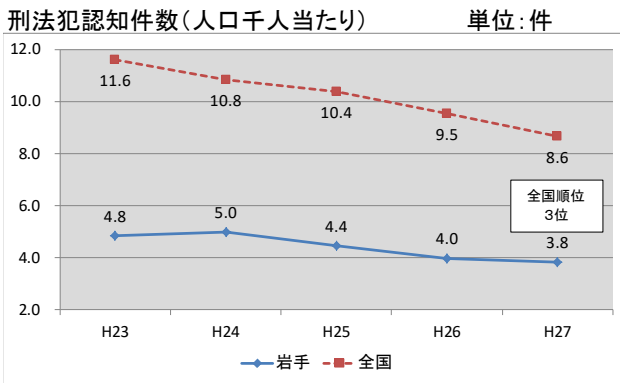


資料3 岩手県の特徴（統計データ（参考））

【経済状況】に関する統計データ



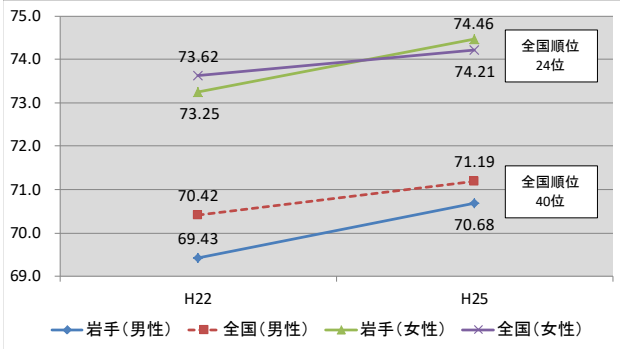
【生活】に関する統計データ



【ひと】に関する統計データ

健康寿命

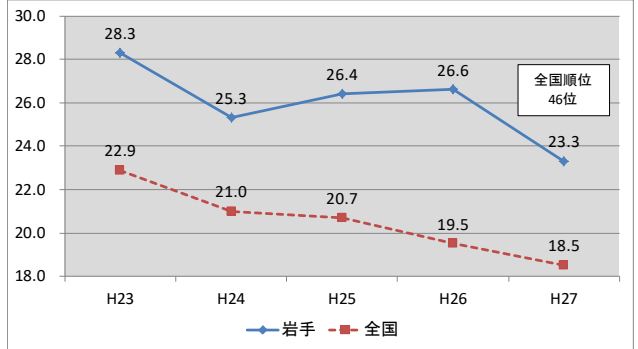
単位：年



出典：健康寿命の指標化に関する研究(厚生労働科学研究費補助金)

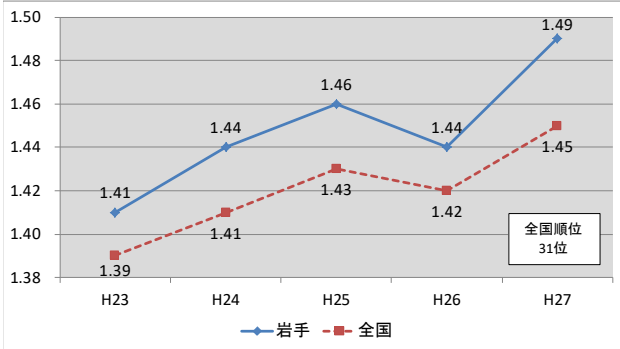
自殺者数(人口10万人当たり)

単位：人



出典：いわて統計白書(岩手県調査統計課)

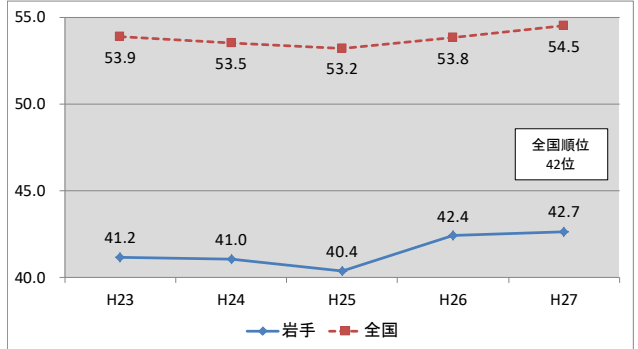
合計特殊出生率



出典：人口動態統計(厚生労働省)

大学等進学率

単位：%

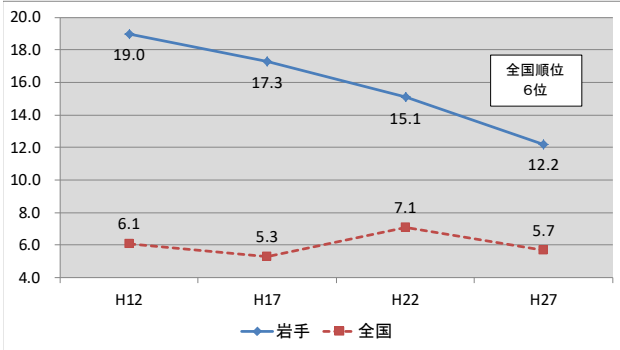


出典：いわて統計白書(岩手県調査統計課)

【関係性】に関する統計データ

三世同居率

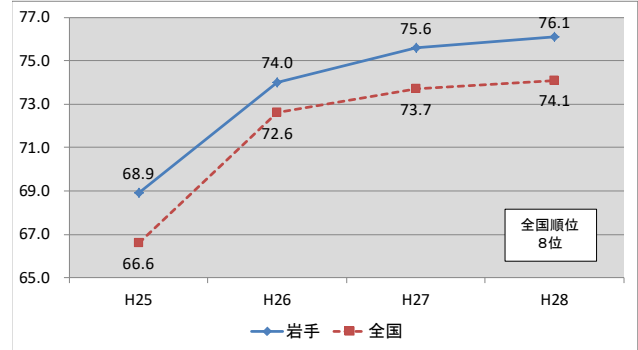
単位：%



出典：国勢調査(総務省統計局)

家の人と学校での出来事について話をする率(中学生)

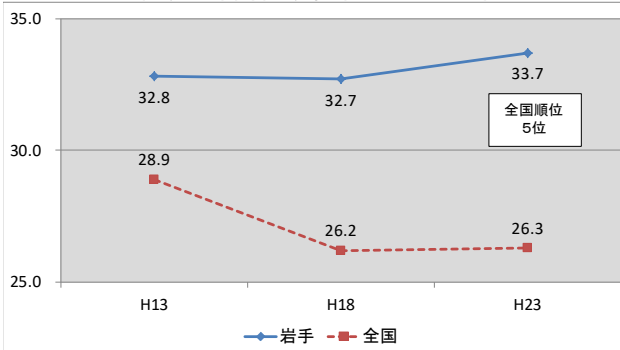
単位：%



出典：全国学力・学習状況調査(文部科学省)

ボランティア活動の年間行動者率

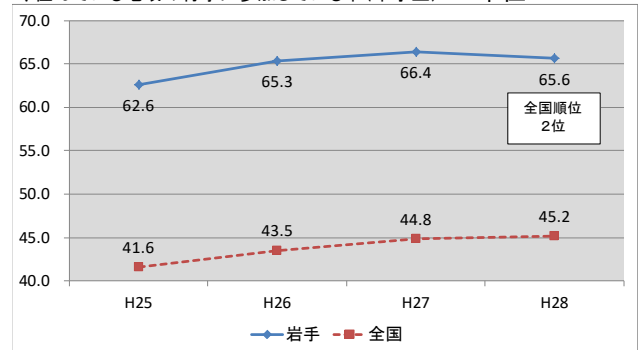
単位：%



出典：社会生活基本調査結果(総務省統計局)

今住んでいる地域の行事に参加している率(中学生)

単位：%



出典：全国学力・学習状況調査(文部科学省)

私は、 _____ の

幸福を高める

ために

をします

平成 28 年及び平成 29 年
「県の施策に関する県民意識調査」
調査票

1 調査の目的

岩手県では、「岩手県東日本大震災津波復興計画（※）」を策定し、東日本大震災津波からの復旧・復興への取組を進めるとともに、これと軌を一にしなが、「私たちが実現していきたい岩手の未来」を描いた「いわて県民計画」に掲げる「希望郷いわて」の実現に向けて、計画を推進しています。

この調査は、「いわて県民計画」に掲げる「岩手の未来をつくる7つの政策」を推進していくために、**県民の皆様の御意見を伺いし、次の施策に生かしていく**ために行うものです。

「いわて県民計画」 岩手の未来をつくる7つの政策

- (1) 産業・雇用 ～「産業創造県いわて」の実現～
- (2) 農林水産業 ～「食と緑の創造県いわて」の実現～
- (3) 医療・子育て・福祉 ～「共に生きるいわて」の実現～
- (4) 安全・安心 ～「安心して、心豊かに暮らせるいわて」の実現～
- (5) 教育・文化 ～「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現～
- (6) 環境 ～「環境王国いわて」の実現～
- (7) 社会資本・公共交通・情報基盤 ～「いわてを支える基盤」の実現～

※ 「岩手県東日本大震災津波復興計画」

東日本大震災津波からの復旧・復興への取組を進めるため、平成 23 年 8 月に策定した計画。沿岸地域をはじめとした岩手県全体が、東日本大震災津波を乗り越えて力強く復興するための地域の未来の設計図として、復興に向けての目指す姿や原則、まちづくりのグランドデザイン、具体的取組の内容、復興への歩み等を明らかにしたものです。

2 調査結果の活用方法

県では、平成 13 年度から**政策評価を本格導入**し、県の仕事が目標に向かってうまく機能しているかどうかをチェックし、その結果を次の施策に反映していくことにしています。

今回の**調査結果は、県民の皆様により満足していただけるサービスを提供していくための重要な情報として、政策評価や施策の立案などに活用**することとしています。

3 調査の構成と記入の方法

- (1) 1 ページから 2 ページまでは、調査についての説明です。
3 ページから 18 ページまでが、質問になっています。
- (2) 質問は、問 1～問 4 まであります（問 2 から問 4 までは、さらにいくつかの小問に分かれています）。
- (3) 回答は、あらかじめ設けている**選択肢のあてはまる数字に○印をつけて**ください（この調査票の所定の欄に直接御記入ください）。
- (4) 回答は、全ての項目についてお願いいたします。

記入例

ここでは、問 2（P 4～14）の場合を例示しています。

問 2 次に、1 ページで御説明いたしました「7つの政策」に関連する次の 1 から 46 までの調査項目について、「あなたの重要度」と「あなたの満足度」をお伺いします。あなたの身のまわりを見回してみて、あなたの考えに最も近いものをお答えください。

「あなたの重要度」では、あなたの現在の暮らしにとって、調査項目のような状態を実現することが、どれくらい重要であるかをお答えください。

「あなたの満足度」では、あなたの現在の暮らしから見て、調査項目の状態にどれくらい満足しているかをお答えください。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	いどちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	いどちらともいえない	あや満足できる状態にある	わからない
19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。	5	4	3	2	1	0			2	1	0
20 交通事故が少ない社会であること。	5	4	3	2	1	0		4	3	2	1

※ 「あなたの重要度」の記入例

あなたの現在の暮らしにとって
「19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。」という状態を実現することが、どれくらい重要かをお答えいただくものです。
この例では、「重要ではない」と思う場合を例示していますので、数字の「1」に○をつけてます。

※ 「あなたの満足度」の記入例

あなたの現在の暮らしから見て
「19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。」は、どれくらい満足できる状態にあるかをお答えいただくものです。
この例では、「やや不満な状態にある」と思う場合を例示していますので、数字の「2」に○をつけてます。

このページから調査票になります。

問1 まず最初に伺います。

あなたは、今の生活全般について、どのように感じていますか。
あなたの気持ちに近いものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

あなたの満足度					
(1つ選び、番号に○をつけてください)					
満足できる状態	やや満足できる状態	どちらともいえない	やや不満な状態	不満な状態	わからない
5	4	3	2	1	0

問2 次に、1ページで御説明いたしました「7つの政策」に関連する次の1から46の調査項目について、「あなたの重要度」と「あなたの満足度」を伺います。あなたの身のまわりを回してみて、あなたの考えに最も近いものをお答えください。

「あなたの重要度」では、あなたの現在の暮らしにとって、調査項目のような状態を実現することが、どれくらい重要であるかをお答えください。

「あなたの満足度」では、あなたの現在の暮らしから見て、調査項目の状態にどれくらい満足しているかをお答えください。

(1) まず、「産業・雇用」に関する項目について伺います。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態	やや満足できる状態	やや不満な状態	不満な状態	わからない	
1 工場や事業所の新設・増設により、県内経済が活性化していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
2 次の時代の製造業を担う人材が育ち、県内に定着していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
3 地域の農林水産資源や技術を生かした加工食品や木製品が開発され、販売されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
4 魅力ある観光地づくりに、地域で取り組まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
5 身近な商店街が、住民に利用され、にぎわっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(2) 次に、「農林水産業」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	いあまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態	状態にある	やや満足できる	やや不満な状態	にや不満な状態	わからない
6 中小企業が、人材や技術力、商品、サービスなどを強化して経営力の向上を図り、更に成長・発展していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
7 海外における県産品の販路の拡大が図られること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
8 県内に職を求めの人が希望どおりに就職できること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	いあまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態	状態にある	やや満足できる	やや不満な状態	にや不満な状態	わからない
9 地域の農林水産業の担い手が確保されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 消費者ニーズに対応した農林水産物の産地が形成されること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
11 本県農林水産物がブランドとして確立され、販路が拡大していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
12 地域活動や都市との交流により活力ある農山漁村が形成されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
13 地球温暖化防止や生態系の維持など環境に配慮した農林水産業が営まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(3) 次に、「医療・子育て・福祉」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	不満足状態にある	わからない	
14 必要な医療を適切に受けられること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
15 病気の予防や健康づくりを行うために、相談、指導を受けられること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
16 安心して子どもを生み育てられ、子育てがしやすい環境であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
17 高齢者や障がい者が安心して暮らせる地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(4) 次に、「安全・安心」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	不満足状態にある	わからない	
18 地域の防災体制が、住民の協力により整っていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
20 交通事故が少ない社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
21 悪質商法、架空請求、多重債務などの消費者トラブルについて、適切な相談や支援を受けられる社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
22 購入する食品の安全性又は信頼性に不安を感じない社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
23 岩手に移り住む人や岩手を訪れる人が増え、地域に活力が生まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
24 だれもが市民活動に参加できる社会であること。〔市民活動とは、NPO、ボランティア、自治会・町内会（子供会行事への参加、清掃や美化活動等を含む）などの活動をさします。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(5) 次に、「教育・文化」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえ ない	いあまり重要でな い	重要ではない	わからない	満足できる状態 にある	状態にある 満足できる	どちらともいえ ない	やや不満な状態 にある	わからない	
25 地域全体が一体となつて青少年の健全育成に取り組んでいること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
26 女性も男性も社会のあらゆる分野に等しく参画し、一人ひとりの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえ ない	いあまり重要でな い	重要ではない	わからない	満足できる状態 にある	状態にある 満足できる	どちらともいえ ない	やや不満な状態 にある	わからない	
27 学校が、学力や体力の向上などの目標に向かつて、家庭や地域と一緒に取り組んでいること。〔学力向上とは、小・中学校では、物事をしっかり考える力が身に付き、高等学校では、目標や進路を実現できる学力が身についていること。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
28 子どもたちの学力が向上する教育がされていること。〔子どもは、小学生から高校生までをお考えください。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
29 子どもたちが、自分の良さを知り、人を思いやる心を持つなど、人間性豊かに育っていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
30 子どもたちが、スポーツや運動に取り組むことによつて、体力の向上や心身の健康の保持が図られること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
31 学校が、障がいのある子どもたちを含め、全ての子どもが共に学び共に育つ環境と育っていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(6) 次に、「環境」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態	状態にある	やや満足できる	やや不満な状態	わからない	
32 学びたいと思った時に必要な情報が手に入り、自分に適した内容や方法で学ぶことができる環境にあること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
33 県内の大学などが、人材の育成や地域の企業との連携などにより、地域社会に貢献していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
34 郷土の歴史遺産や伝統文化に、誇りや愛着を持てるような取組がされていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
35 地域や学校などで文化芸術(芸術、祭り、行事など)の鑑賞や活動が活発に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
36 外国人に対する理解が進み外国人も暮らしやすい地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
37 スポーツの国際大会や国内外の各種大会において本県選手が活躍していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態	状態にある	やや不満な状態	不満な状態にある	わからない	
38 地球温暖化防止のため、環境にやさしい再生可能エネルギーの利用や省エネルギーなど二酸化炭素等の排出量削減の取組が各地域で活発に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
39 ふだんの暮らしに、ごみの減量化やリサイクル(資源ごみの分別など)が定着していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
40 大気や水がきれいに保たれ、自然や野生動植物を大切にしながら生活していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(7) 次に、「社会資本・公共交通・情報基盤」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態	状態にある	やや満足できる	どちらともいえない	やや不満な状態にある	わからない
41 高速道路をはじめ、インターチェンジや新幹線駅、港湾、空港などの交通や物流の視点に通じる道路が整備されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
42 防災施設の整備等が進み、地震や津波、洪水、土砂災害による被害を受けにくい、安心して暮らせる県土であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
43 道路や下水道などの生活基盤の整備や歩道の段差解消等の地域のバリアフリー化などが進み、快適に暮らせる生活環境になっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
44 道路や橋梁、河川、公園などの社会資本の維持管理が適切に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態	状態にある	やや満足できる	どちらともいえない	やや不満な状態にある	わからない
45 鉄道、バスなどの公共交通機関が維持・確保されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
46 携帯電話やインターネットなどの情報通信ネットワークが暮らしや仕事に生かされていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

問3 県では、“私たちが実現していきたい岩手の未来”を創っていくため、「いわて県民計画」(平成21年度～平成30年度)に掲げる「希望郷いわて」の実現に向けてさまざまな取組を推進しています。
希望郷いわての実現のためには、県民の皆様「幸福」に関する考え方を知ることが重要と考えており、ここでは、あなたの「幸福度」についてお伺いします。

問3-1 現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。
それぞれの調査項目について、あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください (該当しない調査項目は、「わからない」を選択してください)									
	感じる	じややる感	えとどなまいいい	えとどなまいいい	い感あじまなり	い感じな	なわいか	ら	ら	ら
① 仕事にやりがいを感じますか	5	4	3	2	1	0				
② 必要な収入や所得が得られていると感じますか	5	4	3	2	1	0				
③ ころやからだが健康だと感じますか	5	4	3	2	1	0				
④ 家族と良い関係がとれていると感じますか	5	4	3	2	1	0				
⑤ 子育てがしやすいと感じますか	5	4	3	2	1	0				
⑥ お住まいの地域は安全だと感じますか	5	4	3	2	1	0				
⑦ 地域社会とのつながりを感じますか	5	4	3	2	1	0				
⑧ 子どものためになる教育が行われていると感じますか	5	4	3	2	1	0				
⑨ 地域の歴史や文化に誇りを感じますか	5	4	3	2	1	0				
⑩ 地域の自然環境が守られていると感じますか	5	4	3	2	1	0				
⑪ 住まいに快適さを感じますか	5	4	3	2	1	0				
⑫ 余暇が充実していると感じますか	5	4	3	2	1	0				

問3-2 あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。
あなたの幸福感到近いものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

あなたの現在の幸福感 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
感じている	とや感やじ感	いどえちなら	いだあなとま	じ幸て福	わから
5	4	3	2	1	0

問3-3 あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。該当する全ての番号に○をつけてください

1	家計の状況	
2	就業状況	
3	健康状況	
4	自由な時間・充実した余暇	
5	仕事のやりがい	
6	社会貢献	
7	家族関係	
8	友人関係	
9	職場の人間関係	
10	地域コミュニティとの関係	
11	子育て環境	
12	治安・防災体制	
13	教育環境	
14	地域の歴史・文化	
15	自然環境	
16	居住環境	
17	その他(具体的に：)	

問3-4 あなたは5年後、今より幸福だと思いますか。
最も近いと思うものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

あなたの5年後の幸福感 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
だ今とよ	う幸今	いどえちなら	いだあなとま	じ幸て福	わから
5	4	3	2	1	0

アンケートに回答した方（あなた）について伺います。

問4 最後に、お答えいただいた「あなた」御自身のことについておたずねします。これまでお答えいただいたことを統計的に分析するために必要なものですので、該当する番号に○をつけてください。

(1) 性別 (○は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

(2) 年齢 (満年齢) (○は1つ)

1 20～29 歳	2 30～39 歳	3 40～49 歳
4 50～59 歳	5 60～69 歳	6 70 歳以上

(3) あなたの主なご職業は何ですか (○は1つ)。

1 自営業主	
2 家族従業者	
3 会社役員・団体役員	
4 常用雇用者	※期間を定めずに又は1年を超える期間を定めて雇われる人
5 臨時雇用者 (パート、アルバイトなど)	※日々又は1年以内の期間を定めて雇われる人
6 学生	
7 専業主婦 (主夫)	
8 無職	
9 その他 (具体的に：)	

※ (3)で1～5に○をつけた方のみお答えください。

その業種は何ですか (○は1つ)。

1 農業、林業
2 漁業
3 鉱業、採石業、砂利採取業
4 建設業
5 製造業
6 電気・ガス・熱供給・水道業
7 情報通信業
8 運輸業、郵便業
9 卸売・小売業
10 金融業、保険業
11 不動産業、物品賃貸業
12 学術研究、専門・技術サービス業
13 宿泊業、飲食サービス業
14 その他のサービス業
15 公務
16 その他 (具体的に：)

(4) あなたの世帯構成はどのようになっていますか (○は1つ)。

1 ひとり暮らし
2 夫婦のみ
3 2世代世帯 (親と夫婦、夫婦と子どもなど)
4 3世代世帯 (親と夫婦と子ども、夫婦と子どもと孫、祖父母と親と夫婦など)
5 その他

(5) あなたのお子さんは、何人いますか (同居・別居は問いません)。

1 1人	2 2人	3 3人
4 4人	5 5人以上	6 子どもはいない

※ (5)で1～5に○をつけた方のみお答えください。

あなたのお子さんは、次のどこにありまますか (該当する番号すべてに○をつけてください)。

1 小学校入学前 (乳幼児を含む)
2 小学生
3 中学生
4 高校生
5 高校を卒業し専門学校、短大、大学、大学院に在学
6 学校教育終了で同居
7 学校教育終了で別居
8 その他 (具体的に：)

(6) あなたは岩手県に住んで通算何年になりますか (○は1つ)。

1 1年未満	2 1～5年未満	3 5～10年未満
4 10～20年未満	5 20年以上	

(7) あなたが現在お住まいの市町村はどこですか (○は1つ)。

県央地域	1 盛岡市	2 八幡平市	3 滝沢市	4 雫石町	5 葛巻町
	6 岩手町	7 紫波町	8 矢巾町		
県南地域	9 花巻市	10 北上市	11 遠野市	12 一関市	13 奥州市
	14 西和賀町	15 金ケ崎町	16 平泉町		
沿岸地域	17 宮古市	18 大船渡市	19 陸前高田市	20 釜石市	21 住田町
	22 大槌町	23 山田町	24 岩泉町	25 田野畑村	
県北地域	26 久慈市	27 二戸市	28 普代村	29 軽米町	30 野田村
	31 九戸村	32 洋野町	33 一戸町		

1 調査の目的

岩手県では、「岩手県東日本大震災津波復興計画（※）」を策定し、東日本大震災津波からの復旧・復興への取組を進めるとともに、これと軌を一にしながら、「私たちが実現していきたい岩手の未来」を描いた「いわて県民計画」に掲げる「希望郷いわて」の実現に向けて、計画を推進しています。

この調査は、「いわて県民計画」に掲げる「岩手の未来をつくる7つの政策」を推進していくために、**県民の皆様の御意見を伺いし、次の施策に生かしていく**ために行うものです。

「いわて県民計画」 岩手の未来をつくる7つの政策

- (1) 産業・雇用 ～「産業創造県いわて」の実現～
- (2) 農林水産業 ～「食と緑の創造県いわて」の実現～
- (3) 医療・子育て・福祉 ～「共に生きるいわて」の実現～
- (4) 安全・安心 ～「安心して、心豊かに暮らせるいわて」の実現～
- (5) 教育・文化 ～「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現～
- (6) 環境 ～「環境王国いわて」の実現～
- (7) 社会資本・公共交通・情報基盤 ～「いわてを支える基盤」の実現～

※ 「岩手県東日本大震災津波復興計画」

東日本大震災津波からの復旧・復興への取組を進めるため、平成 23 年 8 月に策定した計画。沿岸地域をはじめとした岩手県全体が、東日本大震災津波を乗り越えて力強く復興するための地域の未来の設計図として、復興に向けての目指す姿や原則、まちづくりのグランドデザイン、具体的取組の内容、復興への歩み等を明らかにしたものです。

2 調査結果の活用方法

県では、平成 13 年度から**政策評価を本格導入**し、県の仕事が目標に向かってうまく機能しているかどうかをチェックし、その結果を次の施策に反映していくことにしています。

今回の**調査結果は、県民の皆様により満足していただけるサービスを提供していくための重要な情報として、政策評価や施策の立案などに活用**することとしています。

3 調査の構成と記入の方法

- (1) 1 ページから 2 ページまでは、調査についての説明です。
3 ページから 24 ページまでが、質問になっています。
- (2) 質問は、問 1～問 6 まであります（問 2 から問 6 までは、さらにいくつかの小問に分かれています）。
- (3) 回答は、あらかじめ設けている**選択肢のあてはまる数字に○印をつけて**ください（この調査票の所定の欄に直接御記入ください）。
- (4) 回答は、全ての項目についてお願いいたします。

記入例

ここでは、問 2（P 4～13）の場合を例示しています。

問 2 次に、1 ページで御説明いたしました「7つの政策」に関連する次の 1 から 46 までの調査項目について、「あなたの重要度」と「あなたの満足度」をお伺いします。あなたの身のまわりを回してみて、あなたの考えに最も近いものをお答えください。

「あなたの重要度」では、あなたの現在の暮らしにとって、調査項目のような状態を実現することが、どれくらい重要であるかをお答えください。

「あなたの満足度」では、あなたの現在の暮らしから見て、調査項目の状態にどれくらい満足しているかをお答えください。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
	重要である	やや重要である	いどちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	満足できる状態に	やや満足できる状態にある	いどちらともいえない	あや満足状態にある	わからない	
19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5
20 交通事故が少ない社会であること。	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5

※ 「あなたの重要度」の記入例

あなたの現在の暮らしにとって
「19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。」という状態を実現することが、どれくらい重要をお答えいただくものです。
この例では、「重要ではない」と思う場合を例示していますので、数字の「1」に○をつけてます。

※ 「あなたの満足度」の記入例

あなたの現在の暮らしから見て
「19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。」は、どれくらい満足できる状態にあるかをお答えいただくものです。
この例では、「やや不満状態にある」と思う場合を例示していますので、数字の「2」に○をつけてます。

このページから調査票になります。

問1 まず最初に伺います。

あなたは、今の生活全般について、どのように感じていますか。
あなたの気持ちに近いものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

あなたの満足度					
(1つ選び、番号に○をつけてください)					
満 足 可 能 な 状 態	状 態 に あ る 可 能 な 状 態	な ど ち ら と も い え	に や や 不 満 な 状 態	不 満 な 状 態 に あ る	わ か ら な い
5	4	3	2	1	0

問2 次に、1 ページで御説明いたしました「7つの政策」に関連する次の1から46の調査項目について、「あなたの重要度」と「あなたの満足度」を伺います。あなたの身のまわりを振り返り、あなたの考えに最も近いものをお答えください。

「あなたの重要度」では、あなたの現在の暮らしにとって、調査項目のような状態を実現することが、どれくらい重要であるかをお答えください。

「あなたの満足度」では、あなたの現在の暮らしから見て、調査項目の状態にどれくらい満足しているかをお答えください。

(1) まず、「産業・雇用」に関する項目について伺います。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重 要 で あ る	や や 重 要 で あ る	な ど ち ら と も い え	い あ ま り 重 要 で な い	重 要 で は な い	わ か ら な い	状 態 に あ る 可 能 な 状 態	な ど ち ら と も い え	に や や 不 満 な 状 態	不 満 な 状 態 に あ る	わ か ら な い	
1 工場や事業所の新設・増設により、県内経済が活性化していること。	5	4	3	2	1	0						
2 次の時代の製造業を担う人材が育ち、県内に定着していること。	5	4	3	2	1	0						
3 地域の農林水産資源や技術を生かした加工食品や工芸品が開発され、販売されていること。	5	4	3	2	1	0						
4 魅力ある観光地づくりに、地域で取り組まれていること。	5	4	3	2	1	0						
5 身近な商店街が、住民に利用され、にぎわっていること。	5	4	3	2	1	0						

(2) 次に、「農林水産業」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	いあまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態	状態にある	やや満足できる	やや不満足な状態	不満足な状態にある	わからない
6 中小企業が、人材や技術力、商品、サービスなどを強化して経営力の向上を図り、更に成長・発展していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
7 海外における県産品の販路の拡大が図られること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
8 県内に職を求めの人が希望どおりに就職できること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	いあまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態	状態にある	やや満足できる	やや不満足な状態	不満足な状態にある	わからない
9 地域の農林水産業の担い手が確保されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
10 消費者ニーズに対応した農林水産物の産地が形成されること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
11 本県農林水産物がブランドとして確立され、販路が拡大していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
12 地域活動や都市との交流により活力ある農山漁村が形成されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
13 地球温暖化防止や生態系の維持など環境に配慮した農林水産業が営まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(3) 次に、「医療・子育て・福祉」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	不満足状態にある	わからない	
14 必要な医療を適切に受けられること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
15 病気の予防や健康づくりを行うために、相談、指導を受けられること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
16 安心して子どもを育てられ、子育てがしやすい環境であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
17 高齢者や障がい者が安心して暮らせる地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(4) 次に、「安全・安心」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態にある	やや満足できる状態にある	どちらともいえない	不満足状態にある	わからない	
18 地域の防災体制が、住民の協力により整っていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
20 交通事故が少ない社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
21 悪質商法、架空請求、多重債務などの消費者トラブルについて、適切な相談や支援を受けられる社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
22 購入する食品の安全性又は信頼性に不安を感じない社会であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
23 岩手に移り住む人や岩手を訪れる人が増え、地域に活力が生まれていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
24 だれもが市民活動に参加できる社会であること。〔市民活動とは、NPO、ボランティア、自治会・町内会（子供会行事への参加、清掃や美化活動等を含む）などの活動をさします。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(5) 次に、「教育・文化」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえ ない	いあまり重要でな い	重要ではない	わからない	満足できる状態 にある	状態にある 満足できる	やや満足できる 状態にある	やや不満な状態 にある	不満な状態にあ る	わからない
25 地域全体が一体となつて青少年の健全育成に取り組んでいること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
26 女性も男性も社会のあらゆる分野に等しく参画し、一人ひとりの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	どちらともいえ ない	いあまり重要でな い	重要ではない	わからない	満足できる状態 にある	状態にある 満足できる	やや満足できる 状態にある	やや不満な状態 にある	不満な状態にあ る	わからない
27 学校が、学力や体力の向上などの目標に向かつて、家庭や地域と一緒に取り組んでいること。〔学力向上とは、小・中学校では、物事をしっかり考える力が身に付き、高等学校では、目標や進路を実現できる学力が身についていること。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
28 子どもたちの学力が向上する教育がされていること。〔子どもは、小学生から高校生までをお考えください。〕	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
29 子どもたちが、自分の良さを知り、人を思いやる心を持つなど、人間性豊かに育っていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
30 子どもたちが、スポーツや運動に取り組むことによつて、体力の向上や心身の健康の保持が図られること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(6) 次に、「環境」に関する項目についてお伺いします。

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	など い あまり重要でな い	重要ではない	わからない	満足できる状態	状態にある	やや満足できる	ない ら ともい え	に あ る 不 満 な 状 態 に あ る	わからない	
31 学校が、障がいのあ る子どもたちを含め、 全ての子どもが共に 学び共に育つ環境と なっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
32 学びたいと思った 時に必要な情報が手 に入り、自分に適した 内容や方法で学ぶこ とができる環境にあ ること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
33 県内の大学などが、 人材の育成や地域の 企業との連携などに より、地域社会に貢献 していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
34 郷土の歴史遺産や 伝統文化に、誇りや愛 着を持ってような取 組がされていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
35 地域や学校などで 文化芸術(芸術、祭り、 行事など)の鑑賞や活 動が活発に行われて いること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
36 外国人に対する理 解が進み外国人も暮 らしやすい地域社会 であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
37 スポーツの国際大 会や国内外の各種大 会において本県選手 が活躍していること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	など い あまり重要でな い	重要ではない	わからない	満足できる状態	状態にある	やや満足できる	ない ら ともい え	に あ る 不 満 な 状 態 に あ る	わからない	
38 地球温暖化防止の ため、環境にやさしい 再生可能エネルギー の利用や省エネルギー 一など二酸化炭素等 の排出量削減の取組 が各地域で活発に行 われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
39 ふだんの暮らしに、 ごみの減量化やリサ イクル(資源ごみの分 別など)が定着してい ること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
40 大気や水がきれい に保たれ、自然や野生 動植物を大切にしな がら生活しているこ と。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

(7) 次に、「社会資本・公共交通・情報基盤」に関する項目についてお伺いします。

ここからは、あなたの行動についてお伺いします。

問3-1 大きな病院と診療所（開業医）の役割分担についてお伺いします。
あなたは、大きな病院と診療所（開業医）の役割分担について知っていますか。

(あてはまるもの1つに○印)

1. 知っている 2. 知らない

調査項目	あなたの重要度 (1つ選び、番号に○をつけてください)					あなたの満足度 (1つ選び、番号に○をつけてください)						
	重要である	やや重要である	など いらい ちとも いえ	あまり重要でない	重要ではない	わからない	満足できる状態	状態にある	やや満足状態にある	不満足状態にある	わからない	
41 高速道路をはじめ、インターチェンジや新幹線駅、港湾、空港などの交通や物流の拠点に通じる道路が整備されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
42 防災施設の整備等が進み、地震や津波、洪水、土砂災害による被害を受けにくい、安心して暮らせる県土であること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
43 道路や下水道などの生活基盤の整備や歩道の段差解消等の地域のバリアフリー化などが進み、快適に暮らせる生活環境になっていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
44 道路や橋梁、河川、公園などの社会資本の維持管理が適切に行われていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
45 鉄道、バスなどの公共交通機関が維持・確保されていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
46 携帯電話やインターネットなどの情報通信ネットワークが暮らしや仕事に生かされていること。	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

問3-2 地球温暖化防止への対応についてお伺いします。

あなたは、地球温暖化防止のため、普段どのような行動に努めていますか。
以下のそれぞれの行動の状況についてお答えください。

行動の内容	行動の状況は			
	だいたい実行している	ときどき実行している	ほとんど実行していない	運転しない
(回答例)「①冷暖房時の室温は適切な温度に設定している」について、「2. ときどき実行している」場合、2に○印をつける。	1	2	3	
①冷暖房時の室温は適切な温度に設定している (冷房時 28℃以上、暖房時 20℃以下)	1	2	3	
②不要なときはテレビや照明などのスイッチを切る	1	2	3	
③食事は残さず食べるなどごみを減らす	1	2	3	
④火力調節を行うなど省エネを心がけて調理する	1	2	3	
⑤詰め替え用洗剤や古紙を再利用した紙製品など環境に配慮した商品を利用する	1	2	3	
⑥洗剤や食器洗いのときに水を流したままにしない	1	2	3	
⑦外出はできるだけ自動車の利用を控え、自転車や公共交通機関を利用する	1	2	3	
⑧自動車を運転するときに、少しゆるやかな発進や、加減速の少ない運転など燃費向上を心がけている (注)	1	2	3	4

(注) 自動車を運転しない人は「4. 運転しない」を選択してください。

問3-3 ごみの減量化への対応についてお伺いします。

あなたは、ごみの減量化などのため、普段どのような行動に努めていますか。
以下のそれぞれの行動の状況についてお答えください。

行動の内容	行動の状況は			
	だいたい実行している	ときどき実行している	ほとんど実行していない	
(回答例)「①買い物のときは買い物袋 (マイバッグ) を持参し、レジ袋は辞退している」について、「2. ときどき実行している」場合、2に○印をつける。	1	2	3	
①買い物のときは買い物袋 (マイバッグ) を持参し、レジ袋は辞退している	1	2	3	
②過剰な包装を断ったり、簡易な包装の商品を選んでいる	1	2	3	
③コンポスト (注) などにより生ごみを再資源化したり、水切りネットを使用して、生ごみの量を減らしている	1	2	3	
④再生品 (リサイクル商品) を積極的に購入している	1	2	3	
⑤使い捨て商品の購入を控えている	1	2	3	
⑥リターナブル容器 (繰り返し使用される容器) や詰め替え商品を利用している	1	2	3	
⑦リサイクルショップを利用している	1	2	3	
⑧リサイクルやごみの分別収集に協力している (例えば、古紙、ビン、カン、牛乳パック、発泡トレイ、ペットボトル)	1	2	3	

(注) コンポスト：生ごみを発酵させて堆肥にする方法

問4 県では、“私たちが実現していきたい岩手の未来”を創っていくため、「希望郷いわて」の実現に向けてさまざまな取組を推進しています。希望郷いわての実現のため、あなたの「幸福」に関する行動や考え方等についてお伺いします。

問4-1 現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。①～⑭の各項目について、あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください (該当しない調査項目は、「わからない」を選択してください)					
	感じる	じや るや 感	えと ど な も ち い ら	い 感 あ じ ま な り	い 感 な わ い か ら	
① 仕事にやりがいを感じますか	5	4	3	2	1	0
② 必要な収入や所得が得られていると感じますか	5	4	3	2	1	0
③ ころやからだが健康だと感じますか	5	4	3	2	1	0
④ 家族と良い関係がとれていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑤ 子育てがしやすいと感じますか	5	4	3	2	1	0
⑥ お住まいの地域は安全だと感じますか	5	4	3	2	1	0
⑦ 地域社会とのつながりを感じますか	5	4	3	2	1	0
⑧ あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑨ 子どものためになる教育が行われていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑩ 地域の歴史や文化に誇りを感じますか	5	4	3	2	1	0
⑪ 自然に恵まれていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑫ 地域の自然環境が守られていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑬ 住まいに快適さを感じますか	5	4	3	2	1	0
⑭ 余暇が充実していると感じますか	5	4	3	2	1	0

問4-2 あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。最も近いものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

感じている	あなたの現在の幸福感 (1つ選び、番号に○をつけてください)				
	とや 感 じ て い だ	い ど え ち な い も と	い だ あ ま り い 感 じ て 福 せ い	じ 幸 い だ な い 感 じ て 福 せ い	わ か ら な い
5	4	3	2	1	0

問4-3 あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。該当する全ての番号に○をつけてください

1	家計の状況	
2	就業状況	
3	健康状況	
4	自由な時間・充実した余暇	
5	仕事のやりがい	
6	社会貢献	
7	家族関係	
8	友人関係	
9	職場の人間関係	
10	地域コミュニティとの関係	
11	子育て環境	
12	治安・防災体制	
13	教育環境	
14	地域の歴史・文化	
15	自然環境	
16	居住環境	
17	その他	具体的に： []

問4-4 あなたの周りの人の幸福等について、あなた自身の実感をおたずねします。①～⑥の各項目について、あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください				
	感じる	やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない
① 身近な周りの人が幸福であると感じますか	5	4	3	2	1
② 周りの人に認められていると感じますか	5	4	3	2	1
③ 大切な人を幸福にしていると感じますか	5	4	3	2	1
④ 安定した日々を過ごしていると感じますか	5	4	3	2	1
⑤ 人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができていると感じますか	5	4	3	2	1
⑥ 周りの人たちと同じくらい幸福だと感じますか	5	4	3	2	1

問5 県では、幸福に関連する項目として、「つきあい・交流」、「信頼」、「社会参加」といった「つながり」に注目しており、ここからはあなたの「つながり」に関する行動や考え方等についてお伺いします。

問5-1 あなたは、近所の方とどのようなおつきあいをされていますか。つきあいの程度について、次のうちから当てはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- 1 互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている人もいる
- 2 日常的に立ち話をする程度のつきあいはしている
- 3 あいさつ程度の最小限のつきあいかしていかない
- 4 つきあいは全くしていかない

問5-2 つきあっている近所の方の数について、次のうちから当てはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- 1 近所のかなり多くの人と面識・交流がある（概ね20人以上）
- 2 ある程度の人との面識・交流がある（概ね5～19人）
- 3 近所のごく少数の人とだけと面識・交流がある（概ね4人以下）
- 4 隣の人がだれかかも知らない

問5-3 あなたは、①友人・知人、②親戚・親類とどのようなおつきあいをされていますか。次のうちから当てはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	該当するものを1つ選び、番号に○をつけてください。				
	日常的に（毎日から週に数回程度）	ある程度（週に1回程度）	ときどきある（月に1回程度）	程度（年に1回程度）	全くない
① 友人・知人とのつきあい（学校や職場以外で）	5	4	3	2	1
② 親戚・親類とのつきあい（同居している方を除く）	5	4	3	2	1

問5-4 あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。あなたの考え方に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

で人ほ きはと は信ん る頼ど の	両 者の中 間	は越注 ない意 した事 ことに	わ から ない
3	2	1	0

問5-5 「旅先」や「見知らぬ土地」で出会う人に対して、信頼できると思いますか。あなたの考え方に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

で人ほ きはと は信ん る頼ど の	両 者の中 間	は越注 ない意 した事 ことに	わ から ない
3	2	1	0

問5-6 あなたは現在、①地縁的な活動、②スポーツ・趣味・娯楽活動、③ボランティア・NPO・市民活動をされていますか。次のうちから当てはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	活動している	活動していない
① 地縁的な活動 (自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会など)	2	1
② スポーツ・趣味・娯楽活動 (各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習など)	2	1
③ ボランティア・NPO・市民活動 (まちづくり、高齢者・障がい者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災・環境、国際協力活動など)	2	1

問5-7 あなたのお住まいの地域（小・中学校区から市町村の範囲）に対する実感をおたずねします。①～④の各項目について、あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください				
	感じる	やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない
① 地域への愛着を感じて いますか	5	4	3	2	1
② ご近所とのつきあいは よいと感じますか	5	4	3	2	1
③ 信頼できる人が身近に いると感じますか	5	4	3	2	1
④ 地域での活動や社会貢 献活動に参加できている と感じますか	5	4	3	2	1

アンケートに回答した方（あなた）について伺います。

問6 最後に、お答えいただいた「あなた」御自身のことについておたずねします。これまでお答えいただいたことを統計的に分析するために必要なもので、該当する番号に○をつけてください。

(1) 性別 (○は1つ)

1	男性	2	女性
---	----	---	----

(2) 年齢 (満年齢) (○は1つ)

1	18～19 歳	2	20～29 歳	3	30～39 歳	4	40～49 歳
5	50～59 歳	6	60～69 歳	7	70 歳以上		

(3) あなたの主なご職業は何ですか (○は1つ)。

1	自営業主		
2	家族従業者		
3	会社役員・団体役員		
4	常用雇用者	※期間を定めずには1年を超える期間を定めて雇われる人	
5	臨時雇用者 (パート、アルバイトなど)	※日々又は1年以内の期間を定めて雇われる人	
6	学生		
7	専業主婦 (主夫)		
8	無職		
9	その他 (具体的に：)		

※ (3)で1～5に○をつけた方のみお答えください。
その業種は何ですか (○は1つ)。

1	農業、林業
2	漁業
3	鉱業、採石業、砂利採取業
4	建設業
5	製造業
6	電気・ガス・熱供給・水道業
7	情報通信業
8	運輸業、郵便業
9	卸売・小売業
10	金融業、保険業
11	不動産業、物品賃貸業
12	学術研究、専門・技術サービス業
13	宿泊業、飲食サービス業
14	その他のサービス業
15	公務
16	その他 (具体的に：)

(4) あなたの世帯構成はどのようになっていますか (○は1つ)。

1	ひとり暮らし
2	夫婦のみ
3	2世代世帯 (親と夫婦、夫婦と子どもなど)
4	3世代世帯 (親と夫婦と子ども、夫婦と子どもと孫、祖父母と親と夫婦など)
5	その他

(5) あなたのお子さんは、何人いますか (同居・別居は問いません)。

1	1人	2	2人	3	3人
4	4人	5	5人以上	6	子どもはいない

※ (5)で1～5に○をつけた方のみお答えください。
あなたのお子さんは、次のどこにあってはまりますか (該当する番号すべてに○をつけてください)。

1	小学校入学前 (乳幼児を含む。)
2	小学生
3	中学生
4	高校生
5	高校を卒業し専門学校、短大、大学、大学院に在学
6	学校教育終了で同居
7	学校教育終了で別居
8	その他 (具体的に：)

(6) あなたは岩手県に住んで通算何年になりますか (○は1つ)。

1	1年未満	2	1～5年未満	3	5～10年未満
4	10～20年未満	5	20年以上		

(7) あなたが現在お住まいの市町村はどこですか (○は1つ)。

県央地域	1	盛岡市	2	八幡平市	3	滝沢市	4	雫石町	5	葛巻町
	6	岩手町	7	紫波町	8	矢巾町				
県南地域	9	花巻市	10	北上市	11	遠野市	12	一関市	13	奥州市
	14	西和賀町	15	金ケ崎町	16	平泉町				
沿岸地域	17	宮古市	18	大船渡市	19	陸前高田市	20	釜石市	21	住田町
	22	大槌町	23	山田町	24	岩泉町	25	田野畑村		
県北地域	26	久慈市	27	二戸市	28	普代村	29	軽米町	30	野田村
	31	九戸村	32	洋野町	33	一戸町				

平成 28 年及び平成 29 年
「県の施策に関する県民意識調査」の分析結果

はじめに

1 調査の目的

県では、「いわて県民計画」の政策に関連する項目について、県民の皆様がどの程度の重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか等を定期的に把握するため、県の施策に関する県民意識調査（以下、県民意識調査という）を実施している。

平成 28 年及び平成 29 年の県民意識調査において、岩手の幸福に関する指標の検討に活用するため、県民の主観的幸福感等に関する調査を実施した。

2 調査の概要

	平成 28 年県民意識調査	平成 29 年県民意識調査
(1) 調査対象	県内に居住する 20 歳以上の男女	県内に居住する 18 歳以上の男女
(2) 調査対象数	5,000 人	〃
(3) 抽出方法	選挙人名簿からの層化二段無作為抽出	〃
(4) 調査方法	設問票によるアンケート調査（郵送法）	〃
(5) 調査時期	平成 28 年 1～2 月	平成 29 年 1～2 月
(6) 調査項目	ア 生活全般の満足度 イ いわて県民計画の 7 つの政策に関連する 46 項目に係る重要度、満足度 ウ 幸福感等に関する調査	ア 生活全般の満足度 イ いわて県民計画の 7 つの政策に関連する 46 項目に係る重要度、満足度 ウ 県民の普段の行動について エ 幸福感等に関する調査 オ つながりに関する調査
(7) 有効回収率	71.5% (3,576 人/5,000 人)	68.4% (3,422 人/5,000 人)

(8) 回答者属性

() 内は%

男女別	回答者数		割合	
	(H28)	(H29)	(H28)	(H29)
男性	1,480	1,450	(41.4)	(42.4)
女性	1,929	1,907	(53.9)	(55.7)
無回答	167	65	(4.7)	(1.9)

年齢別	回答者数		割合	
	(H28)	(H29)	(H28)	(H29)
18～19 歳	-	47	-	(1.4)
20～29 歳	209	203	(5.8)	(5.9)
30～39 歳	372	330	(10.4)	(9.7)
40～49 歳	497	506	(13.9)	(14.8)
50～59 歳	617	617	(17.3)	(18.0)
60～69 歳	811	838	(22.7)	(24.5)
70 歳以上	904	822	(25.3)	(24.0)
無回答	166	59	(4.6)	(1.7)

居住地別	回答者数		割合	
	(H28)	(H29)	(H28)	(H29)
県央広域振興圏	1,014	976	(28.3)	(28.5)
県南広域振興圏	1,065	1,039	(29.8)	(30.4)
沿岸広域振興圏	890	821	(24.9)	(24.0)
県北広域振興圏	607	586	(17.0)	(17.1)

職業別	回答者数		割合	
	(H28)	(H29)	(H28)	(H29)
自営業主	295	276	(8.2)	(8.1)
家族従業者	147	149	(4.1)	(4.4)
会社・団体役員	198	190	(5.5)	(5.5)
常用雇用者	938	965	(26.2)	(28.2)
臨時雇用者	403	421	(11.3)	(12.3)
学生	24	67	(0.7)	(2.0)
専業主婦(主夫)	435	449	(12.2)	(13.1)
無職(60代未満)	91	61	(2.5)	(1.8)
無職(60代以上)	731	651	(20.4)	(19.0)
その他	125	117	(3.5)	(3.4)
無回答	189	76	(5.3)	(2.2)

3 用語の解説

- (1) 生活満足度…調査対象者の生活全般の満足度について、5段階評価で調査したもの。
- (2) 主観的幸福感…「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、5段階で評価されたもの。
- (3) 領域別実感…主観的幸福感に関連するとされる領域ごとの実感を問う設問に対し、5段階で評価されたもの。

4 その他

- ・ 県民意識調査の集計の際には、実際の回答数に広域振興圏別の人口構成比を考慮することによって、県全体の調査結果を実勢に近づける集計（母集団拡大集計）を行っているが、本分析においては、広域振興別以外の複数の属性（性別、年齢階層別、世帯構成別等）による分析を行うため、広域振興圏別の母集団拡大集計は実施していない。そのため、数値が「県の施策に関する県民意識調査結果報告書」に示された値と異なる部分がある。
- ・ 各属性別の集計結果については、属性不明の回答を除いたものとなっている。
- ・ 生活満足度、主観的幸福感、領域別実感の平均値は、調査で得られた5段階評価に1から5点を配点し算出している。なお、「わからない」の回答は含めていない。
- ・ 四捨五入の関係で合計と内訳の計とが一致しない場合がある。

第1章 主観的幸福感について

【結果概要】

- ・ 平成28年及び29年の調査結果で、大きく傾向が異なる項目はなかった。
- ・ 主観的幸福感、同じ県民意識調査で把握した生活満足度と異なる結果であったことから、生活満足度と別に主観的幸福感を測定する意義がある。
- ・ 多くの属性別集計結果において、先行研究と同様の傾向であった

1 設問

先行研究等における事例を参考に、次の設問により調査対象者の主観的幸福感を調査した。選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、5段階評価とした。

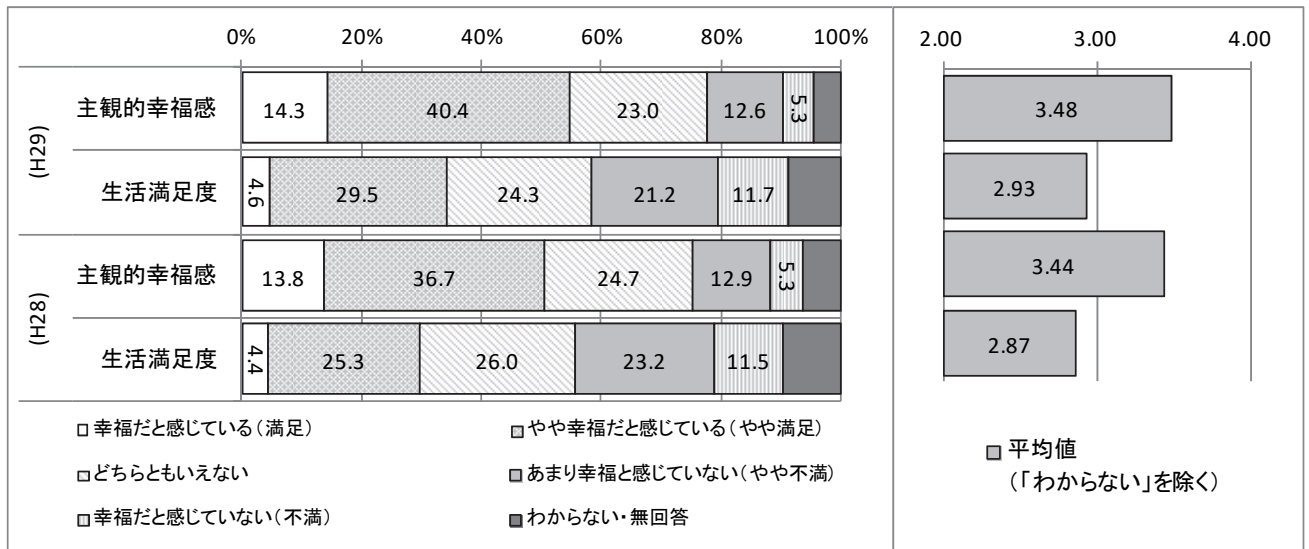
設問	あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。
選択肢	5 幸福だと感じている 4 やや幸福だと感じている 3 どちらともいえない 2 あまり幸福だと感じていない 1 幸福だと感じていない 0 わからない

2 集計結果

(1) 県全体

半数以上が「幸福」、「やや幸福」と回答し、生活満足度とは異なる結果を示した。

図1 主観的幸福感と生活満足度の結果（県全体）

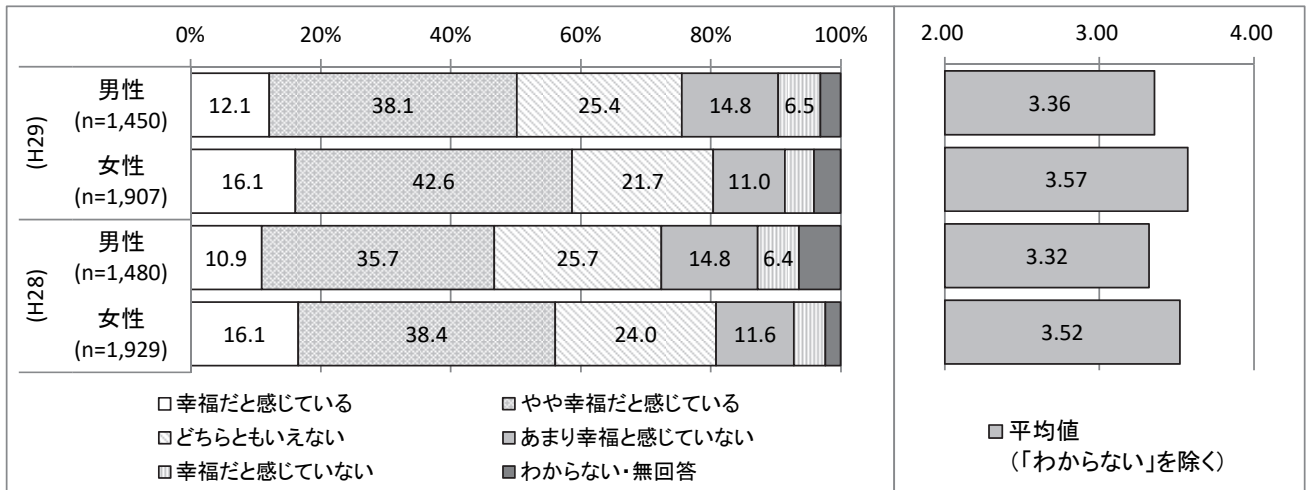


※選択肢の()内は、生活満足度の設問における選択肢を表す

(2) 性別集計

男性よりも女性の主観的幸福感が高かった。

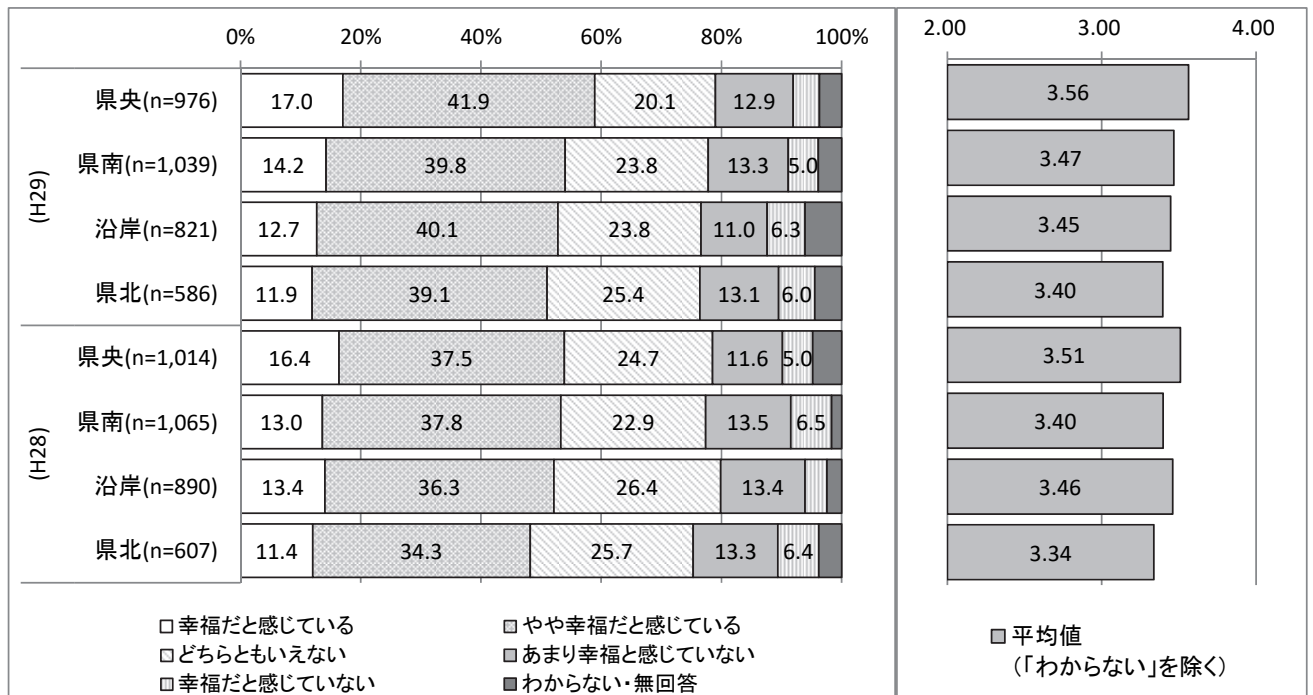
図2 主観的幸福感 (性別)



(3) 居住地別集計

県央地域の主観的幸福感が高く、県北地域の主観的幸福感は低かった。

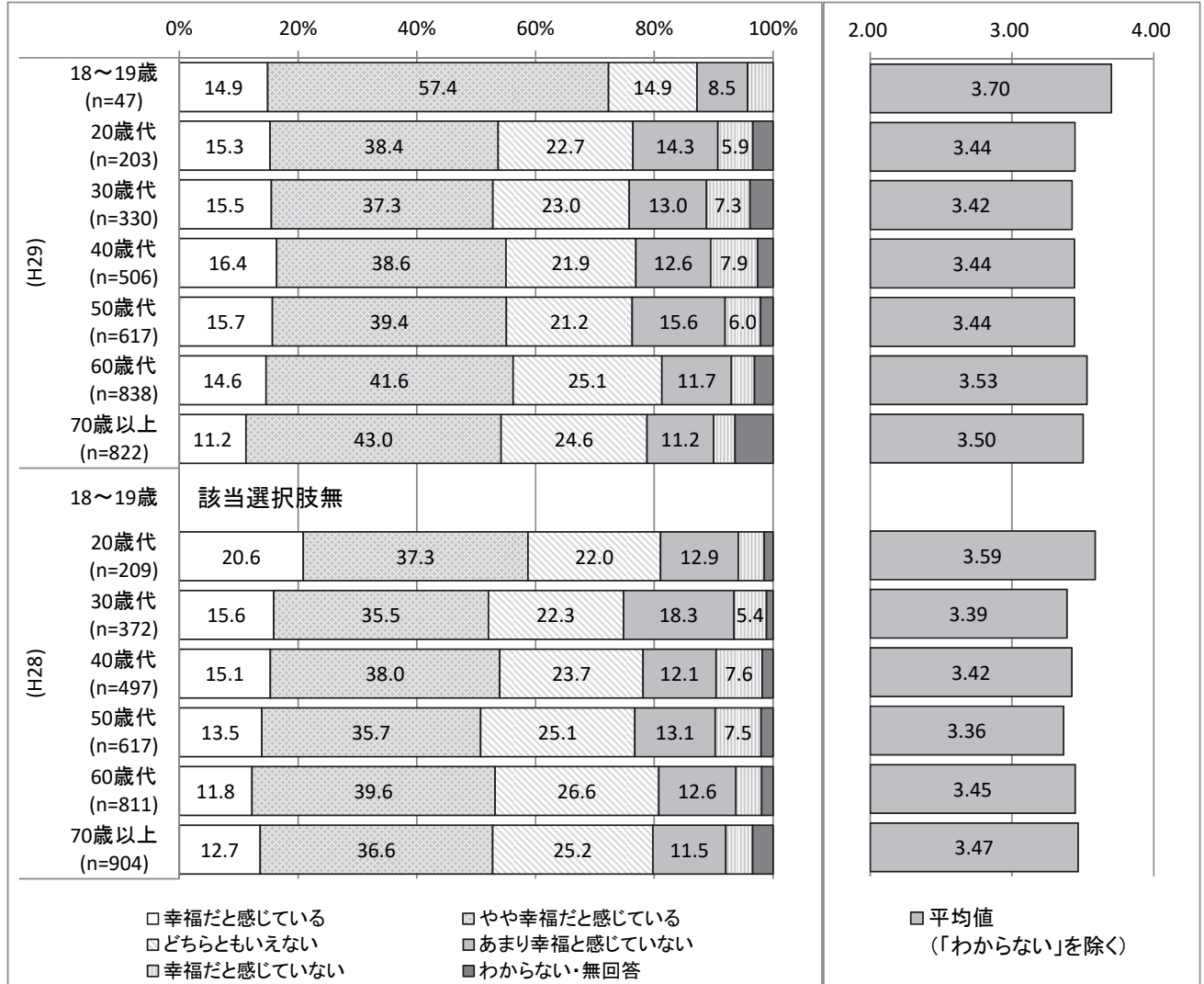
図3 主観的幸福感 (居住地別)



(4) 年齢階層別集計

年齢階層別に顕著な差はみられなかったが、30～50歳代の主観的幸福感が低い傾向があった。

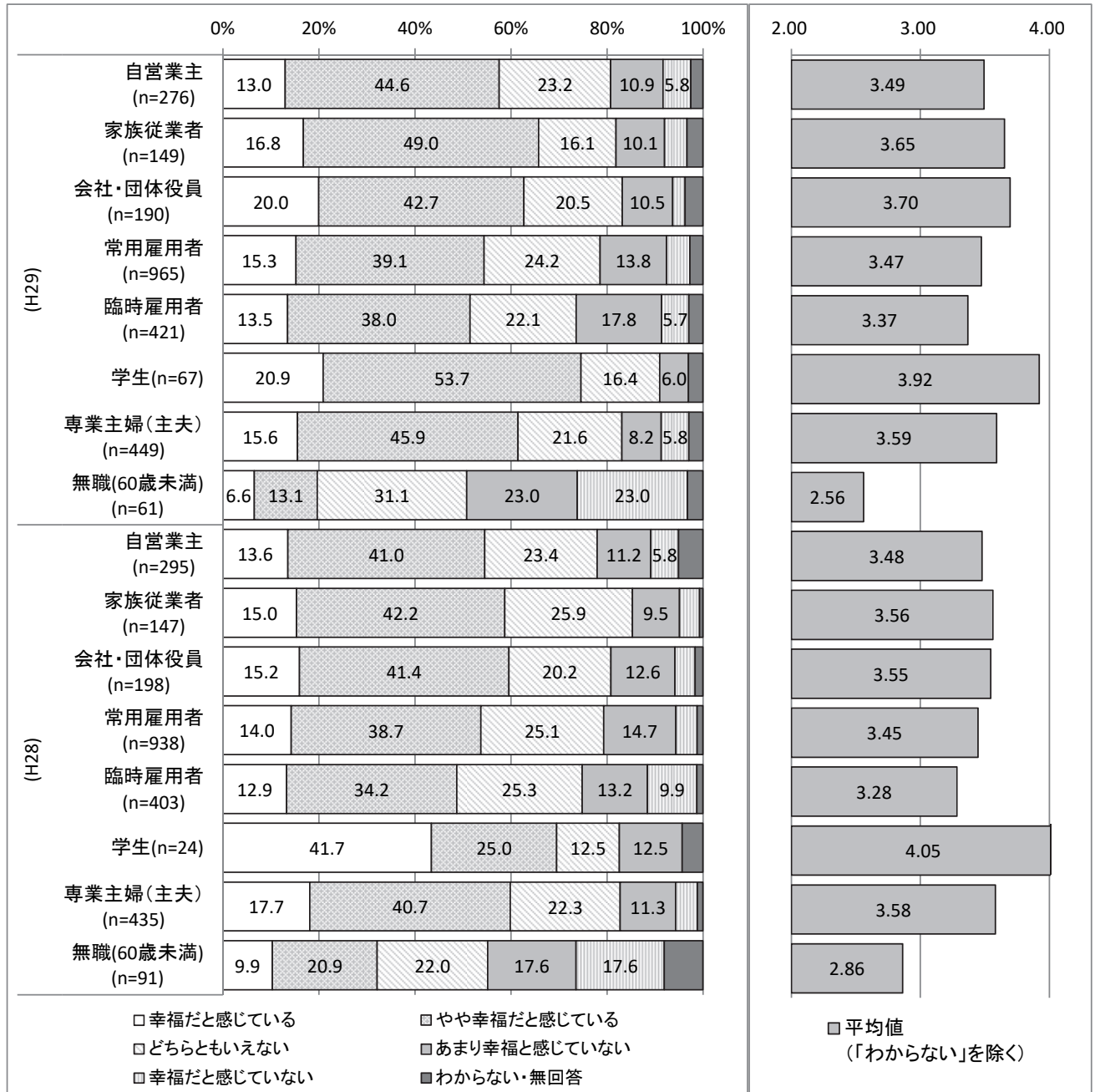
図4 主観的幸福感（年齢階層別）



(5) 職業別集計

学生の主観的幸福感は高く、臨時雇用者及び無職の主観的幸福感は低かった。

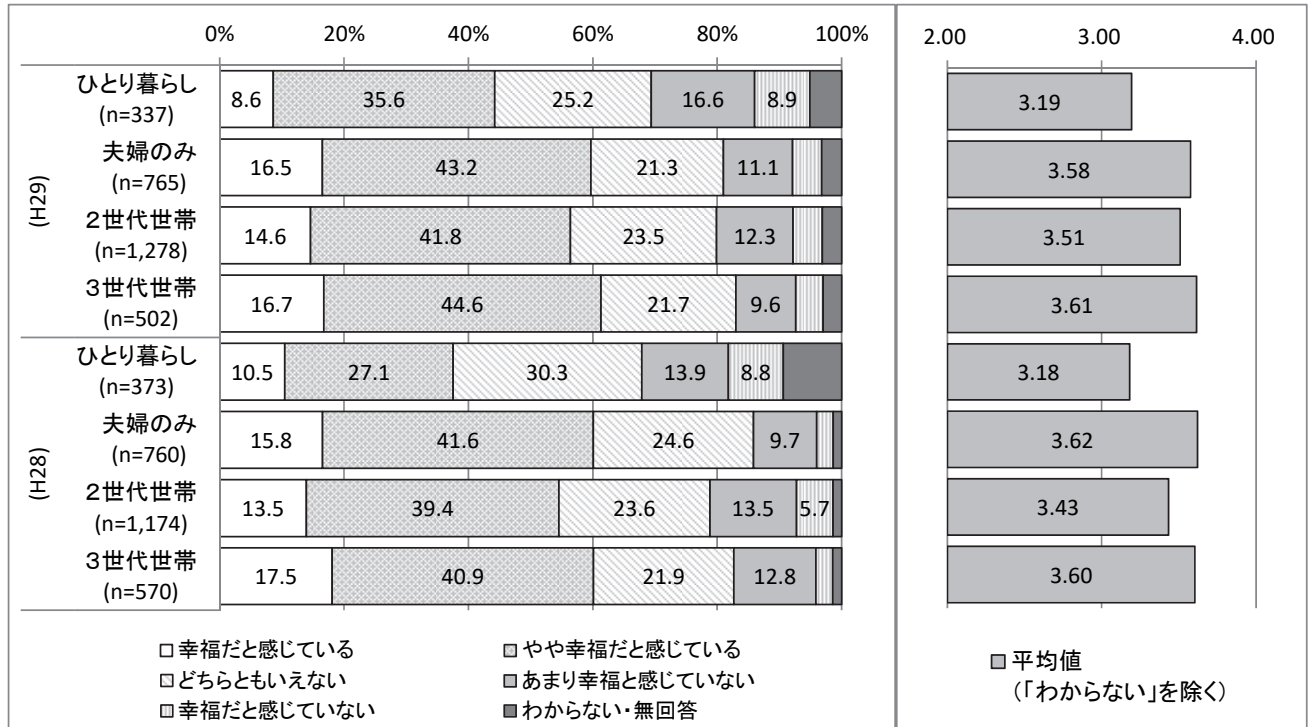
図5 主観的幸福感（職業別）



(6) 世帯構成別集計

他の世帯構成に比べ、一人暮らしの主観的幸福度は低かった。

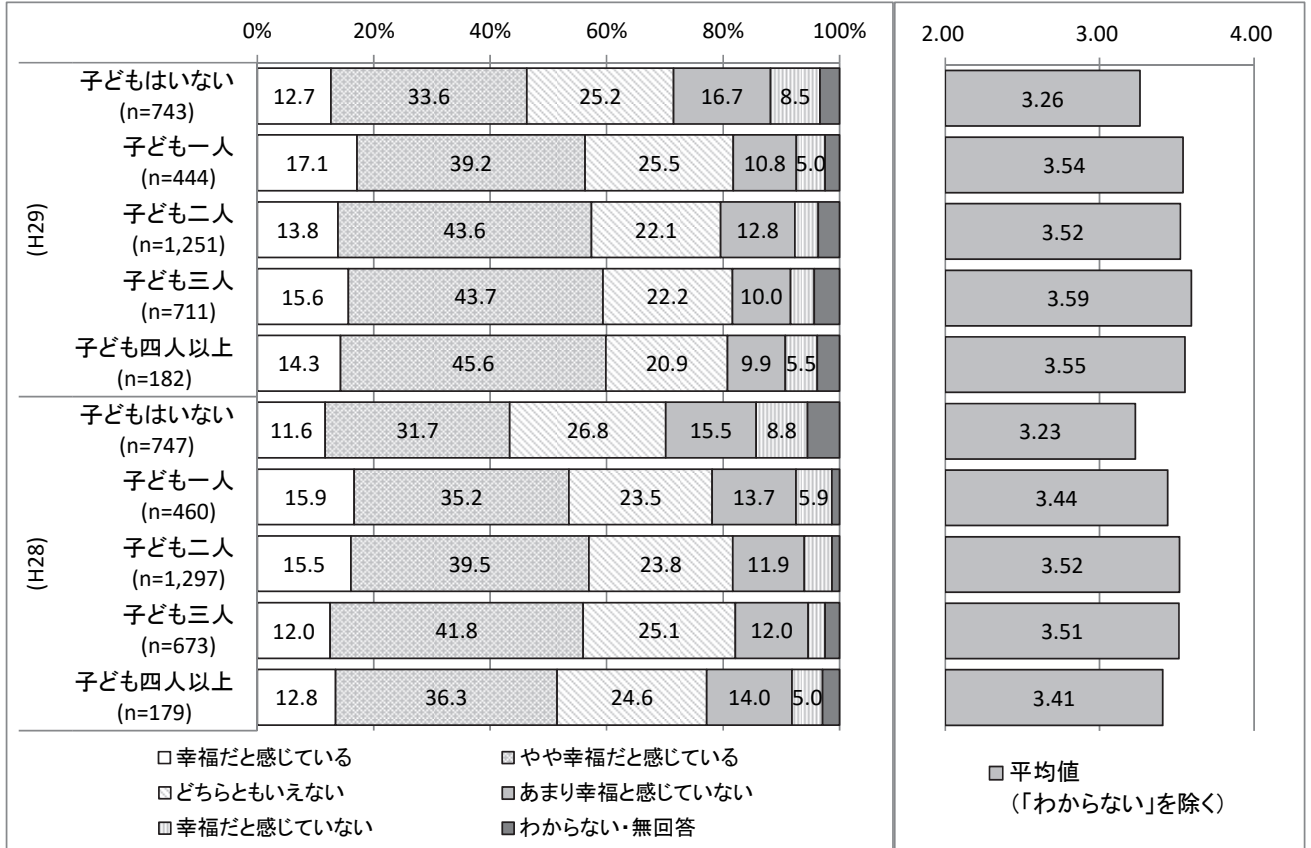
図6 主観的幸福感（世帯構成別）



(7) 子どもの人数別集計

子どもがいない場合に比べ、子どもがいる方が主観的幸福感が高かった。

図7 主観的幸福感（子どもの人数別）



第2章 幸福を判断する際に重視した項目について

【結果概要】

- ・ 平成28年及び29年の調査結果で、大きく傾向が異なる項目はなかった。
- ・ 内閣府（2013）の調査結果と大きな差はみられなかった。
- ・ 性別や年齢階層によって重視する項目が異なっていた。
- ・ 幸福感が高い層※1は関係性を重視し、幸福感が低い層※2は家計の状況を重視する傾向があった。

※1：幸福感が高い層：主観的幸福感の設問で、「幸福」「やや幸福」を選択した回答者

※2：幸福感が低い層：主観的幸福感の設問で、「あまり幸福でない」「幸福でない」を選択した回答者

1 設問

先行研究等における事例を参考に、調査対象者が幸福かどうか判断する際に重視した事項を調査した。

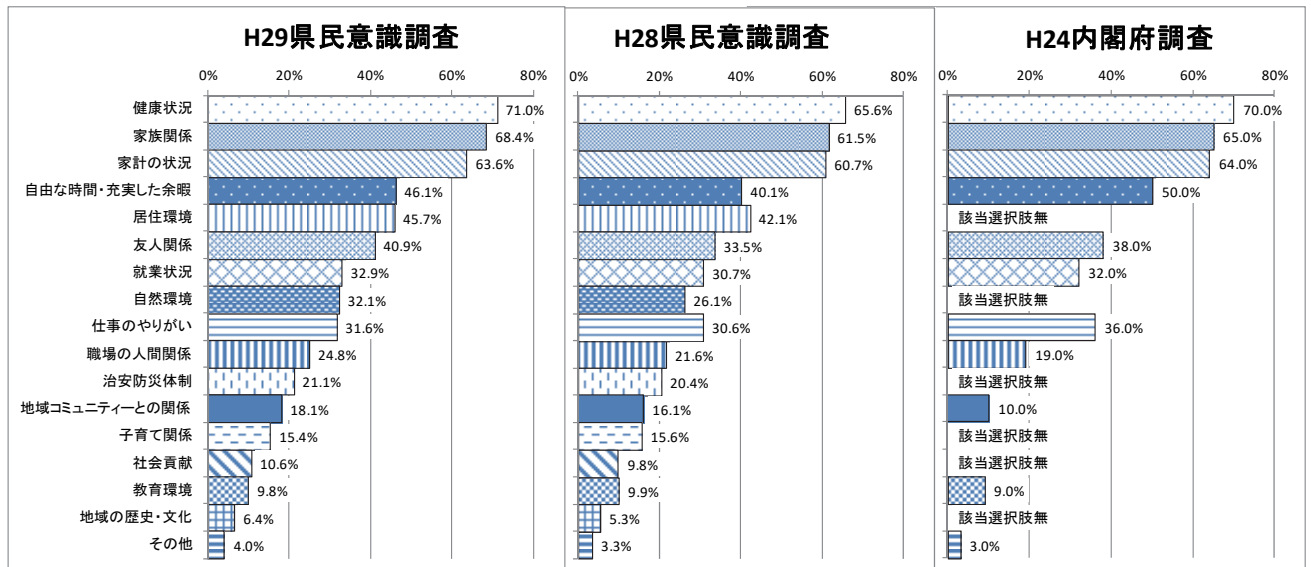
設問	あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。（複数回答可）	
選択肢	1 家計の状況	10 地域コミュニティとの関係
	2 就業状況	11 子育て環境
	3 健康状況	12 治安・防災体制
	4 自由な時間・充実した余暇	13 教育環境
	5 仕事のやりがい	14 地域の歴史・文化
	6 社会貢献	15 自然環境
	7 家族関係	16 居住環境
	8 友人関係	17 その他（具体的に： ）
	9 職場の人間関係	

2 集計結果

(1) 県全体

全国と同様に、健康状況、家族関係及び家計の状況が重視される傾向があった。

図8 幸福かどうか判断する際に重視する項目（県全体）



出所：内閣府経済社会総合研究所(2013)「生活の質に関する調査」。

(2) 属性別順位

性別、年齢階層別に重視した項目の順位については、性別では大きな差がなかったのに対して、年齢階層別では比較的大きな差があった。

表1 幸福かどうか判断する際に重視する項目の順位（性別、年齢階層別）

平成29年

	全体	男性	女性	18～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代
1位	健康状況	健康状況	健康状況	友人関係	自由な時間・充実した余暇	家計の状況	家族関係	健康状況	健康状況	健康状況
2位	家族関係	家計の状況	家族関係	自由な時間・充実した余暇	健康状況	家族関係	家計の状況	家族関係	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家族関係	家計の状況	健康状況	家族関係	健康状況	健康状況	家計の状況	家計の状況	家計の状況
4位	自由な時間・充実した余暇	居住環境	自由な時間・充実した余暇	家族関係	友人関係	自由な時間・充実した余暇	就業状況	居住環境	居住環境	居住環境
5位	居住環境	自由な時間・充実した余暇	居住環境	家計の状況	家計の状況	就業状況	自由な時間・充実した余暇	就業状況	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇
6位	友人関係	友人関係	友人関係	居住環境	就業状況	居住環境	居住環境	自由な時間・充実した余暇	自然環境	友人関係
7位	就業状況	仕事のやりがい	就業状況	就業状況	仕事のやりがい	友人関係	仕事のやりがい	仕事のやりがい	友人関係	自然環境
8位	自然環境	就業状況	自然環境	教育環境	職場の人間関係	仕事のやりがい	職場の人間関係	友人関係	仕事のやりがい	治安防災体制
9位	仕事のやりがい	自然環境	仕事のやりがい	自然環境	居住環境	職場の人間関係	友人関係	職場の人間関係	就業状況	地域コミュニティとの関係
10位	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	仕事のやりがい	自然環境	子育て関係	子育て関係	自然環境	治安防災体制	仕事のやりがい
11位	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	職場の人間関係	子育て関係	自然環境	自然環境	治安防災体制	地域コミュニティとの関係	就業状況
12位	地域コミュニティとの関係	地域コミュニティとの関係	地域コミュニティとの関係	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	地域コミュニティとの関係	職場の人間関係	社会貢献
13位	子育て関係	子育て関係	子育て関係	地域の歴史・文化	地域コミュニティとの関係	教育環境	教育環境	子育て関係	社会貢献	地域の歴史・文化
14位	社会貢献	社会貢献	教育環境	その他	社会貢献	地域コミュニティとの関係	地域コミュニティとの関係	社会貢献	子育て関係	教育環境
15位	教育環境	教育環境	社会貢献	社会貢献	教育環境	社会貢献	社会貢献	教育環境	地域の歴史・文化	子育て関係
16位	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	子育て関係	その他	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	教育環境	職場の人間関係
17位	その他	その他	その他	地域コミュニティとの関係	地域の歴史・文化	その他	その他	その他	その他	その他

平成28年

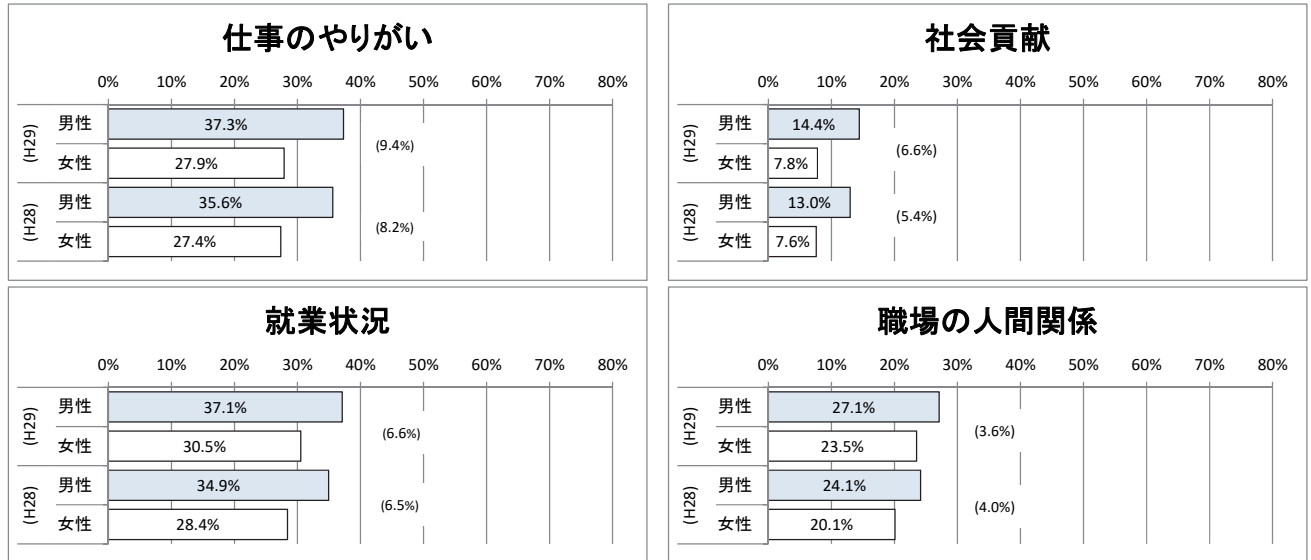
	全体	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1位	健康状況	健康状況	健康状況	-	自由な時間・充実した余暇	家計の状況	家計の状況	健康状況	健康状況	健康状況
2位	家族関係	家計の状況	家族関係	-	家族関係	家族関係	健康状況	家計の状況	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家族関係	家計の状況	-	健康状況	健康状況	家族関係	家族関係	家計の状況	家計の状況
4位	居住環境	居住環境	居住環境	-	家計の状況	就業状況	就業状況	居住環境	居住環境	居住環境
5位	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	-	友人関係	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	就業状況	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇
6位	友人関係	仕事のやりがい	友人関係	-	就業状況	仕事のやりがい	仕事のやりがい	自由な時間・充実した余暇	友人関係	友人関係
7位	就業状況	就業状況	就業状況	-	仕事のやりがい	居住環境	居住環境	仕事のやりがい	自然環境	自然環境
8位	仕事のやりがい	友人関係	仕事のやりがい	-	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	友人関係	仕事のやりがい	治安防災体制
9位	自然環境	自然環境	自然環境	-	居住環境	友人関係	友人関係	自然環境	就業状況	地域コミュニティとの関係
10位	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	-	子育て関係	子育て関係	子育て関係	職場の人間関係	治安防災体制	仕事のやりがい
11位	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	-	自然環境	治安防災体制	自然環境	治安防災体制	地域コミュニティとの関係	社会貢献
12位	地域コミュニティとの関係	地域コミュニティとの関係	子育て関係	-	治安防災体制	自然環境	治安防災体制	地域コミュニティとの関係	職場の人間関係	教育環境
13位	子育て関係	子育て関係	地域コミュニティとの関係	-	社会貢献	教育環境	教育環境	子育て関係	社会貢献	就業状況
14位	教育環境	社会貢献	教育環境	-	教育環境	地域コミュニティとの関係	地域コミュニティとの関係	教育環境	子育て関係	地域の歴史・文化
15位	社会貢献	教育環境	社会貢献	-	地域コミュニティとの関係	社会貢献	社会貢献	社会貢献	地域の歴史・文化	子育て関係
16位	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	-	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	その他	地域の歴史・文化	教育環境	職場の人間関係
17位	その他	その他	その他	-	その他	その他	地域の歴史・文化	その他	その他	その他

(3) 性別集計

男性が重視していた項目は、仕事のやりがい、就業状況、社会貢献、職場の人間関係であった。

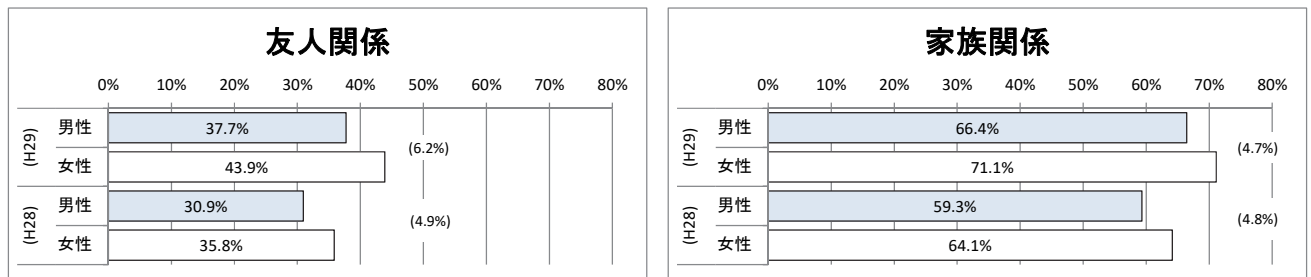
女性が重視していた項目は、友人関係、家族関係であった。

図9 男性が重視していた項目



※カッコ内に差を示す。

図10 女性が重視していた項目



※カッコ内に差を示す。

(4) 年齢階層別集計

年齢が低い程重視される項目は、自由な時間・充実した余暇、仕事のやりがい、職場の人間関係であった。

年齢が高い程重視される項目は、自然環境、地域コミュニティとの関係であった。

30～50歳代に重視される項目は、家族関係、家計の状況、子育て関係、教育環境であった。

図11 年齢が低い程重視される項目

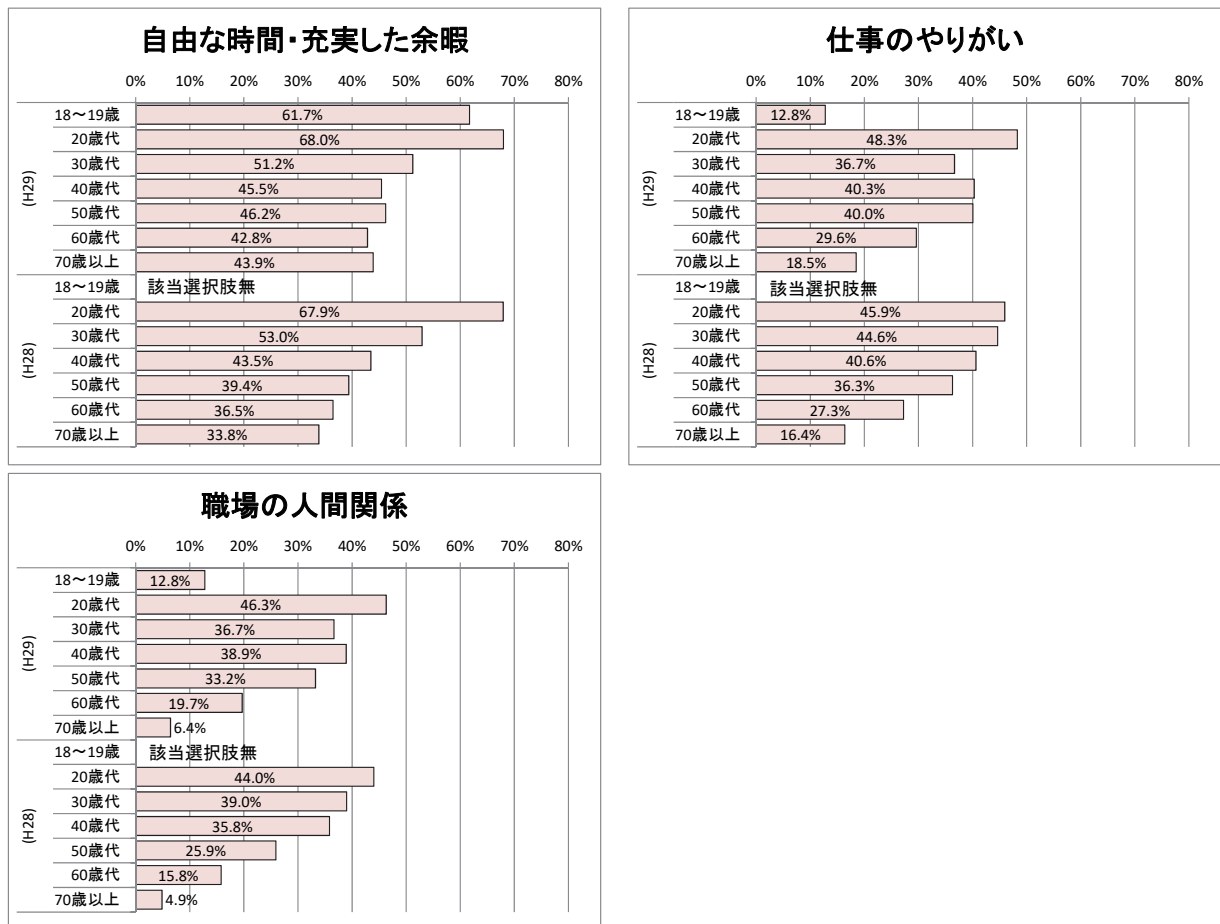


図12 年齢が高い程重視される項目

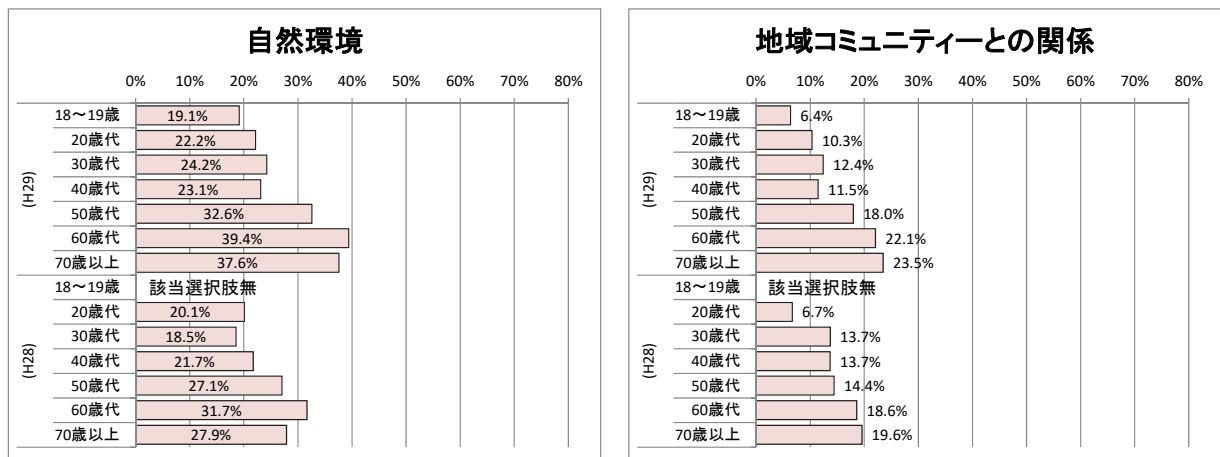
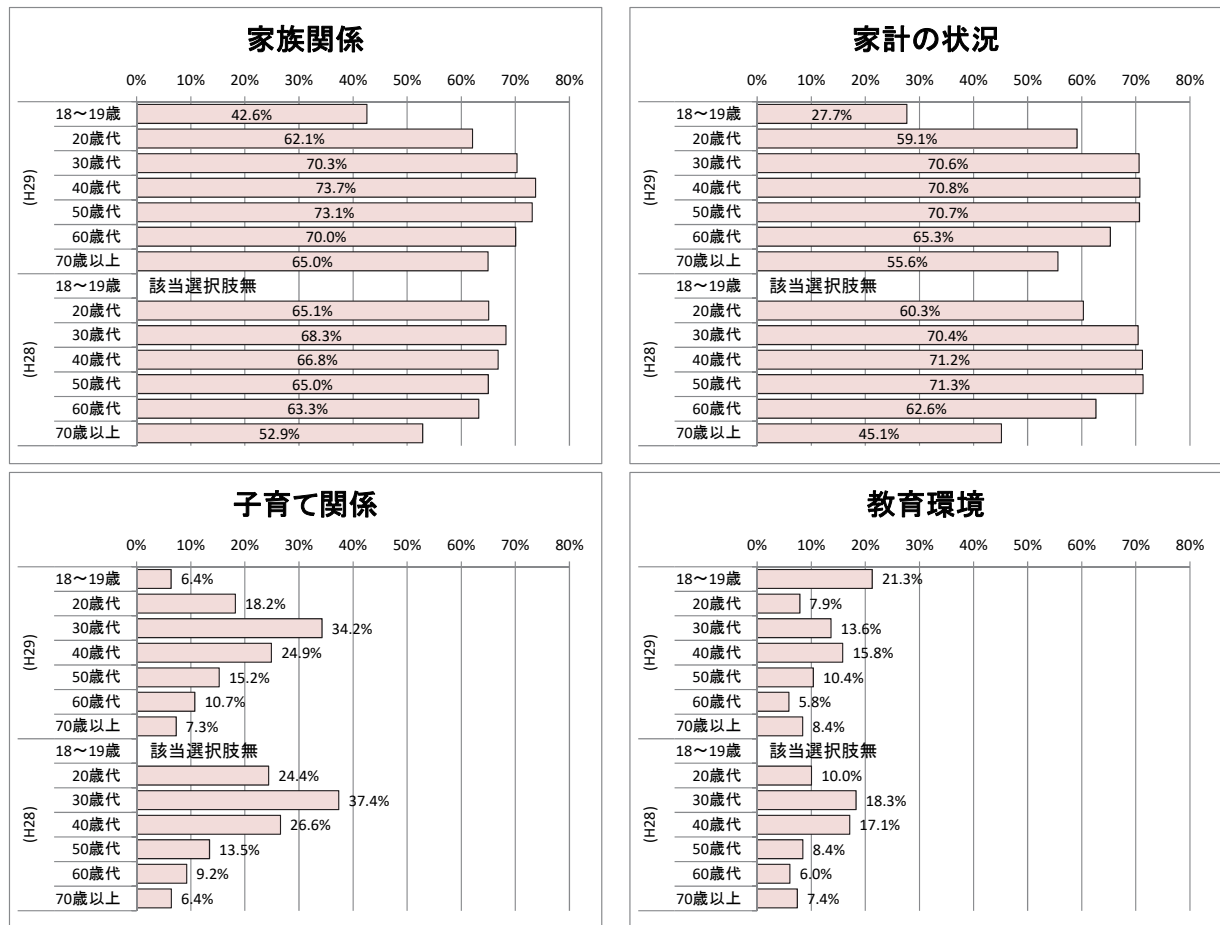


図 13 30～50 歳代に重視される項目



(5) 主観的幸福感の評価結果別集計

幸福感が高い層※1は関係性を重視し、幸福感が低い層※3は家計の状況を重視する傾向がみられた。

※1 幸福感（高）：主観的幸福感の設問で、「幸福」「やや幸福」を選択した回答者

※2 幸福感（中間）：主観的幸福感の設問で、「どちらでもない」を選択した回答者

※3 幸福感（低）：主観的幸福感の設問で、「あまり幸福でない」「幸福でない」を選択した回答者

図14 主観的幸福感が高い層が重視する項目

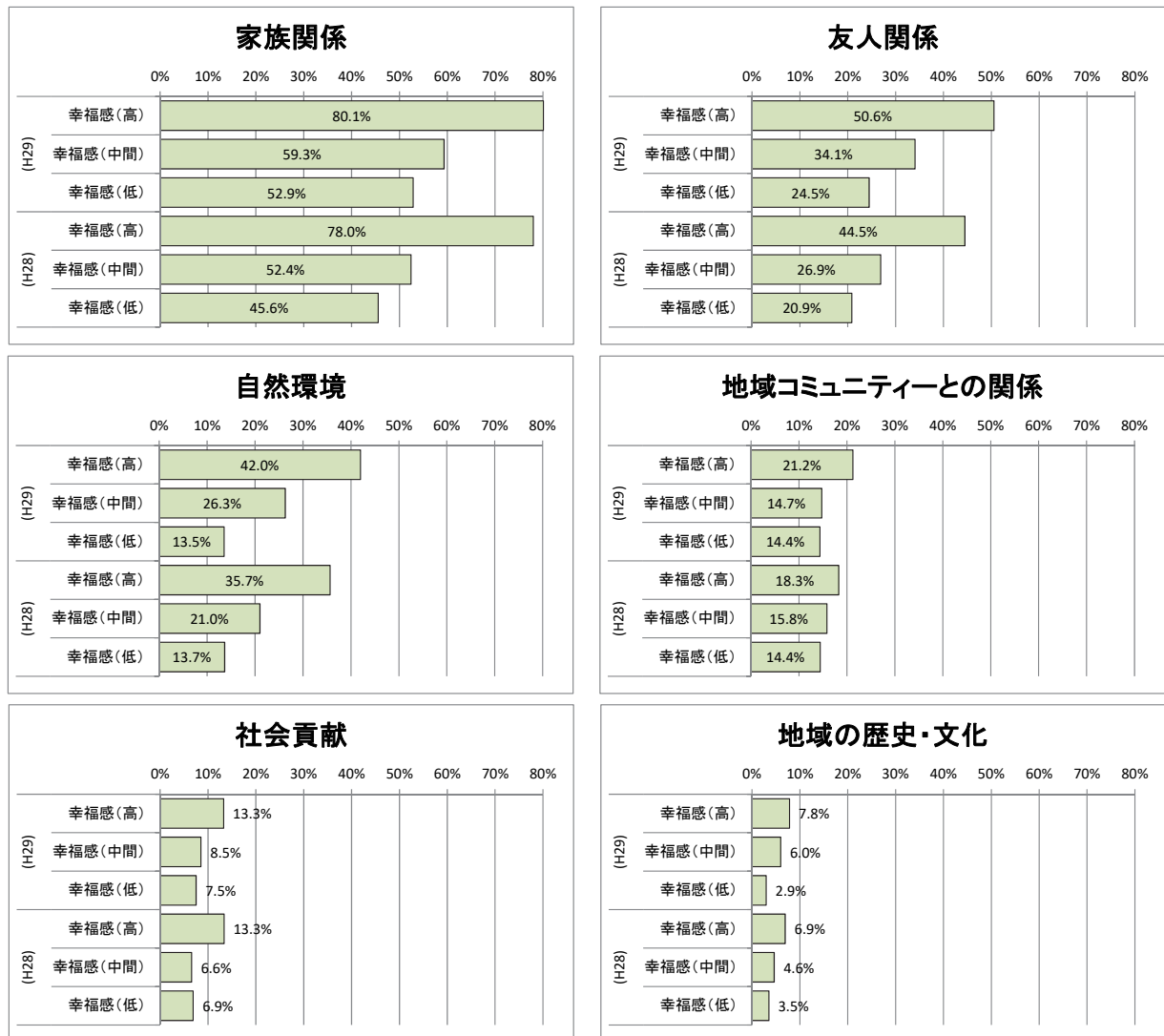
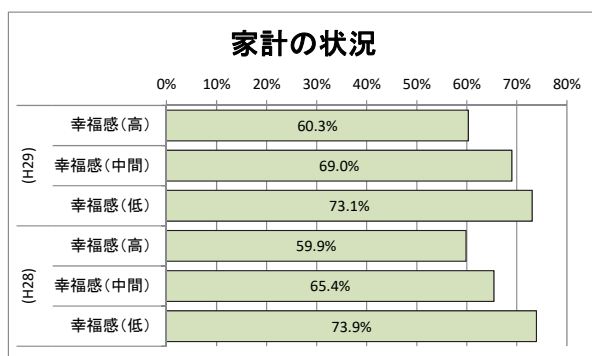


図15 主観的幸福感が低い層が重視する項目



(6) その他重視した項目として挙げられたもの

平成 28 年調査では 101 件、平成 29 年調査で 142 件の回答があり、主に次のような内容があった。

	平成 28 年調査	平成 29 年調査
①東日本大震災津波の幸福への影響に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅生活のため心がいつも晴れない。 ・震災により、たくさんのを失ったが、家族全員の命が助かった。 ・震災を経験し、現在は電気や水道が使えることを判断材料とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家を流されて仮設住宅に住んでいるので幸福感を感じない。 ・被災により居住地が変わり、まだ環境に慣れずにいる。
②職場環境に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・職場での理不尽な扱い。 ・会社のコンプライアンスに疑問がある。 	
③介護等に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・介護中心の生活で自分を見失いがち。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のケアは大変である。
④障がい者福祉に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者施設に通所できなくなり家族の生活も変わってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児、障がい者がすごしやすい環境。
⑤世帯構成に関する意見		<ul style="list-style-type: none"> ・3人の子供がいたのに今1人暮らしであり残念。 ・子どもの家族が近くに住み、時折見守ってくれる事。
⑥安定した生活等に関する意見		<ul style="list-style-type: none"> ・その日が何事もなく生きられれば幸せ。 ・全ての項目において、人並みに生活できていることが幸福であると思う。
⑦内面や宗教に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・なりたい自分に近づいているか。 ・自分はクリスチャンであり、自分が死んでから天に行くことが最高の幸せ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・己の存在理由があるかどうか。
⑧ガバナンスに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、県民の訴え、お願い事項について、速やかに対処する県であること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国が良い方へ向っているか。
⑨その他	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の後継ぎがない。 ・出会い。 ・犬と猫がいる。 ・世界平和。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手関係について ・好きな人がいない。 ・動物が守られている社会環境にあるか。

※自由記述欄の回答に基づき記載

第3章 領域別実感について

【結果概要】

- ・ 平成 28 年及び 29 年の調査結果で、大きく傾向が異なる項目はなかった。
- ・ 家族関係、地域の安全に関する実感が高く、子育て、余暇の充実、心身の健康、収入や所得に関する実感が低かった。
- ・ 12 の領域別実感は、強弱の差はあるものの、主観的幸福感と一定の相関が見られた。

1 設問

既存の調査において幸福に関連するとされている 12 領域の実感と、主観的幸福感との相関等を調べるため、先行研究等における事例を参考に、次の設問により調査対象者の領域別実感を調査した。

選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、5 段階評価とした。

設問	<p>【仕事】 仕事にやりがいを感じますか[仕事のやりがい]</p> <p>【収入】 必要な収入や所得が得られていると感じますか[必要な収入や所得]</p> <p>【健康】 ころやからだ健康だと感じますか[心身の健康]</p> <p>【家庭】 家族と良い関係がとれていると感じますか[家族関係]</p> <p>【子育て】 子育てがしやすいと感じますか[子育て]</p> <p>【安全】 お住まいの地域は安全だと感じますか[地域の安全]</p> <p>【地域】 地域社会とのつながりを感じますか[地域社会とのつながり]</p> <p>【教育】 子どものためになる教育が行われていると感じますか[子どもの教育] あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか[自身の学習] (平成 29 年新規設問)</p> <p>【歴史・文化】 地域の歴史や文化に誇りを感じますか[歴史・文化への誇り]</p> <p>【自然環境】 地域の自然環境が守られていると感じますか[自然環境の保護] 自然に恵まれていると感じますか[自然のゆたかさ] (平成 29 年新規設問)</p> <p>【居住環境】 住まいに快適さを感じますか[住まいの快適さ]</p> <p>【余暇】 余暇が充実していると感じますか[余暇の充実]</p>
選択肢	<p>5 感じる</p> <p>4 やや感じる</p> <p>3 どちらともいえない</p> <p>2 あまり感じない</p> <p>1 感じない</p> <p>0 わからない</p>

領域別実感の調査項目

平成 28 年調査は、各領域 1 問ずつ、計 12 の設問を設定しました。

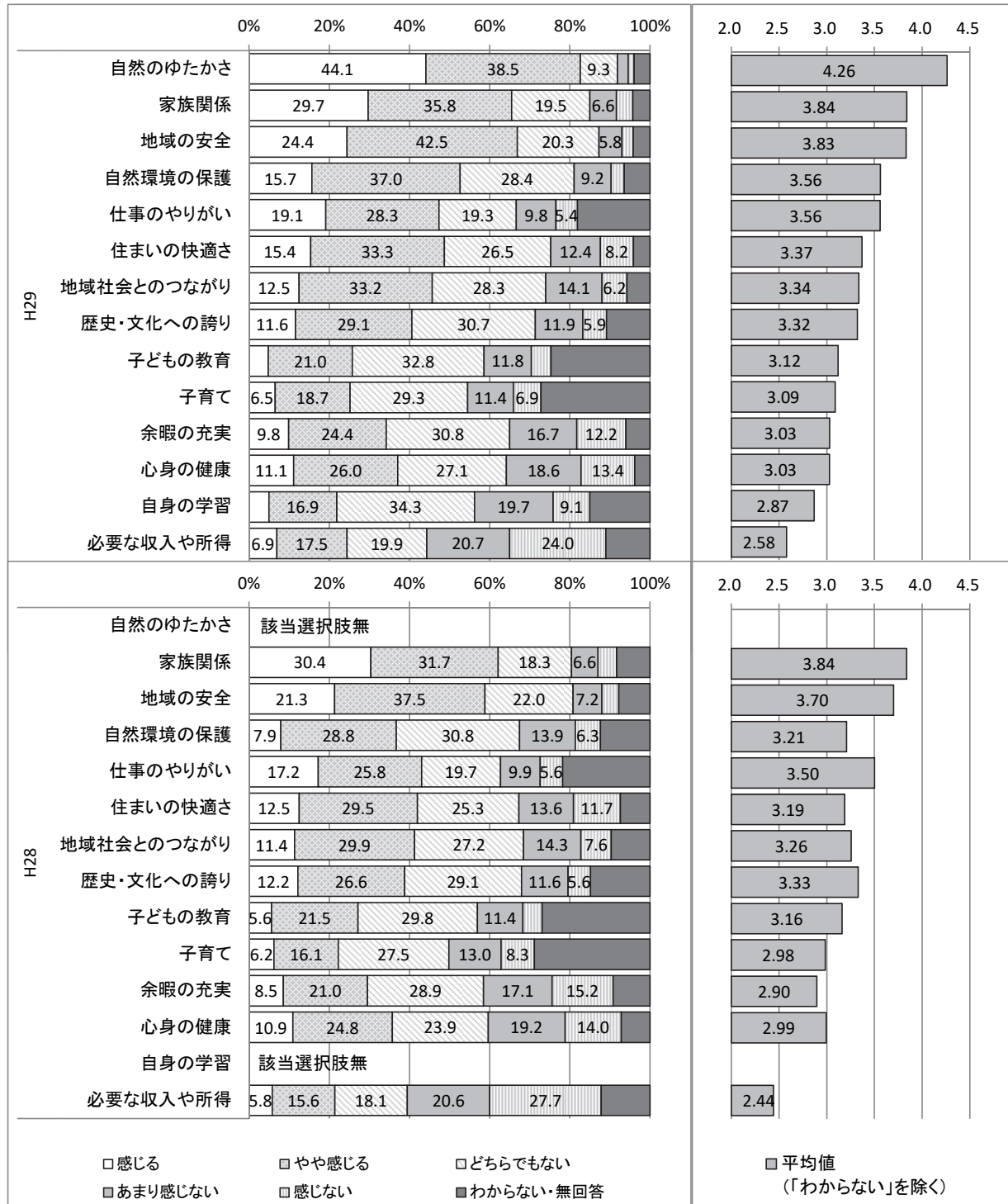
平成 29 年調査は、【教育】領域として、「子どもの教育」に加え「自身の教育」を追加しました。また、【自然】領域として、「自然環境の保護」に加え「自然環境のゆたかさ」を追加しました。この結果、平成 29 年は、計 14 の設問を設定しました。

2 集計結果

(1) 県全体

家族関係、地域の安全に関する実感が高く、子育て、余暇の充実、心身の健康、収入や所得に関する実感は低かった。

図 16 領域別実感



※平成 29 年調査結果の平均で降順している。

(2) 属性別集計

男性よりも女性の実感が高く、年齢階層別では70歳以上の実感が高い傾向がみられた。

表2 属性別（性別、年齢階層別）の領域別実感の平均値

設問項目	県平均	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①自然のゆたかさ	4.26	4.23	4.29	4.35	4.37	4.28	4.30	4.30	4.24	4.20
②家族関係	3.84	3.82	3.86	3.80	4.06	3.85	3.79	3.76	3.81	3.93
③地域の安全	3.83	3.86	3.82	3.91	3.80	3.75	3.79	3.81	3.83	3.94
④自然環境の保護	3.56	3.51	3.60	3.83	3.61	3.43	3.61	3.53	3.52	3.63
⑤仕事のやりがい	3.56	3.57	3.55	3.27	3.35	3.47	3.54	3.53	3.64	3.63
⑥住まいの快適さ	3.37	3.32	3.40	3.41	3.33	3.28	3.33	3.18	3.40	3.55
⑦地域社会とのつながり	3.34	3.32	3.35	3.27	3.05	2.96	3.27	3.25	3.39	3.62
⑧歴史・文化への誇り	3.32	3.27	3.36	3.40	3.29	3.16	3.28	3.23	3.30	3.52
⑨子どもの教育	3.12	3.08	3.14	3.27	2.91	3.04	3.08	3.02	3.10	3.34
⑩子育て	3.09	3.02	3.14	3.00	2.84	2.94	3.07	3.04	3.13	3.25
⑪余暇の充実	3.03	2.96	3.08	3.44	2.99	2.88	2.82	2.85	3.09	3.30
⑫心身の健康	3.03	3.03	3.04	3.15	3.06	2.88	2.88	2.96	3.11	3.15
⑬自身の学習	2.87	2.87	2.86	3.64	2.84	2.64	2.73	2.77	2.91	3.10
⑭必要な収入や所得	2.58	2.60	2.56	2.81	2.52	2.47	2.56	2.52	2.57	2.70

※県平均より高い属性に網掛けをしている。

(3) 主観的幸福感との相関

主観的幸福感と12領域ごとの実感に一定の相関が見られ、領域ごとに相関の強弱があった。

表3 主観的幸福感と領域別実感の相関

平成29年調査	主観的幸福感	領域別実感											生活満足度				
		仕事のやりがい	必要な収入や所得	心身の健康	家族関係	子育て	地域の安全	地域社会とのつながり	自身の学習	子どもの教育	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ		自然環境の保護	住まいの快適さ	余暇の充実	
主観的幸福感	1.00																
仕事のやりがい	0.38	1.00															
必要な収入や所得	0.40	0.45	1.00														
心身の健康	0.47	0.41	0.40	1.00													
家族関係	0.51	0.23	0.23	0.39	1.00												
子育て	0.42	0.26	0.32	0.35	0.41	1.00											
地域の安全	0.29	0.21	0.21	0.27	0.27	0.36	1.00										
地域社会とのつながり	0.33	0.29	0.27	0.30	0.30	0.39	0.45	1.00									
自身の学習	0.33	0.28	0.29	0.34	0.24	0.40	0.33	0.49	1.00								
子どもの教育	0.26	0.23	0.23	0.24	0.23	0.44	0.27	0.39	0.46	1.00							
歴史・文化への誇り	0.30	0.30	0.21	0.19	0.22	0.26	0.28	0.40	0.41	0.40	1.00						
自然のゆたかさ	0.20	0.17	0.08	0.16	0.17	0.15	0.36	0.31	0.18	0.22	0.41	1.00					
自然環境の保護	0.18	0.16	0.13	0.17	0.14	0.22	0.32	0.33	0.22	0.30	0.33	0.47	1.00				
住まいの快適さ	0.47	0.29	0.35	0.33	0.34	0.38	0.32	0.31	0.36	0.28	0.33	0.25	0.29	1.00			
余暇の充実	0.49	0.31	0.36	0.41	0.34	0.40	0.28	0.33	0.43	0.30	0.30	0.17	0.22	0.54	1.00		
生活満足度	0.57	0.30	0.50	0.39	0.33	0.36	0.28	0.28	0.32	0.27	0.27	0.14	0.19	0.44	0.45	1.00	

平成28年調査	主観的幸福感	領域別実感											生活満足度				
		仕事のやりがい	必要な収入や所得	心身の健康	家族関係	子育て	地域の安全	地域社会とのつながり	自身の学習	子どもの教育	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ		自然環境の保護	住まいの快適さ	余暇の充実	
主観的幸福感	1.00																
仕事のやりがい	0.42	1.00															
必要な収入や所得	0.41	0.42	1.00														
心身の健康	0.50	0.42	0.36	1.00													
家族関係	0.52	0.28	0.23	0.42	1.00												
子育て	0.40	0.24	0.31	0.36	0.37	1.00											
地域の安全	0.34	0.24	0.27	0.33	0.29	0.43	1.00										
地域社会とのつながり	0.33	0.26	0.22	0.32	0.28	0.38	0.49	1.00									
自身の学習	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00								
子どもの教育	0.28	0.25	0.22	0.30	0.25	0.46	0.37	0.50	-	1.00							
歴史・文化への誇り	0.24	0.24	0.19	0.21	0.22	0.25	0.23	0.38	-	0.40	1.00						
自然のゆたかさ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00					
自然環境の保護	0.24	0.18	0.23	0.27	0.21	0.33	0.40	0.40	-	0.43	0.44	-	1.00				
住まいの快適さ	0.50	0.31	0.34	0.41	0.35	0.42	0.40	0.36	-	0.36	0.33	-	0.38	1.00			
余暇の充実	0.53	0.32	0.35	0.48	0.38	0.40	0.33	0.38	-	0.33	0.28	-	0.33	0.58	1.00		
生活満足度	0.55	0.30	0.46	0.40	0.31	0.34	0.30	0.28	-	0.23	0.18	-	0.23	0.44	0.44	1.00	

0 ≤ r ≤ 0.2 0.2 < r ≤ 0.4 0.4 < r ≤ 0.7

第4章 協調的幸福感について

【結果概要】

主観的幸福感との間でかなりの相関が、領域別実感とも一定の相関がみられた。
また、属性によって協調的幸福感に違いがみられた。

1 設問

先行研究等における事例を参考に、次の設問により調査対象者の協調的幸福感を調査した。
選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、5段階評価とした。

設問	①身近な周りの人が幸福であると感じますか。【身近な人の幸福】 ②周りの人に認められていると感じますか。【周囲からの承認】 ③大切な人を幸福にしていると感じますか。【大切な人の幸福への寄与】 ④安定した日々を過ごしていると感じますか。【安定した日々】 ⑤人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができていると感じますか。【他者に迷惑をかけない自己実現】 ⑥周りの人たちと同じくらい幸福だと感じますか。【人並み感】
選択肢	5 感じる 4 やや感じる 3 どちらともいえない 2 あまり感じない 1 感じない

※協調的幸福感とは

北米に比べて日本では、幸福かどうか考える際に、人との関係性を重視し、他者との協調性や他者の幸福、平穏な感情状態に焦点を置く傾向があり、これらを踏まえた幸福感の考え方として協調的幸福感という概念が示されている。

ゆたかさを示す新しい考え方の一つの可能性として、協調的幸福感とされている項目を新たに調査し、主観的幸福感、領域別実感との関連について分析を行った。

項目	日本	北米
幸福感情	低覚醒感情「おだやかさ」 関与的感情「親しみ」	高覚醒感情「うきうき」 脱関与的感情「誇り」
幸福の捉え方	バランス志向的幸福像	増大的幸福像
幸福の予測因	関係志向 協調的幸福感、人並み感 関係性調和 等	個人達成志向 自己価値・自尊心

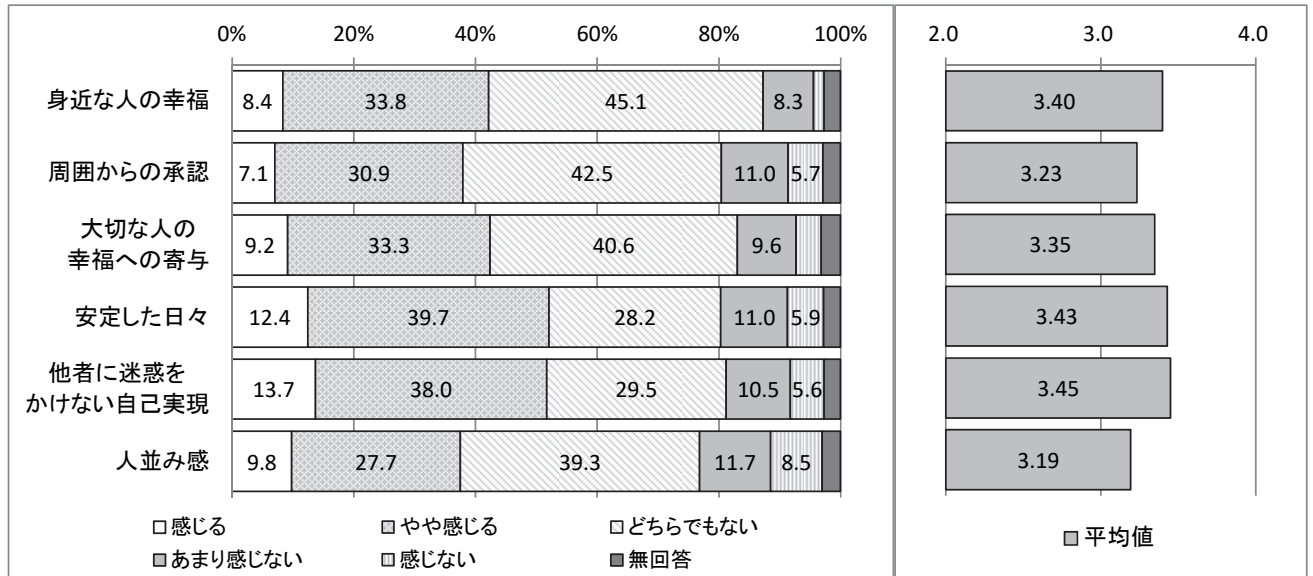
出所：内田由紀子（2013）「日本人の幸福感と幸福度指標」『心理学ワールド60号』日本心理学会。

2 集計結果

(1) 県全体

他者に迷惑をかけない自己実現の実感が高く、人並み感の実感が低い傾向がみられた。

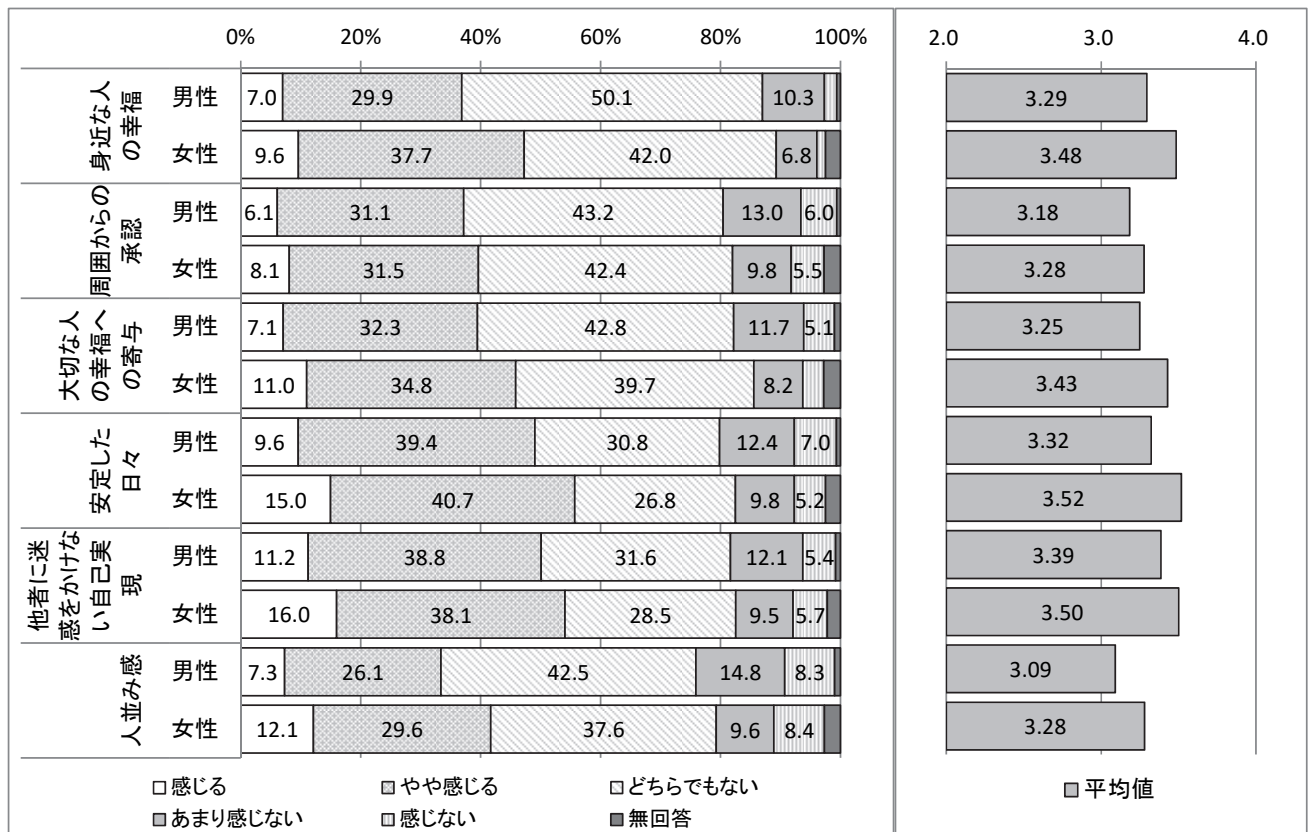
図 17 協調的幸福感



(2) 男女別集計

調査項目の全てにおいて、女性の実感が高かった。

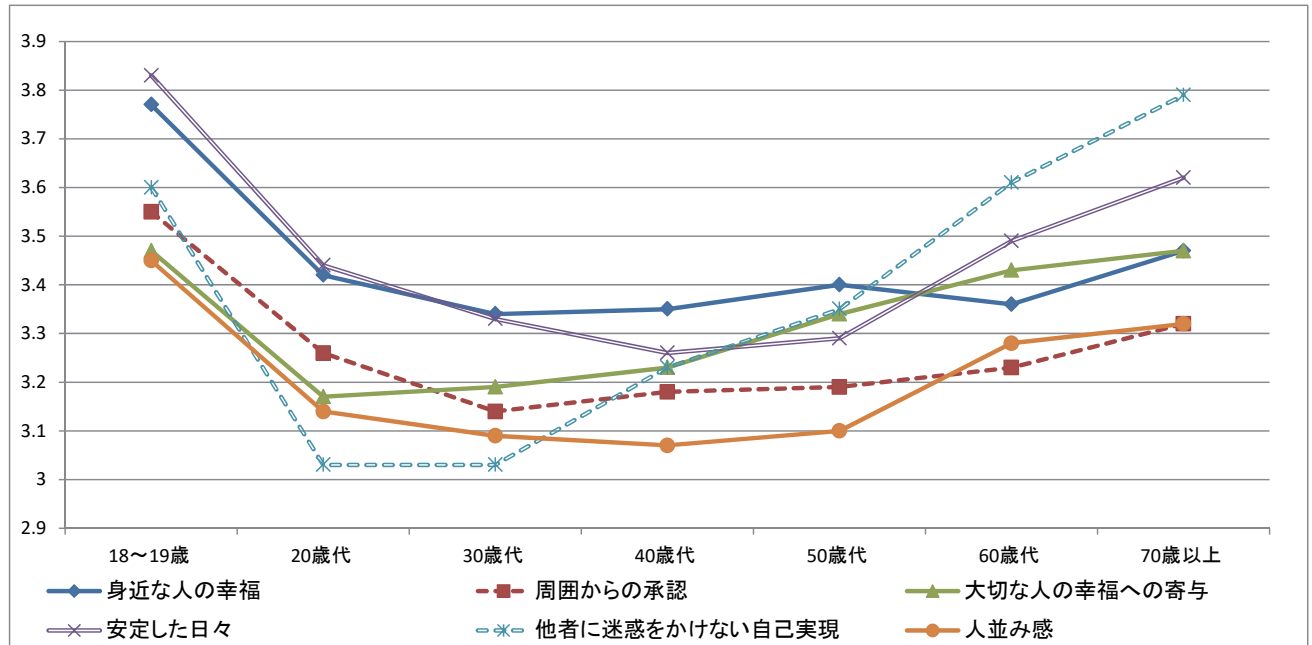
図 18 協調的幸福感（男女別）



(3) 年齢階層別集計

U字カーブを描く傾向がみられた。

図 19 協調的幸福感の平均値 (年齢階層別)



(4) 主観的幸福感との相関

協調的幸福感は、主観的幸福感との間にかなりの相関がみられた。
また、領域別実感には、一定の相関がみられた。

表 4 主観的幸福感等と協調的幸福感の相関

	主観的幸福感	領域別実感															協調的幸福感												
		やりがい	仕事の所得	必要な収入や健康	心身の健康	家族関係	子育て	安全	地域のつながり	地域社会とのつながり	自身の学習	子どもの教育	子どもの誇り	歴史・文化への誇り	ゆたかさ	自然の保護	自然環境の保護	住まいの快適さ	余暇の充実	生活満足度	身近な人の幸福	周囲からの承認	大切な人の幸福への寄与	安定した日々	他人に迷惑をかける自己実現	人並み感			
協調的幸福感	身近な人の幸福	0.32	0.19	0.20	0.24	0.23	0.27	0.23	0.23	0.23	0.28	0.24	0.18	0.21	0.24	0.29	0.27	1.00											
	周囲からの承認	0.42	0.36	0.30	0.39	0.34	0.32	0.25	0.35	0.30	0.26	0.32	0.23	0.25	0.32	0.33	0.34	0.41	1.00										
	大切な人の幸福への寄与	0.51	0.26	0.27	0.40	0.46	0.37	0.23	0.26	0.29	0.28	0.25	0.15	0.20	0.34	0.37	0.38	0.39	0.52	1.00									
	安定した日々	0.60	0.34	0.41	0.48	0.45	0.41	0.31	0.31	0.31	0.28	0.28	0.18	0.21	0.43	0.47	0.52	0.40	0.51	0.62	1.00								
	他人に迷惑をかける自己実現	0.49	0.29	0.34	0.43	0.36	0.33	0.28	0.30	0.33	0.25	0.20	0.16	0.20	0.35	0.45	0.42	0.31	0.47	0.55	0.62	1.00							
	人並み感	0.67	0.32	0.40	0.48	0.45	0.41	0.31	0.35	0.35	0.27	0.30	0.20	0.20	0.44	0.46	0.53	0.36	0.55	0.56	0.70	0.59	1.00						

第5章 ソーシャル・キャピタルについて

【結果概要】

- ・本県は、全国と比較してソーシャル・キャピタルが高い傾向が確認できた。
- ・主観的幸福感及び領域別実感との間に一定の相関がみられた。
- ・属性によって、ソーシャル・キャピタルに違いがみられた。

1 設問

(1) ソーシャル・キャピタルに関する行動等の調査

先行研究等における事例を参考に、次の設問によりソーシャル・キャピタルを調査した。設問については、全国との比較を行うため、滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所の調査¹を参考にした。

構成要素	設問	選択肢
つきあい・交流 (ネットワーク)	①あなたは、ご近所の方とどのようなつきあいをされていますか。[隣近所とのつきあいの程度]	1 互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている人もいる【4点】 2 日常的に立ち話をする程度のつきあいはしている【3点】 3 あいさつ程度の最小限のつきあいしかしていない【2点】 4 つきあいは全くしていない【1点】
	②つきあっているご近所の方の数について、次のうちから当てはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。[隣近所とつきあっている人の数]	1 近所のかなり多くの人と面識・交流がある(概ね20人以上)【4点】 2 ある程度の人との面識・交流がある(概ね5～19人)【3点】 3 近所のごく少数の人とだけと面識・交流がある(概ね4人以下)【2点】 4 隣の人がだれかも知らない【1点】
	③あなたは、友人・知人とどのようなつきあい(学校や職場以外で)をされていますか。[友人・知人とのつきあいの頻度]	5 日常的にある(毎日から週に数回程度)【5点】 4 ある程度頻繁にある(週に1回～月に数回程度)【4点】 3 とときどきある(月に1回～年に数回程度)【3点】 2 めったにない(年に1回～数年に1回程度)【2点】
	④あなたは、親戚・親類(同居している方を除く)とどのようなつきあいをされていますか。[親戚とのつきあいの頻度]	1 全くない【1点】 0 該当する人がいない【1点】
	⑤あなたは現在、スポーツ・趣味・娯楽活動(各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習など)をされていますか。[スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況]	2 活動している【2点】 1 活動していない【1点】
社会的信頼	⑥あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。[一般的な人への信頼]	3 ほとんどの人は信頼できる【3点】 2 両者の中間【2点】 1 注意するに越したことはない【1点】
	⑦「旅先」や「見知らぬ土地」で出会う人に対して、信頼できると思いますか。[見知らぬ土地での人への信頼]	0 わからない

¹ 滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所(2016)『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』。

社会参加 (互酬性の規範)	⑧あなたは現在、地縁的な活動（自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会など）をされていますか。[地縁的な活動への参加状況]	2 活動している【2点】 1 活動していない【1点】
	⑨あなたは現在、ボランティア・NPO・市民活動（まちづくり、高齢者・障がい者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、国際協力活動など）をされていますか。[ボランティア・NPO・市民活動への参加状況]	

各設問ごとの平均値は、各選択肢ごとに、
【 】内の点数を配点し算出した。

(2) ソーシャル・キャピタルに対する実感の調査

ソーシャル・キャピタルと主観的幸福感等の相関を調べるため、次の設問によりソーシャル・キャピタルに対する実感を調査した。選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、5段階評価とした。

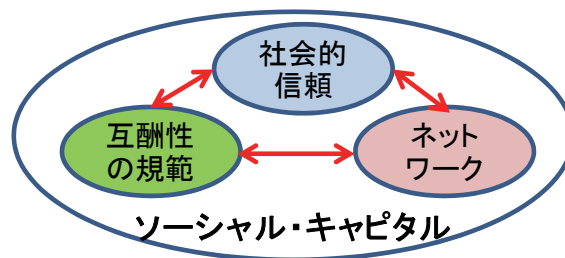
設問	①地域への愛着を感じていますか。[地域への愛着感] ②ご近所とのつきあいはよいと感じますか。[近所付き合い実感] ③信頼できる人が身近にいると感じますか。 [信頼できる人がいる実感] ④地域での活動や社会貢献活動に参加できていると感じますか。[地域活動への参加実感]
選択肢	5 感じる 4 やや感じる 3 どちらともいえない 2 あまり感じない 1 感じない

※ ソーシャル・キャピタルとは

人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、【信頼】、【規範】、【ネットワーク】といった社会組織の特徴のこと。

【規範】とは、「情けは人の為ならず」「持ちつ持たれつ」「お互い様」といった互酬性の規範、【ネットワーク】とは、人やグループの間の絆を意味しており、ソーシャル・キャピタルが豊かな地域ほど、完全失業率や犯罪率が低く、合計特殊出生率が高い、などの結果が報告されています。

ゆたかさを示す新たな指標の一つの可能性として調査を行い、先行事例との比較を行うとともに、主観的幸福感、領域別実感との関連について分析を行った。



出所：内閣府（2003）『ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』。

滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所（2016）『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』。

2 集計結果

集計結果については、全国の結果として、滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所での調査結果を示している。

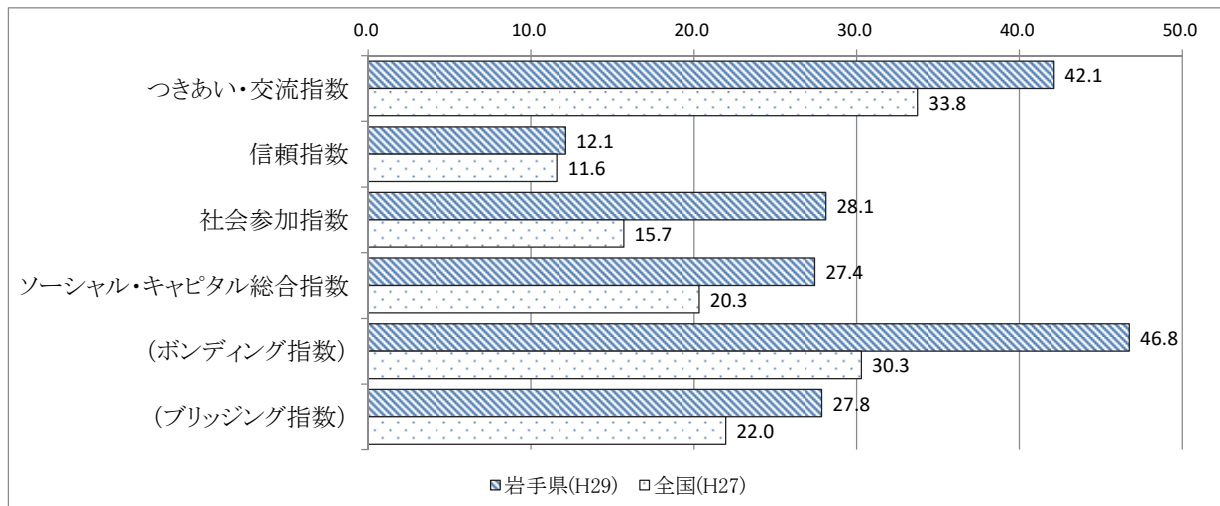
なお、当該調査とは抽出方法等が異なるため、調査結果を直接比較することはできないが、参考に記載しているものであること。

(1) ソーシャル・キャピタル指数

滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所の調査の手法にならい、各種指数を算出した。

本県は、全国と比較してソーシャル・キャピタルが高い可能性がみられた。

図 20 ソーシャル・キャピタル指数



・ボンディング指数とは

結合型 (bonding) ソーシャル・キャピタルを指数化したもの。結合型ソーシャル・キャピタルとは、組織の内部における人と人との同質的な結びつきで、内部で信頼や協力、結束を生むものであり、例えば、家族内や民族グループ内のメンバー間の関係を指す。

一般的には、結合型ソーシャル・キャピタルは、社会の接着剤とも言うべき強いきずな、結束によって特徴づけられ、内部志向的であると考えられる。このため、この性格が強すぎると、「排他性」につながる場合もあり得る。

・ブリッジング指数とは

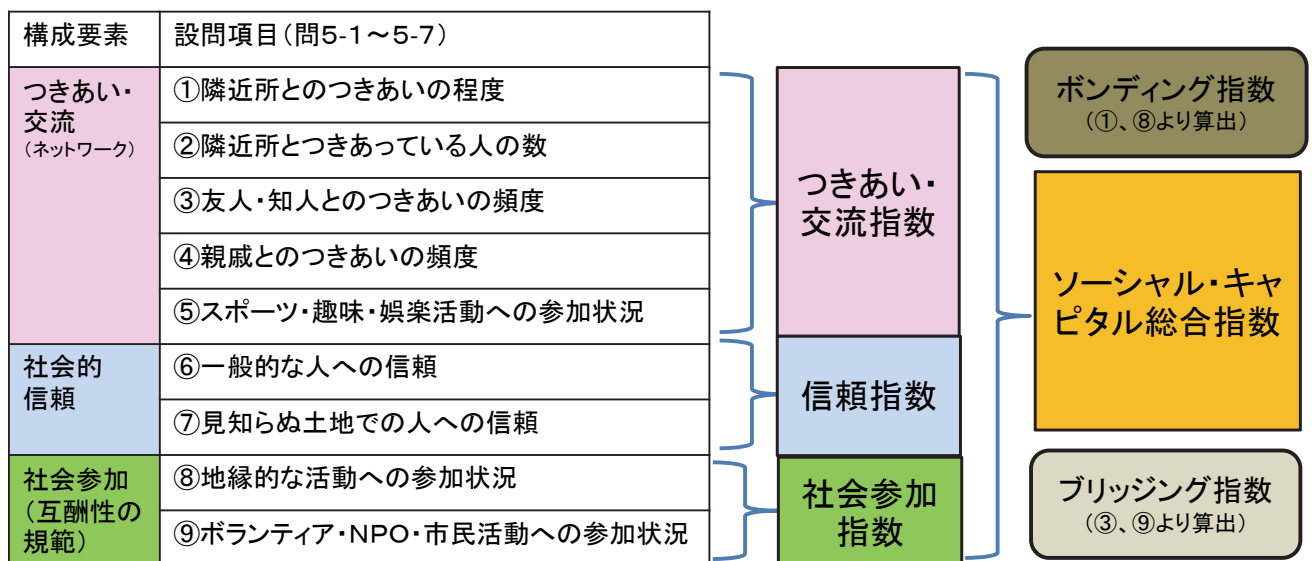
橋渡し型 (bridging) ソーシャル・キャピタルを指数化したもの。橋渡し型ソーシャル・キャピタルとは、異なる組織間における異質な人や組織を結び付けるネットワークであるとされ、例えば、民族グループを越えた間の関係とか、知人、友人の友人などとのつながりを指す。

橋渡し型のソーシャル・キャピタルは、より弱く、より薄い、より横断的なつながりとして特徴づけられ、社会の潤滑油とも言うべき役割を果たすとみられている。

出所：内閣府（2003）『ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』。

※各指数の算出方法

つきあい・交流指数	下記の数値の平均値で算出した。 <ul style="list-style-type: none"> ・「①隣近所とのつきあいの程度」において「1 生活面で協力」「2 立ち話程度」と回答した割合 ・「②隣近所とつきあっている人の数」において、概ね5人以上と回答した割合 ・「③友人・知人とのつきあいの頻度」において、「5 日常的にある」「4 ある程度頻繁にある」と回答した割合 ・「④親戚とのつきあいの頻度」において、「5 日常的にある」「4 ある程度頻繁にある」と回答した割合 ・「⑤スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況」において、「2 活動している」と回答した割合
信頼指数	下記の数値の平均値で算出した。 <ul style="list-style-type: none"> ・「⑥一般的な人への信頼」において「3 ほとんどの人は信頼できる」と回答した割合 ・「⑦見知らぬ土地での人への信頼」において「3 ほとんどの人は信頼できる」と回答した割合
社会参加指数	下記の数値の平均値で算出した。 <ul style="list-style-type: none"> ・「⑧地縁的な活動への参加状況」において、「2 活動している」と回答した割合 ・「⑨ボランティア・NPO・市民活動への参加状況」において、「2 活動している」と回答した割合
ソーシャル・キャピタル総合指数	つきあい・交流指数、信頼指数、社会参加指数の平均値で算出した。
ボンディング指数	下記の数値の平均値で算出した。 <ul style="list-style-type: none"> ・「①隣近所とのつきあいの程度」において「1 生活面で協力」「2 立ち話程度」と回答した割合 ・「⑧地縁的な活動への参加状況」において、「2 活動している」と回答した割合
ブリッジング指数	下記の数値の平均値で算出した。 <ul style="list-style-type: none"> ・「③友人・知人とのつきあいの頻度」において、「5 日常的にある」「4 ある程度頻繁にある」と回答した割合 ・「⑨ボランティア・NPO・市民活動への参加状況」において、「2 活動している」と回答した割合



(2) 各設問の集計結果

① 県全体

ア つきあい・交流関連

全国よりも平均値が高い項目が多かった。

図 21 隣近所とのつきあいの程度

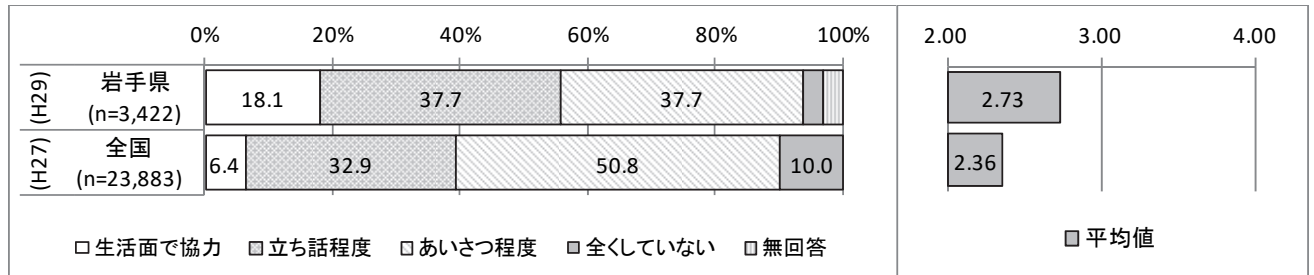


図 22 隣近所とつきあっている人の数

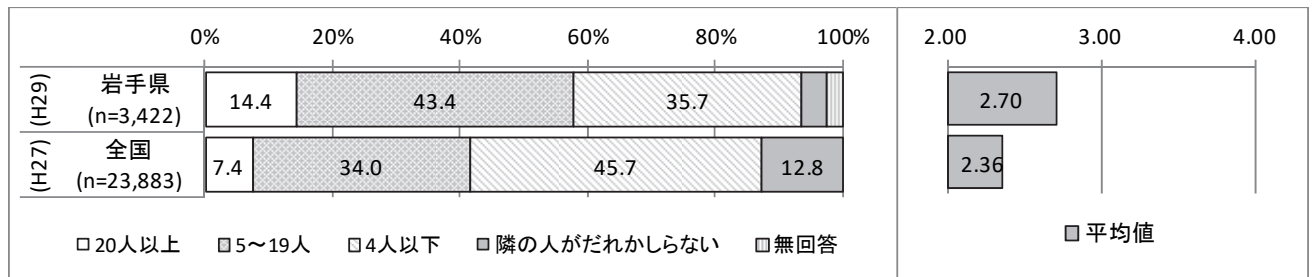


図 23 友人・知人とのつきあいの頻度

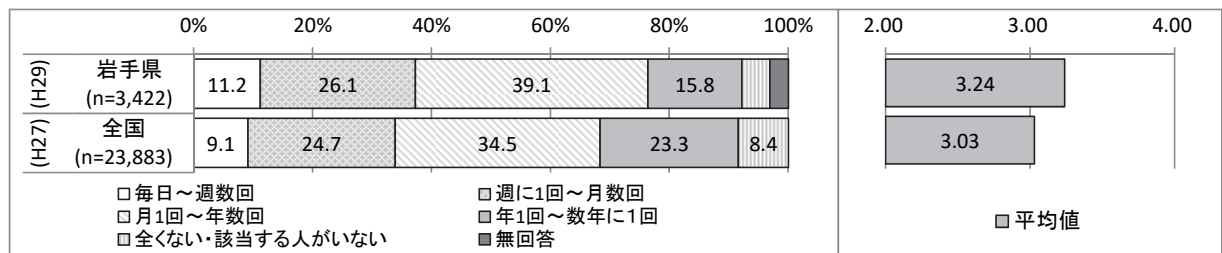


図 24 親戚とのつきあいの頻度

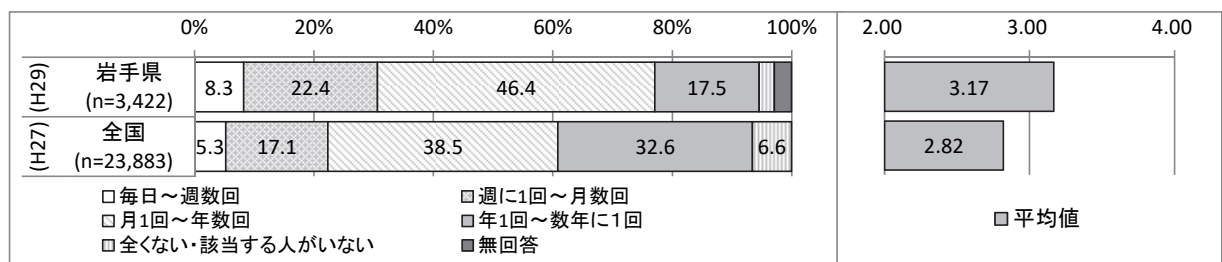
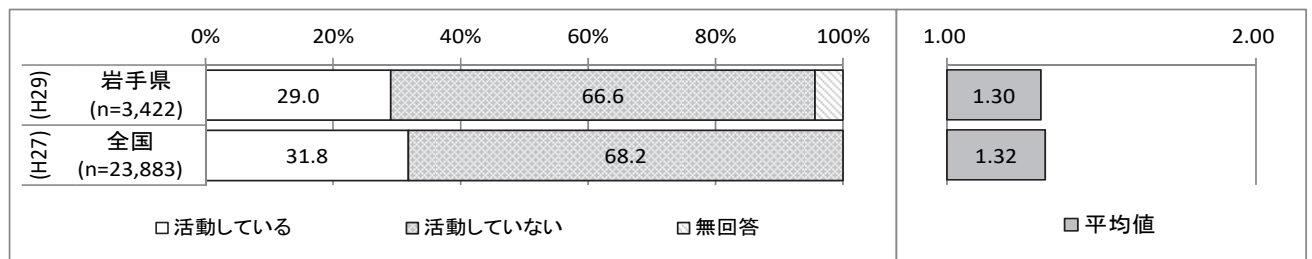


図 25 スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況



イ 信頼関連

一般的な人への信頼については、全国よりも高い傾向がみられた。

図 26 一般的な人への信頼

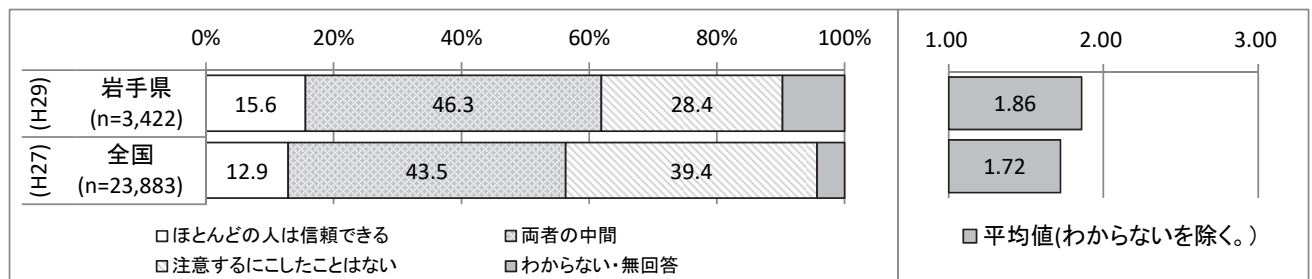
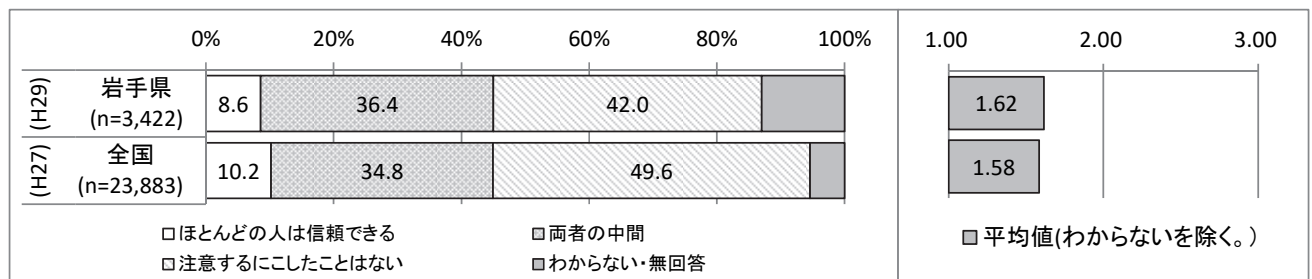


図 27 見知らぬ土地での人への信頼



ウ 社会参加指数関連

いずれの設問においても、全国よりも平均値が高い傾向がみられた。

図 28 地縁的な活動への参加状況

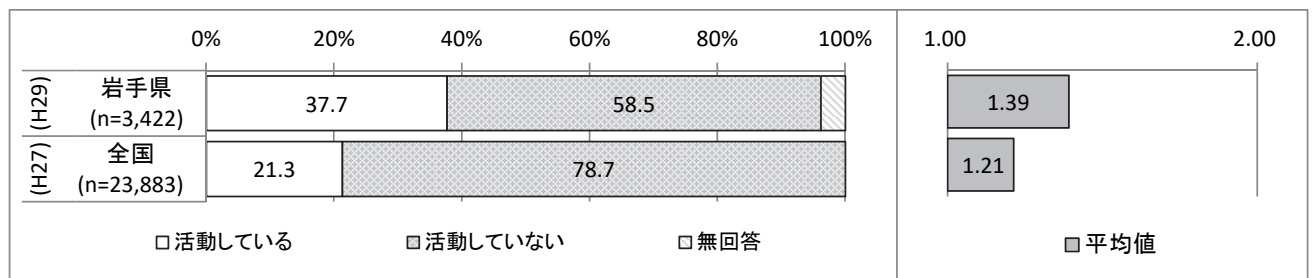
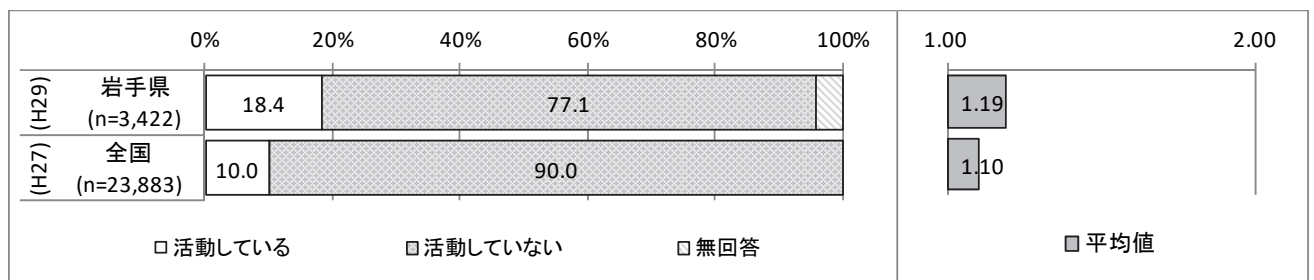


図 29 ボランティア・NPO・市民活動への参加状況



② 属性別結果

ア 性別、年齢階層別

各設問の平均値は、60歳代及び70歳以上で高い傾向がみられた。

表 5 ソーシャル・キャピタルの属性別の平均値

項目	平均値		男性	女性	18~19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	備考	
	県平均値	国平均値											
つきあい・交流	①隣近所とのつきあいの程度	2.73	2.36	2.67	2.78	2.30	2.14	2.30	2.43	2.67	2.92	3.13	生活面で協力(4点) 立ち話程度(3点) あいさつ程度(2点) 全くしてない(1点)
	②隣近所とつきあっている人の数	2.70	2.36	2.74	2.67	2.49	2.28	2.38	2.50	2.72	2.87	2.89	20人以上(4点) 5~19人(3点) 4人以下(2点) 隣の人が誰か知らない(1点)
	③友人・知人とのつきあいの頻度	3.24	3.03	3.19	3.28	3.81	3.46	3.03	2.89	3.00	3.31	3.57	毎日~週数回(5点) 週に1回~月数回(4点) 月1回~年数回(3点) 年1回~数年に1回(2点) 全くない・該当する人がいない(1点)
	④親戚とのつきあいの頻度	3.17	2.82	3.10	3.22	3.15	3.03	3.05	2.97	3.04	3.25	3.39	
	⑤スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況	1.30	1.32	1.34	1.27	1.28	1.34	1.26	1.22	1.30	1.30	1.37	活動している(2点) 活動していない(1点)
信頼	⑥一般的な人への信頼	1.86	1.72	1.87	1.85	1.84	1.74	1.73	1.83	1.89	1.90	1.89	ほとんどの人は信頼できる(3点) 両者の中間(2点) 注意するにこしたことはない(1点)
	⑦見知らぬ土地での人への信頼	1.62	1.58	1.68	1.57	1.70	1.49	1.53	1.66	1.70	1.65	1.55	
社会参加	⑧地縁的な活動への参加状況	1.39	1.21	1.40	1.38	1.13	1.10	1.32	1.40	1.42	1.45	1.42	活動している(2点)、活動していない(1点)
	⑨ボランティア・NPO・市民活動への参加状況	1.19	1.10	1.23	1.16	1.15	1.10	1.13	1.14	1.18	1.23	1.25	

※県平均値より高い数値に網掛けをしている。

イ 幸福感別

主観的幸福感の高い層は、ソーシャル・キャピタルも高い傾向がみられた。

図 30 隣近所とのつきあいの程度

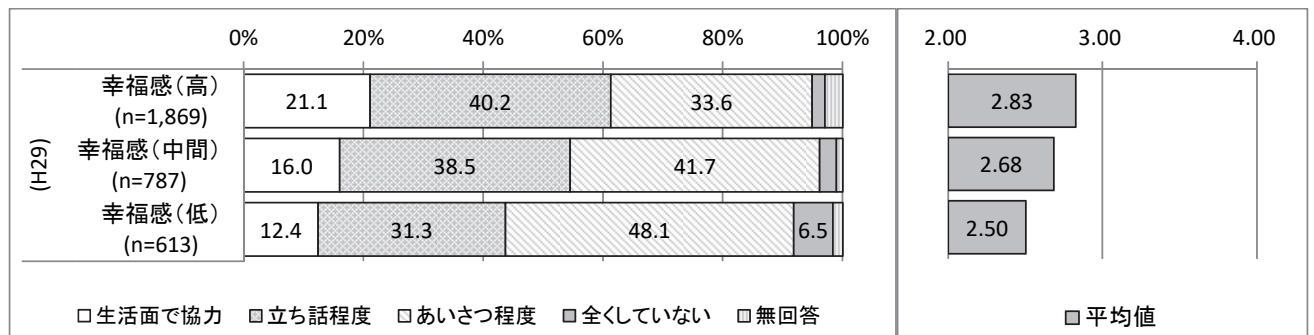


図 31 隣近所とつきあっている人の数

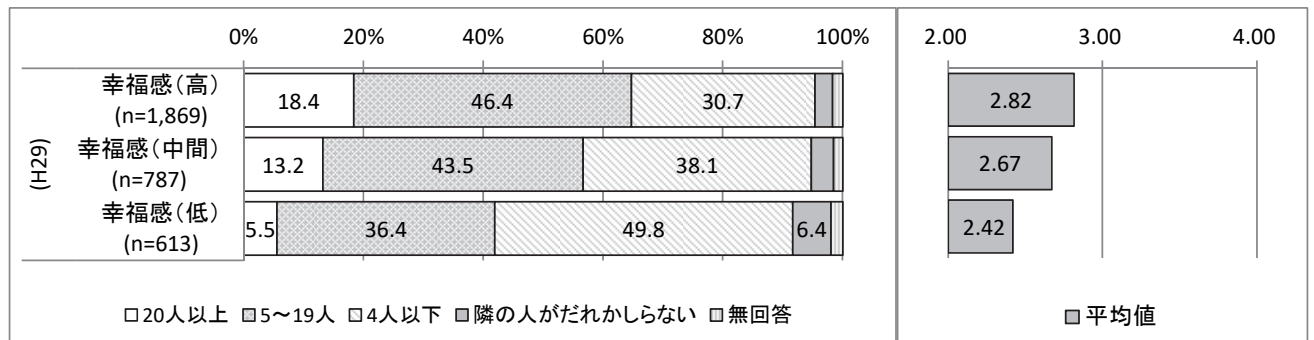


図 32 友人・知人とのつきあいの頻度

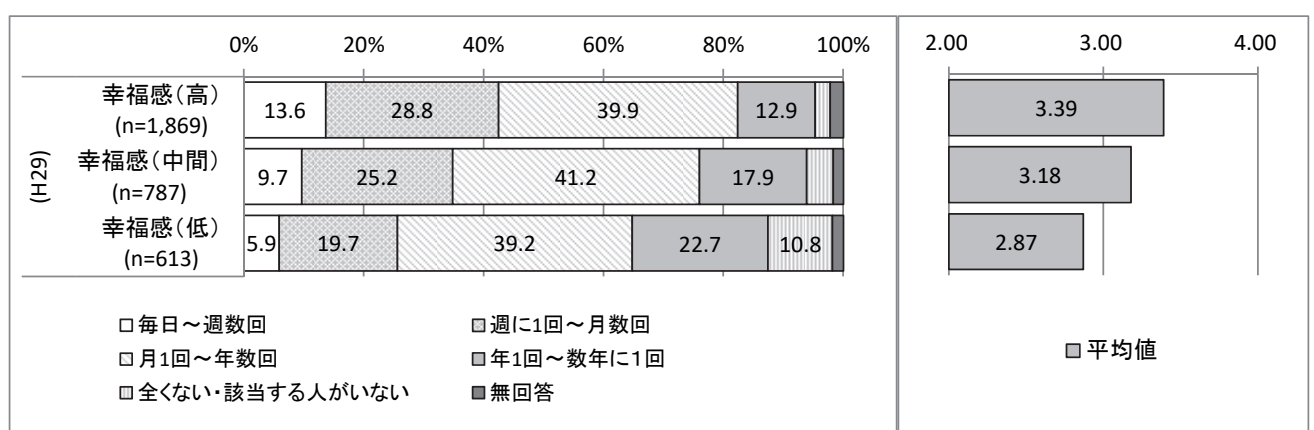


図 33 親戚とのつきあいの頻度

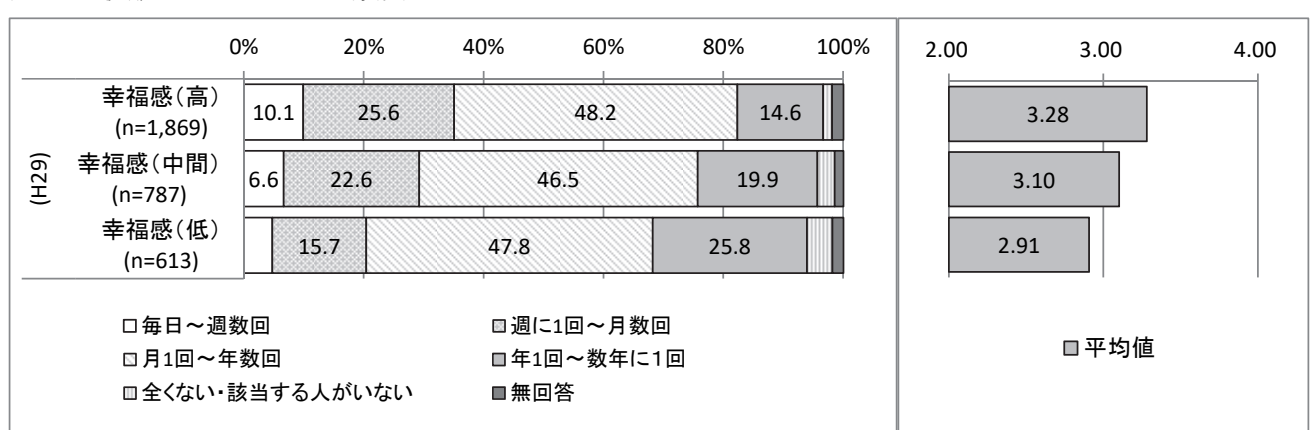


図 34 スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況

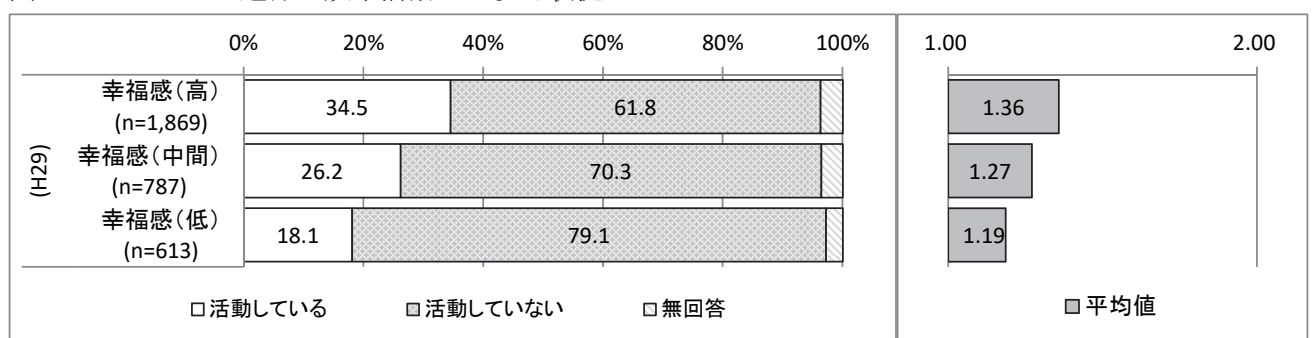


図 35 一般的な人への信頼

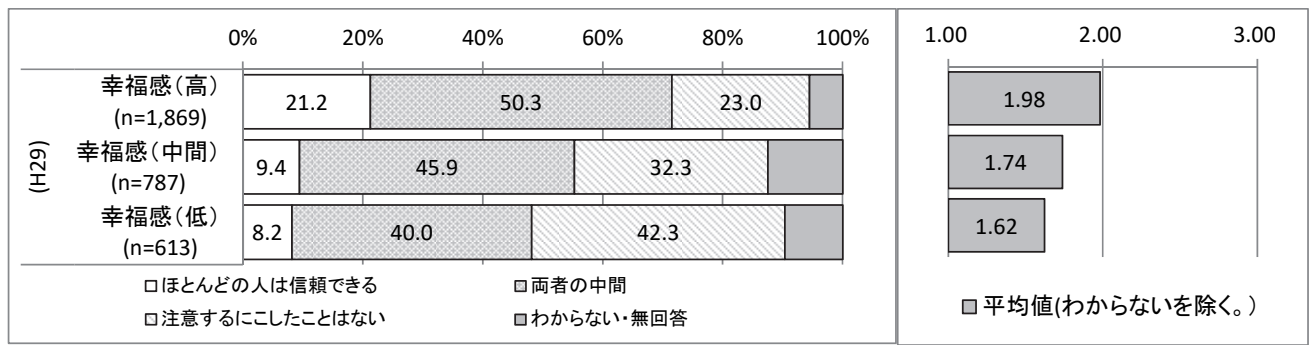


図 36 見知らぬ土地での人への信頼

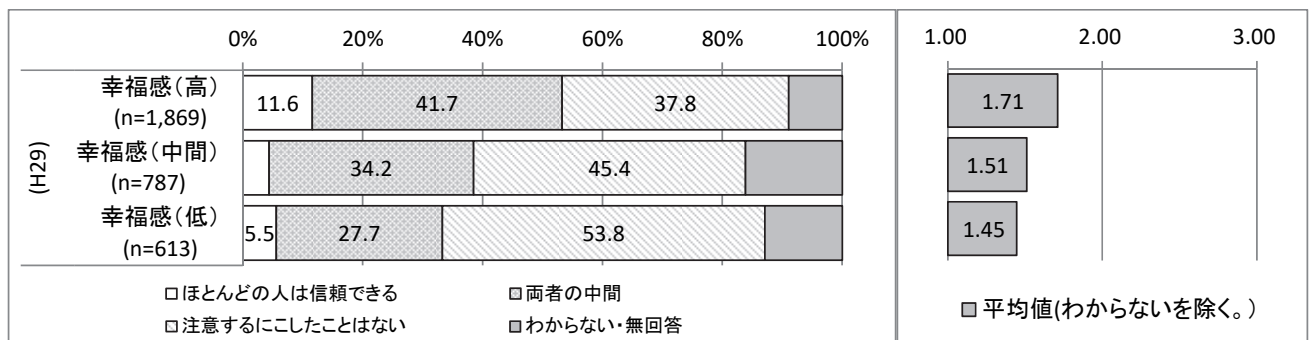


図 37 地縁的な活動への参加状況

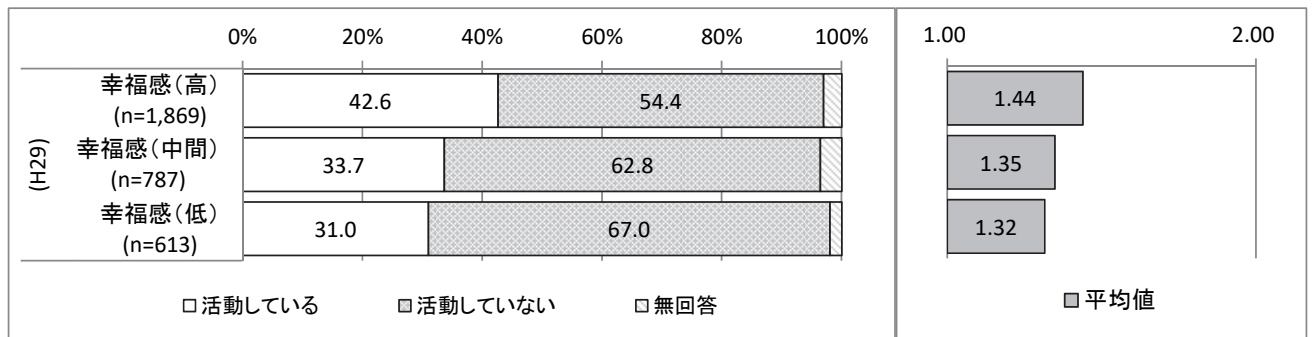
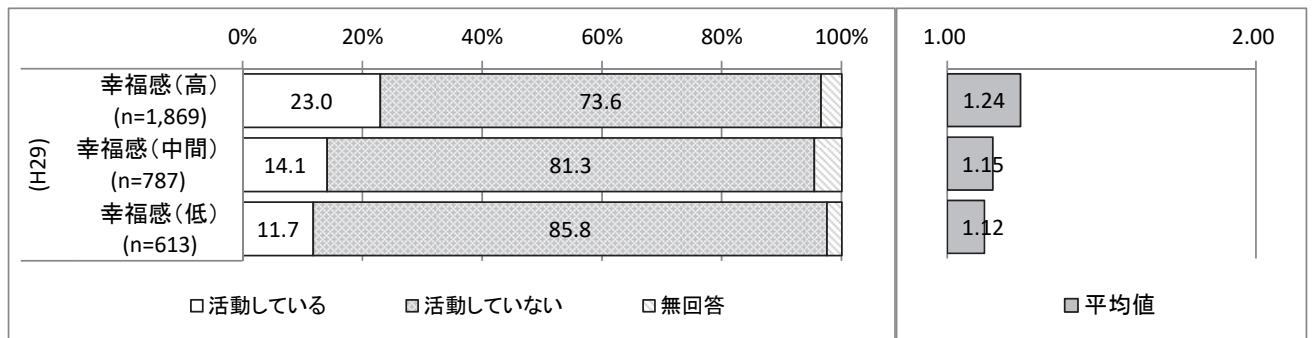


図 38 ボランティア・NPO・市民活動への参加状況

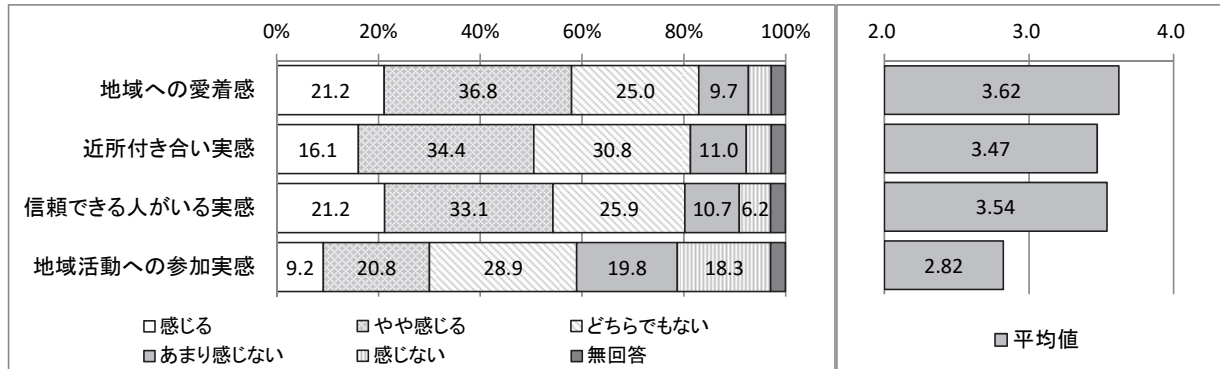


(3) ソーシャル・キャピタルに対する実感

① 県全体

地域への愛着感が高く、地域活動への参加実感が低い傾向がみられた。

図 39 ソーシャル・キャピタルに対する実感



② 属性別結果

60歳代、70歳以上で高い傾向がみられた。

表 6 ソーシャル・キャピタルに対する実感（属性別）

項目	県平均値	男性	女性	18~19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①地域への愛着感	3.62	3.66	3.59	3.70	3.50	3.41	3.44	3.49	3.69	3.88
②近所付き合い実感	3.47	3.44	3.49	3.34	3.12	3.12	3.17	3.36	3.59	3.86
③信頼できる人がいる実感	3.54	3.49	3.58	3.89	3.63	3.41	3.33	3.38	3.55	3.80
④地域活動への参加実感	2.82	2.88	2.77	2.77	2.38	2.43	2.57	2.80	3.02	3.07

※5段階評価の平均値。県平均より高い数値に網掛けをしている。

(4) 主観的幸福感等との相関

ソーシャル・キャピタルに対する実感と、主観的幸福感及び領域別実感との間に一定の相関がみられた。
また、ソーシャル・キャピタルとその実感の間に相関がみられた。

表7 主観的幸福感等とソーシャル・キャピタルに対する実感の相関

	主観的幸福感	領域別実感														生活満足度	地域への愛着感	近所付き合い実感	信頼できる人がいる実感	地域活動等への参加実感
		仕事のやりがい	必要な収入	住まいの快適さ	地域の安全	余暇の充実	健康	心身の健康	子育て	自身の学習	子どもの教育	家族関係	地域社会とのつながり	歴史・文化への誇り	ゆたかさ					
地域への愛着感	0.30	0.29	0.21	0.32	0.27	0.28	0.22	0.25	0.31	0.30	0.21	0.43	0.44	0.31	0.25	0.26	1.00			
近所付き合い実感	0.25	0.21	0.16	0.28	0.26	0.24	0.24	0.25	0.28	0.28	0.22	0.49	0.31	0.26	0.21	0.19	0.57	1.00		
信頼できる人がいる実感	0.31	0.25	0.18	0.24	0.24	0.29	0.26	0.25	0.26	0.25	0.26	0.40	0.33	0.25	0.17	0.21	0.51	0.60	1.00	
地域活動への参加実感	0.25	0.26	0.18	0.21	0.16	0.28	0.25	0.25	0.33	0.27	0.18	0.46	0.34	0.20	0.16	0.20	0.46	0.55	0.52	1.00

表8 ソーシャル・キャピタルとその実感の相関

ソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタルに対する実感	相関係数
隣近所とのつきあいの程度	近所付き合い実感	0.59
隣近所と付き合っている人の数		0.52
一般的な人への信頼	信頼できる人がいる実感	0.32
地縁的な活動への参加状況	地域活動への参加実感	0.51
ボランティア・NPO・市民活動への参加状況		0.47

「岩手の幸福に関する指標」研究会報告書 別冊参考資料

発 行 平成 29 年 9 月

発行者 「岩手の幸福に関する指標」研究会

事務局 岩手県政策地域部政策推進室

TEL 019-629-5181 FAX 019-629-5254